

かみ とよ おか ひき ま い せき

上豊岡引間遺跡 6

ー東京ガス埋設工事建設に伴う埋蔵文化財発掘調査ー

2010

高崎市教育委員会

高崎市文化財調査報告書第263集

上 豊 岡 引 間 遺 跡 6

— 東京ガス埋設工事建設に伴う埋蔵文化財発掘調査 —

2 0 1 0

高崎市教育委員会



道跡遠景 / 北西から



道跡遠景 / 南東から



4号住居出土遺物



11号住居出土遺物



22号住居出土遺物



26号住居出土遺物

例 言

1. 本書は群馬県高崎市上豊岡町 982 番地ほかの所在する上豊岡引間遺跡第 6 次調査の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は東京ガス株式会社群馬幹線建設事務所によるガス管敷設工事に伴う事前の記録保存を目的として、高崎市教育委員会指導・監理のもと有限会社歴史考房まほらが実施した。調査対象面積は約 875 m²である。
3. 発掘調査から本書刊行に至る経費は、東京ガス株式会社が負担した。
4. 発掘調査、整理調査に係る詳細は以下のとおりである。
 - ・調査主体、指導監督員：高崎市教育委員会文化財保護課 田口一郎・須田奈保子・角田真也
 - ・発掘調査期間：①平成 20 年 9 月 24 日 ～ 平成 20 年 11 月 21 日
②平成 21 年 8 月 20 日 ～ 平成 21 年 9 月 18 日
 - ・発掘調査担当者：①大崎崎泰明・澤田福宏（有限会社歴史考房まほら）
②笠原仁史・澤田福宏（有限会社歴史考房まほら）
 - ・整理調査期間：平成 21 年 12 月 1 日 ～ 平成 22 年 1 月 31 日
 - ・整理作業担当者：笠原仁史 / 埴輪整理作業：中里正憲
5. 本書の執筆は I を田口一郎（高崎市教育委員会）が、その他を笠原仁史が担当し、編集は笠原仁史が担当した。
6. 発掘調査・整理作業に際し、作業の一部を下記のとおり委託した。
 - ・基準点測量・遺構図（平面・断面）作成：田中隆明・山際哲章・村田優子
 - ・ラジヘリ空撮：加藤空撮
 - ・自然科学分析：早田勉（株式会社火山灰考古学研究所）
 - ・石器実測・遺物実測図デジタルトレース：山崎芳春
 - ・遺物写真撮影：山際哲章
7. 発掘調査、整理作業に従事した作業員は以下のとおりである。（50 音順・敬称略）
 - ・発掘調査：①石曾根三枝・金谷俊夫・栗原静江・猿谷三枝子・静野佳春・堀井エミ子・宮田節治・湯浅洋子
②岡田広志・小田利光・佐藤貞夫・鈴木実・森鐵
 - ・整理作業：板垣陽子・川島かおり・栗山佐江子・高橋実果・吉田実加・渡辺由美
8. 発掘調査から報告書刊行に至るまで下記の諸氏・諸機関に御助言・御指導・御協力を賜りました。（順不同・敬称略）
坂口一・若狭徹・角田真也・笠原正行・東京ガス株式会社群馬幹線建設事務所・有限会社高澤考古学研究所・山下工業株式会社・文化財整理こうけん
9. 発掘調査資料・出土遺物等、本調査に関する全ての資料は高崎市教育委員会において保管・管理されている。

凡 例

1. 本書に使用した地図は、国土地理院発行『数値地図 25000 (地図画像) 宇都宮』(平成 15 年 11 月 1 日発行 2 刷)、『数値地図 25000 (地図画像) 長野』(平成 19 年 8 月 1 日発行 1 刷)、高崎市都市計画基本図 (1/2500) である。
2. 掲載図の方位は座標北方向を、水準値は標高を示す。座標は世界測地系を使用した。
3. 本書の遺構掲載図縮尺は各図に示したとおりである。遺物掲載図縮尺は土器類 1/3、埴輪 1/4、石製品 1/1、鉄製品 1/2 を基本とし、これと異なるものについては図中に縮尺を示した。また、遺物写真は掲載図に準じる縮尺で掲載した。
4. 本書に記載した遺構名は発掘調査時に付したものをを使用した。各遺構の略称、遺物注記は下記のとおりである。
古墳＝SZ / 住居＝SI / 土坑＝SK / 溝＝SD / 井戸＝SD / ビット＝P / 不明＝SX
5. 整理に際し、グリッドは左下 (南西) を原点としてグリッド名を付した。
6. 遺物観察表の色調は『標準土色帖』(財団法人日本色彩研究所色票監修)を用いた。
7. 本書に使用したテフラの表記は以下のとおりである。
As-A：浅間A (天明) / As-Kk：浅間粕川軽石 / As-B：浅間B (天仁) / Hr-FA：榛名二ツ岳渋川
As-C：浅間C
8. 遺物断面図における割れ口表現につて、接合部分で欠けたと判断される場合は形状を、それ以外は記号表現「m」とした。
9. 図中で使用したスクリーントーン、グレースケール等は以下のとおりである。

遺 構				遺 物					
	焼土		炭・炭化物		灰釉		朱		須恵器(断面)
	粘土		火山灰		付着物		内黒		灰釉陶器(断面)

目 次

例言・凡例

目 次

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の立地と環境	1
III 調査の方法と経過	1
IV 基本層序	4
V 検出された遺構と遺物	9
(1) 古墳 (SZ)	9
(2) 住居 (SI)	13
(3) 集石遺構・土坑・ピット (SX・SK・P)	54
(4) 溝 (SD)	59
(5) 井戸 (SE)	65
(6) 性格不明遺構 (SX)	66
(7) 工事立会、遺構外の出土遺物	68
VI まとめ	90
VII 自然科学分析	92

写真図版

抄 録

挿 図 目 次

Ⅱ 道路の立地と環境			
第 1 図 道路位置図	2	第 3.0 図	11 号住居遺物出土状況図、及び 11 号住居出土遺物
第 2 図 道路周辺図	3	第 3.1 図	11 号住居出土遺物 2
		第 3.2 図	11 号住居出土遺物 3
		第 3.3 図	11 号住居出土遺物 4
		第 3.4 図	12 号住居、及び出土遺物
Ⅲ 調査の方法と経過		第 3.5 図	14-15 号住居、及び 14 号住居出土遺物
第 3 図 基本土層図、道路全体図	5	第 3.6 図	14-15 号住居出土遺物
		第 3.7 図	16-18 号住居、及び出土遺物
V 検出された遺構と遺物		第 3.8 図	17 号住居、及び出土遺物
第 4 図 遺構配置図 1	6	第 3.9 図	20 号住居、及び出土遺物 1
第 5 図 遺構配置図 2	7	第 4.0 図	20 号住居出土遺物 2
第 6 図 遺構配置図 3	8	第 4.1 図	21 号住居、及び出土遺物
第 7 図 1 号墳	9	第 4.2 図	22 号住居、及び出土遺物
第 8 図 1 号墳出土遺物 1	10	第 4.3 図	23-24 号住居、及び 23 号住居出土遺物
第 9 図 1 号墳出土遺物 2	11	第 4.4 図	24 号住居出土遺物
第 1.0 図 1 号墳出土遺物 3	12	第 4.5 図	25 号住居、及び出土遺物 1
第 1.1 図 1 号墳出土遺物 4	13	第 4.6 図	25 号住居出土遺物 2
第 1.2 図 1 号住居、及び出土遺物	14	第 4.7 図	26 号住居、及び出土遺物 1
第 1.3 図 2 号住居	15	第 4.8 図	26 号住居出土遺物 2
第 1.4 図 2 号住居出土遺物	16	第 4.9 図	27 号住居、及び出土遺物
第 1.5 図 3 号住居出土遺物	17	第 5.0 図	集石遺構、1-2・6 号土坑
第 1.6 図 3 号住居	18	第 5.1 図	4-5・7・8・10・17 号土坑、3 号ピット
第 1.7 図 4 号住居、及び出土遺物 1	19	第 5.2 図	11 ～ 16・19・20 号土坑、1-2 号ピット
第 1.8 図 4 号住居出土遺物 2	20	第 5.3 図	土坑出土遺物
第 1.9 図 4 号住居出土遺物 3	21	第 5.4 図	1-2 号溝、及び出土遺物
第 2.0 図 5 号住居、及び出土遺物 1	22	第 5.5 図	3 ～ 8 号溝
第 2.1 図 5 号住居遺物出土状況図、及び出土遺物 2	23	第 5.6 図	9 号溝、1 ～ 9 号井戸
第 2.2 図 5 号住居出土遺物 3	24	第 5.7 図	9 号溝、1 ～ 9 号井戸土層断面
第 2.3 図 6 号住居、及び出土遺物	25	第 5.8 図	10 号溝、及び 9・10 号溝出土遺物
第 2.4 図 7 号住居、及び出土遺物	26	第 5.9 図	井戸出土遺物
第 2.5 図 8・13 号住居	27	第 6.0 図	2 号不明遺構、及び出土遺物
第 2.6 図 8 号住居出土遺物	28	第 6.1 図	3 号不明遺構、及び出土遺物
第 2.7 図 8・13 号住居出土遺物	29	第 6.2 図	工事立会結果略図、及び出土遺物
第 2.8 図 9・19 号住居、及び 9 号住居出土遺物	31	第 6.3 図	遺構外出土遺物
第 2.9 図 10-11 号住居、及び 10 号住居出土遺物	32		

写真図版目次

巻頭 1 遺跡位置	PL-11	20 号住居、20 号住居カマド、20 号住居遺物出土状況、
巻頭 2 4 号住居出土遺物、11 号住居出土遺物		20 号住居カマド遺物出土状況、20 号住居厨り方、21 号住居、
巻頭 3 22 号住居出土遺物、26 号住居出土遺物		21 号住居遺物出土状況
PL-1 1 号墳、1 号墳遺物出土状況	PL-12	21 号住居遺物出土状況、21 号住居厨り方、22 号住居、
PL-2 1 号墳遺物出土状況、1 号墳東証部		22 号住居遺物出土状況、23 号住居カマド、24 号住居
PL-3 遺跡全景（西南部）、遺跡全景（北部）、1 号住居	PL-13	24 号住居の竈穴、24 号住居厨り方、25 号住居、25 号住居遺物
PL-4 1 号住居 No. 41 出土状況、2 号住居、2 号住居遺物出土状況、		出土状況、25 号住居厨り方、26 号住居遺物出土状況
2 号住居厨り方、3 号住居、3 号住居遺物出土状況、	PL-14	26 号住居遺物出土状況、27 号住居、27 号住居カマド、
3 号住居厨り方、4-5 号住居		27 号住居厨り方
PL-5 4 号住居梯子穴、4 号住居遺物出土状況、4 号住居 No. 81 出土	PL-15	集石遺構、集石遺構断面、1 号土坑、2 号土坑、6 号土坑、
状況、5 号住居、5 号住居 P-1、5 号住居 P-2		7 号土坑、8 号土坑、9-10 号土坑
PL-6 5 号住居遺物出土状況、6 号住居、6 号住居厨り方	PL-16	11 号土坑遺物出土状況、11 号土坑、12 号土坑遺物出土状況、
PL-7 7 号住居、11 ～ 16 号土坑、7 号住居石製品出土状況、8 号		12 号土坑、13 号土坑、14 号土坑、15 号土坑、16 号土坑
住居、8 号住居遺物出土状況、8 号住居厨り方、9-19 号住	PL-17	17 号土坑、18 号土坑、19 号土坑、20-21 号土坑
PL-8 9 号住居遺物出土状況、9-19 号住居厨り方、10-11 号住居、		1 号ピット、2 号ピット、3 号ピット、1-2 号溝
10-11 号住居遺物出土状況、10 号住居、10 号住居厨り方、	PL-18	3-5 号溝（竈）、6 号溝、9 号溝・1 ～ 9 号井戸
11 号住居、11 号住居遺物出土状況	PL-19	9 号溝・1 ～ 9 号井戸、10 号溝、9 号溝・1 号井戸土層断面、
PL-9 11 号住居カマド付近遺物出土状況、11 号住居カマド、		2 号不明遺構、3 号不明遺構、作業風景
11 号住居竈穴付近遺物出土状況、11 号住居竈穴、	PL-20	
11 号住居厨り方、12 号住居、13 号住居	/	各遺構出土遺物
PL-10 14 号住居、14 号住居遺物出土状況、14 号住居からかけ出土	PL-41	
状況、15 号住居、15 号住居厨り方、16-18 号住居、17 号住居、		
17 号住居厨り方		

I 調査に至る経緯

平成 19 年 12 月、東京瓦斯株式会社群馬幹線建設事務所（以下事業者）より高崎市教育委員会（以下市教委）にガス管理工事予定地の埋蔵文化財の状況について照会があった。

市教委は、該当地が弥生時代～中世にかけての散布地として遺跡台帳・地図に登録された埋蔵文化財包蔵地（上豊岡・引間遺跡）であるため、工事と埋蔵文化財保護との調整が必要な旨を回答した。

工事と保存方法のについての協議は、道路下で埋設工事が幅 1 ～ 1.5 m 程度と狭い範囲であることから試掘調査は不可能であり、既設管の埋め換え部分については立会調査に、新設部分と烏川下の推進工に伴う立坑部分については、立会の結果もふまえて発掘調査を実施することで合意された。

事業者より文化財保護法第 93 条の届出を受けて、立会調査は平成 20 年 6 月に工事の工程に合わせて断続的に実施し、弥生～古墳時代の遺構・遺物が確認され記録に残した。

北側の新設・立坑部分については、立会調査に引き続き 9 月から 11 月に発掘調査を実施するが（第 1 次）、南側の東西道路部分が舗装の撤去や生活道路としての機能維持から、工事着手直前の平成 21 年 4 月に実施する（第 2 次）こととなった。

発掘調査は、市教委の作成する調査仕様書に基づく指導・監視の下、有限会社歴史考房まほらに委託して実施することとなり、平成 20 年 9 月 12 日付けで高崎市長・事業者・歴史考房まほらの三者協定を締結し、さらに協定に基づき平成 20 年 9 月 22 日付けで事業者と歴史考房まほらの二者で発掘調査委託契約が締結された。

II 遺跡の立地と環境（第 1・2 図）

本遺跡は市街地の北西、群馬県高崎市内上豊岡町地内に所在する。地形的には秋間丘陵の東部、烏川と碓氷川に挟まれた八幡・豊岡台地（上豊岡引間Ⅳ遺跡、高崎市教育委員会高崎市遺跡調査会、1997 参照）に位置し、烏川によって形成された右岸段丘面上に立地する。

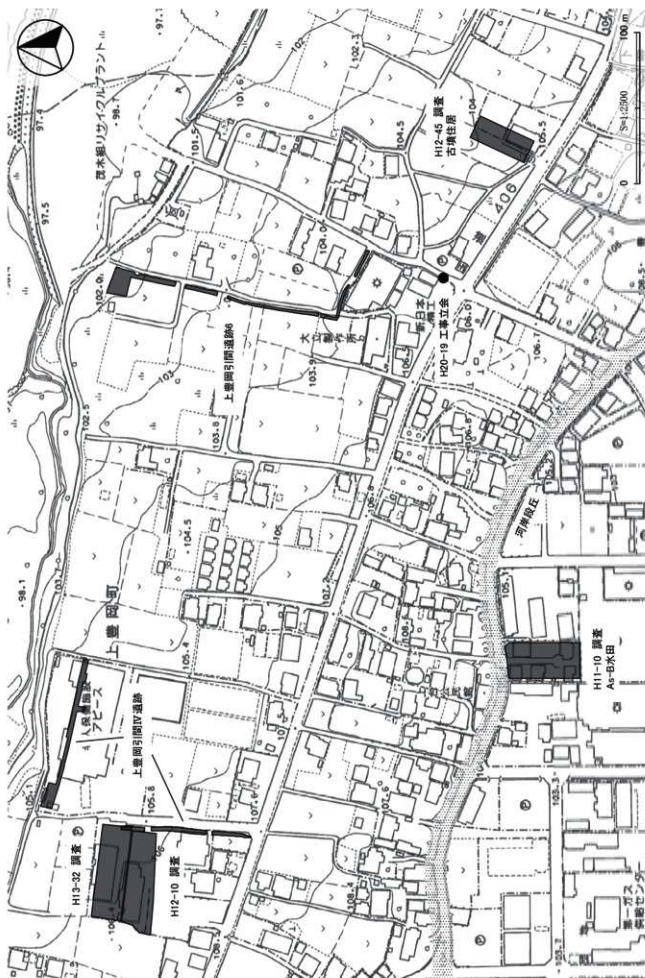
本遺跡と同じ段丘面に隣接する範囲には上豊岡引間Ⅳ遺跡（2）、引間Ⅰ・Ⅴ遺跡（3・4）・引間Ⅱ・Ⅲ遺跡（5・6）、豊岡後原Ⅰ・Ⅱ遺跡（9）が、烏川を挟む対岸（左岸）には幅遺跡（11）、上並榎南遺跡（12）、上並榎遺跡（13）が分布しており、弥生時代後期から古墳時代にかけて烏川両岸に集落が広い範囲に展開していることが見てとれる。

さらに、集落遺跡の外縁部にあたる秋間丘陵上には国指定史跡観音塚古墳（A）・平塚古墳（B）・二子山古墳（C）・剣崎天神山古墳（F）が、碓氷川右岸の観音山丘陵には少林山台古墳群（G）が、烏川左岸には小星山古墳（H）・上並榎稲荷山古墳（I）・六郷村6号墳（J）が分布しており、この地域が古墳時代に大きく繁栄していたことが窺える。また、引間Ⅰ遺跡2号墳（K）石室から「和銅開珎」が出土しており、特殊な地域であったことが考えられる。

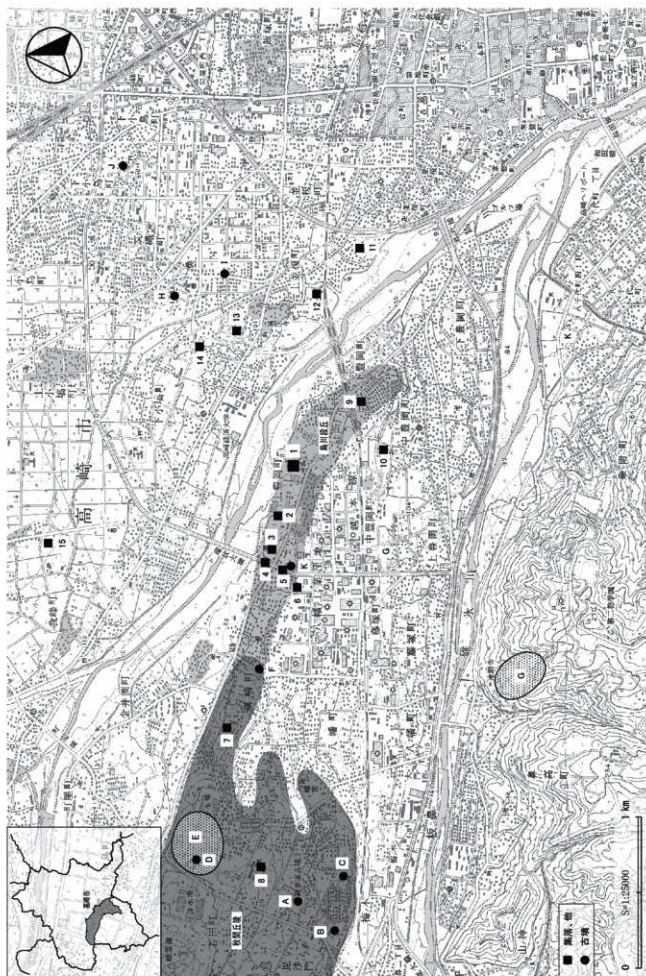
III 調査の方法と経過（第 3 図）

発掘調査はガス管敷設箇所を調査対象とし、総延長約 200 m、幅 1 ～ 4 m 程のトレンチ状を成す範囲について調査を行った。しかし、調査区域のほとんどが既存道路や畑地に隣接していたため、遺構確認面が深さ 1 m を超えた範囲については、安全確保の観点から中間に幅 30 cm 程の段差を設けた段掘りの方法を採用した。

調査は工事工程に即して期間を大きく2回に分けて実施した。1 回目は南北方向に延びる既存道路拡幅部分を対象に平成 20 年 9 月 24 日～平成 20 年 11 月 21 日に、2 回目は南端部の東西に延びる既存道路部分を対象に平成 21 年 8 月 24 日～平成 21 年 9 月 18 日に実施した。



第1図 道路位置図



第2図 遺跡周辺図

周辺道路一覧表

1 上豊岡引間道路 6	2 上豊岡引間IV道路	3 引間V道路	4 引間I道路	5 引間II道路	6 引間III道路
7 剣崎稲荷塚道路	9 八幡中塚道路	9 豊岡後原I・II道路	10 根津陣屋路	11 稲道路	12 上並根南道路
13 上並根道路	14 北海道道路	15 兼原道路			
A 観音塚古墳	B 平塚古墳	C 二子山古墳	D 長瀬西古墳	E 長瀬西古墳群	F 剣崎天神山古墳
G 少林山古墳群	H 小堀山古墳	I 上並根稲荷山古墳	J 六郭村6号墳	K 引間道路2号墳	

遺構調査は、いずれも重機で遺構確認面まで掘り下げ、手作業によって遺構覆土を除去した。なお、9号溝は規模が大きく、出土遺物が見当たらないため上半部を重機によって掘り下げた。また、3～8号溝については調査区を直線的に横断する走行を示していたことから、調査区壁面において確認するに止めた。

調査の工程は以下のとおりであるが、その過程において各情報は写真および図面に記録した。

調査経過概要 (1回目:平成20年9月24日～平成20年11月21日 / 2回目:平成21年8月24日～平成21年9月18日)

● 1回目

平成20年9月24日:調査着手 重機による表土掘削開始 安全対策 器材搬入

9月30日:表土掘削終了

9月30日:作業員投入 遺構確認作業開始

10月1日:遺構調査開始

10月7日:測量、遺構測図開始

10月9日:表土掘削再開

10月11日:ラジヘリ空撮(1回目)

10月16日:表土掘削終了

11月13日:自然科学分析(土壌サンプリング)

11月11日:ラジヘリ空撮(2回目)

11月21日:調査終了

11月22日:調査区埋め戻し 機材撤収

● 2回目

平成21年8月24日:調査着手 重機による表土掘削(東側) 安全対策 遺構調査開始

8月25日:古墳調査開始

8月26日:測量、遺構測図開始

9月3日:東側埋め戻し、表土掘削再開(東端部)

9月7日:既設下水管仮付替え工事(西側)

9月8日:表土掘削再開(西側)

9月9日:表土掘削終了(西側)

9月10日:遺構調査、遺構測図再開

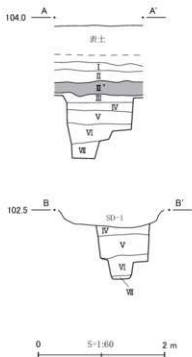
9月17日:遺構調査終了 高崎市終了確認 埋め戻し開始

9月18日:埋め戻し終了 器材撤収 全ての作業終了

IV 基本層序(第3図、Ⅶ 自然科学分析)

本遺跡の基本層序は調査区壁面で観察した。総体的に表土はAs-A含有砂質土(Ⅰ)で、下方に向かってAs-Kk含有層→As-B含有砂質土(Ⅱ)→As-B純層(Ⅱ')→Hr-FA含有層(Ⅲ)→As-C含有層(Ⅳ)→ローム漸位層(Ⅴ)→高崎泥流(Ⅶ)という堆積が認められた。南北に長い調査区にあって堆積状況に大きな変化は認められないが、北端部の鳥川に接する地区でやや水成味を帯びた色相が窺えた。断面観察から主要遺構が掘り込まれている層はⅣ層であるが、実際に遺構確認できた面はⅤ層上面である。

全体的に南から北(鳥川)に向かって緩やかに傾斜する高崎泥流を基盤とする台地が形成されているが、安定し



基本土層土層注記

I. 主に、黄褐色砂質土、小礫、火山灰少量含有

As-A混土

II. 黒褐色砂質土 As-B混土

II'. As-B混土

II''. As-B少量含有

III. 褐色 火山灰・軽石含有 Hr-FA泥流

III' 黒褐色 Hr-FA・黄色粒少量含有

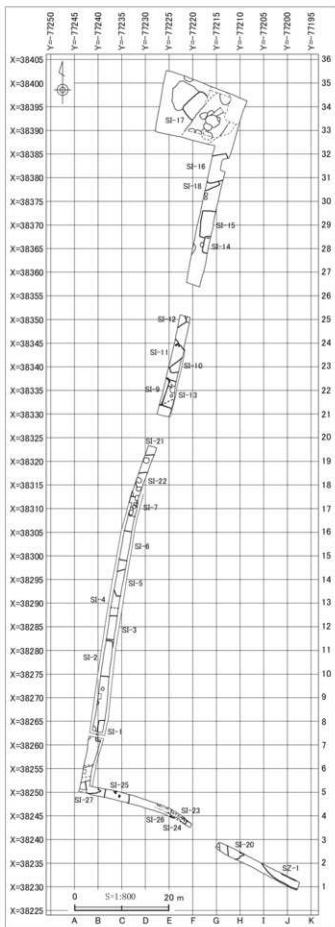
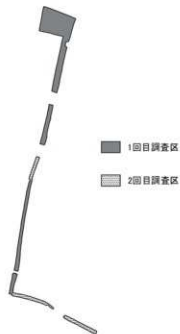
IV. 黒褐色 炭・As-C少量含有 遺構確認面

IV' 黒色 As-C少量、黄色粒微量含有

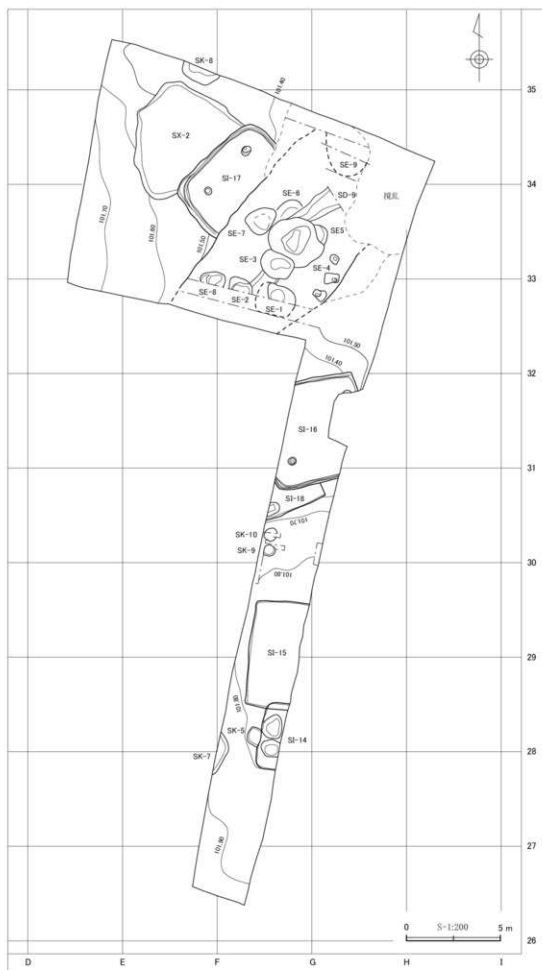
V. 暗褐色 漸位層

VI. 黒褐色 赤色粒微量含有

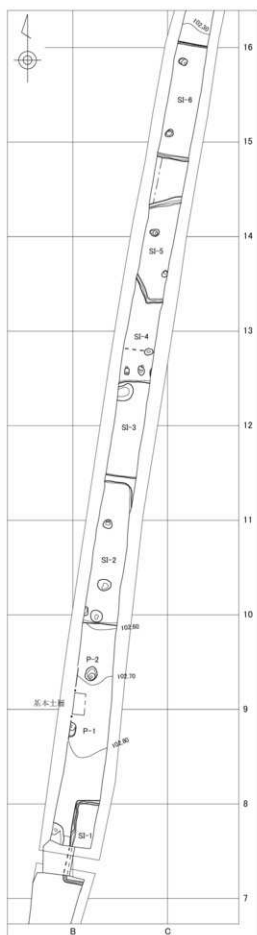
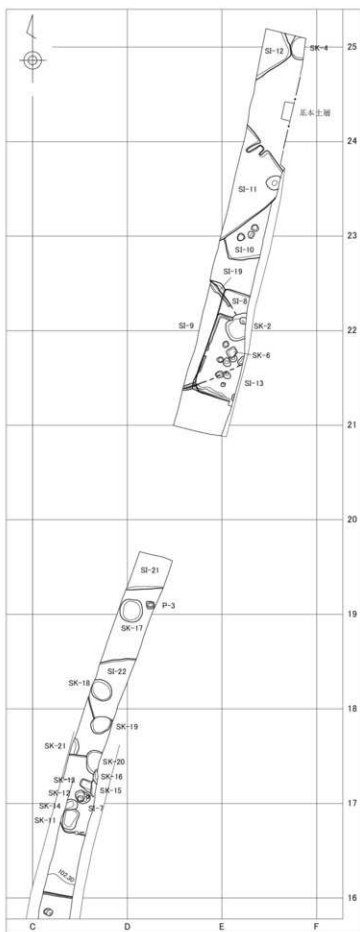
VII. 黄褐色 しゅう有 軽石少量含有 高崎泥流



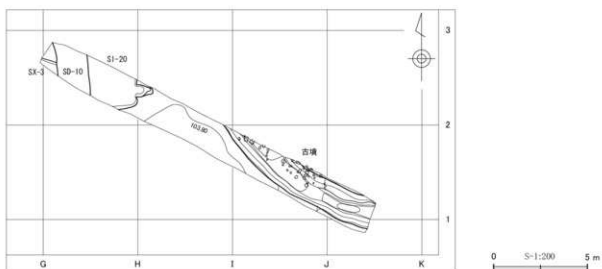
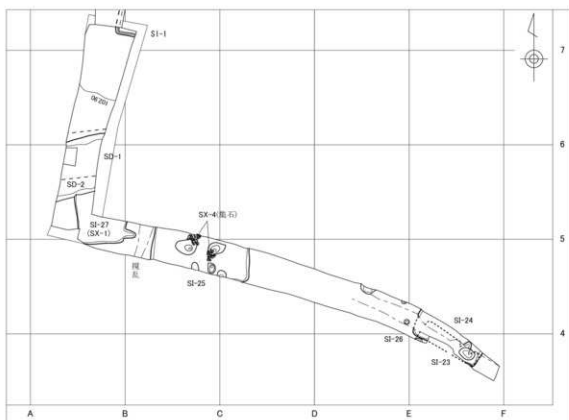
第3図 基本土層図、遺跡全体図



第4図 遺構配置図1



第5図 遺構配置図2



第 6 図 遺構配置図 3

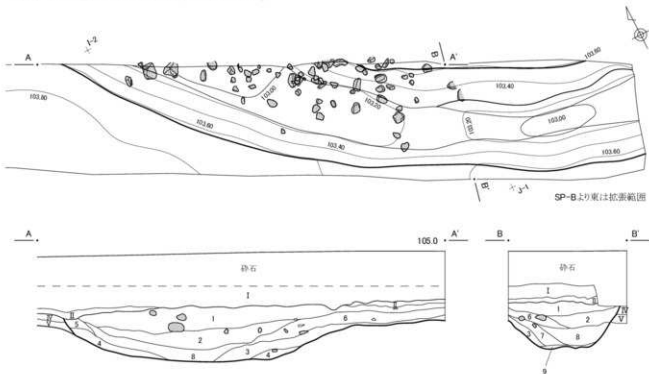
たローム堆積層は認められない。おそらく段丘形成時に烏川の影響を大きく受けた結果と考えられ、その後段丘面全体に亘って集落が進出、拡大していったことが想像される。

V 検出された遺構と遺物 (第6・7図、巻頭1・PL3)

(1) 古墳 (SZ)

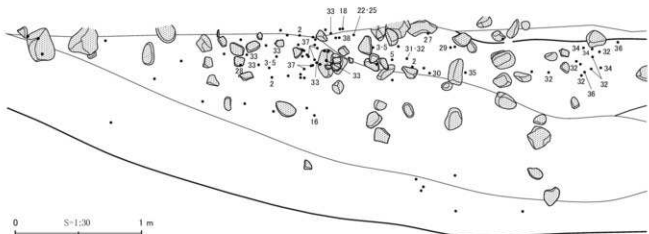
1号墳 (SZ-1) (第6～9図、第3表、PL1・2・20～22)

位置 調査区南東部、グリッドI-1～J-1に位置する。**周堀** 幅2m程の狭い調査区のため当然のことながら全容は判明していないが、確認長9.2×上幅1.7：下幅0.9×深さ0.7m程を測る断面逆台形を成す周堀が弧状に検出された。墳丘部の推定規模は径20～25mを測る。**覆土** 礫多量、焼土・炭化粒少量含有の黒褐色土を主体とする自然堆積と判断される。東端部底面に整地と思われるローム主体の水平堆積が認められる。**遺物** 墳丘は確認されていないが、堀内から崩落した葺石と考えられる頭大の礫や埴輪片が多量に出土した。掲載遺物39点。**時期** 出土遺物から6世紀前半と考えられる。

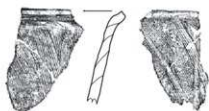
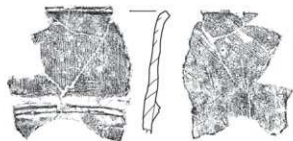
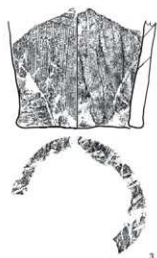
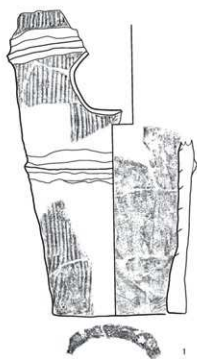


SZ-1 土層説明

1. 黒褐色 粘性・しまり中 白色軽石やや多く、焼土粒・炭化粒少量、礫・遺物多量含有
2. 黒褐色(白濁より色濃黒い) 粘性・しまり中 礫・遺物多量含有
3. 明褐色 粘性・しまり中 焼土粒・炭化粒・ローム小ブロック少量含有
4. 褐色 粘性・しまり中 ローム小ブロック・ローム粒多量含有
5. 黒褐色 粘性・しまり中 白色軽石やや多く、焼土粒・炭化粒少量含有
6. 黒褐色 粘性・しまり中 白色軽石・焼土粒・炭化粒やや多く、礫・遺物多量含有
7. 黒褐色 粘性・しまり中 白色軽石・焼土粒・炭化粒やや多く、ローム小ブロック少量、礫・遺物多量含有
8. 黒褐色 粘性・しまり中 焼土粒・炭化粒少量、ローム小ブロック少量含有
9. 暗褐色 粘性やや強、しまり中 ローム小ブロックやや多く含有 扇床的2次堆積(底面整地)



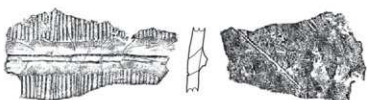
第7図 1号墳



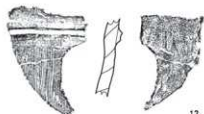
第8图 1号出土文物1



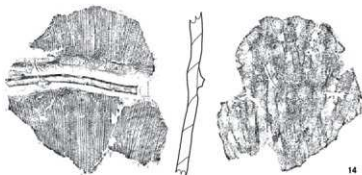
11



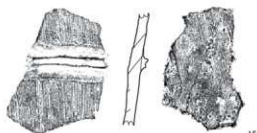
12



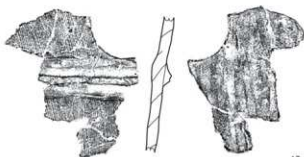
13



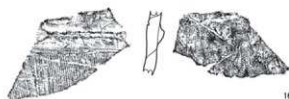
14



15



17



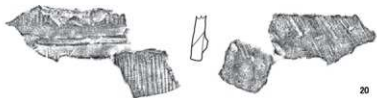
16



18



19



20



23



21

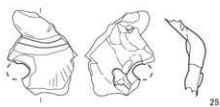


22

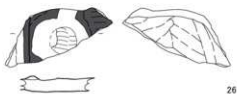


24

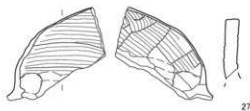
第9图 1号出土文物2



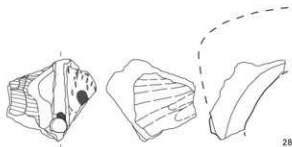
25



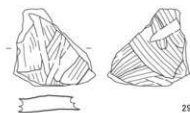
26



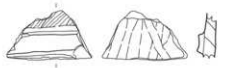
27



28



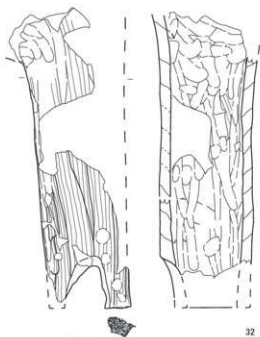
29



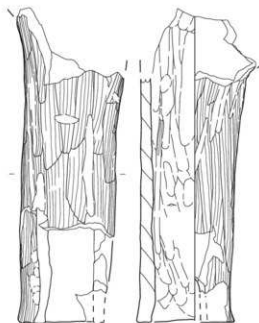
30



31

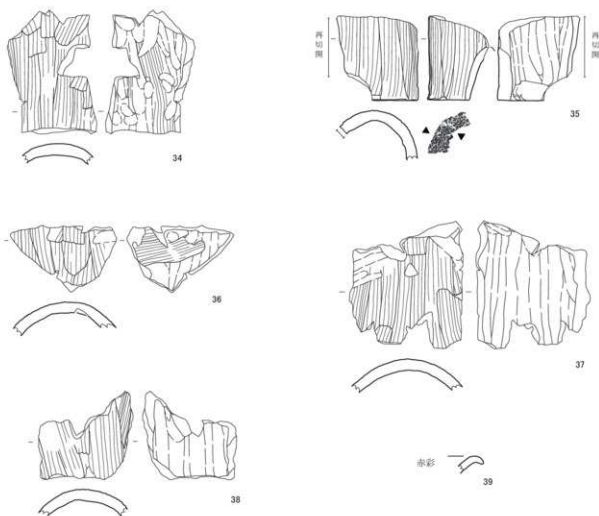


32



33

第 10 图 1 号填出土遗物 3



第11図 1号墳出土遺物4

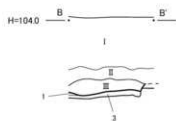
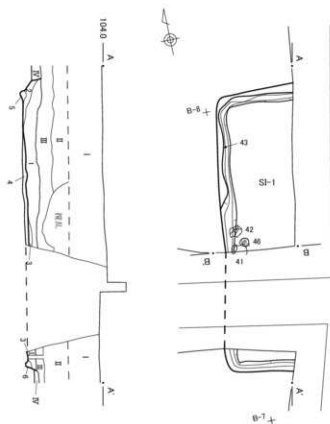
(2) 住居 (SI)

1号住居 (SI-1) (第5・12図、第3表、PL3・4・22)

位置 調査区南西部、グリッドA-7～B-7に位置する。**形状・規模** 東部が調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸N-12°-E、南北4.6×東西1.2m、深さ35cm程を測る。**覆土** 炭化粒微量含有の暗褐色土を主体とする自然堆積である。**床** 床面は部分的に黄褐色粘質土の貼床で構築されている。**遺物** 床面付近から完形土器・破片が数十点出土した。掲載遺物7点。**時期** 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。**備考** 炉・柱穴・周溝等は確認されなかった。

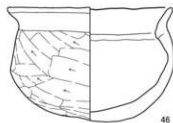
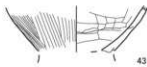
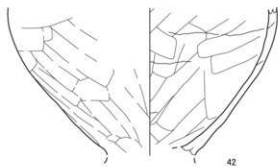
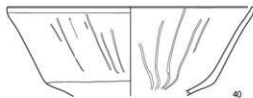
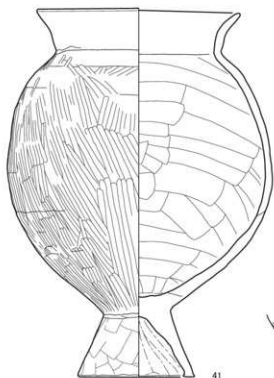
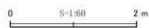
2号住居 (SI-2) (第5・13・14図、第3表、PL4・23)

位置 調査区南寄り、グリッドB-10～B-11に位置し、3号住居の南に隣接する。**形状・規模** 東西とも調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸N-2°-W、南北7.6×東西1.8m、深さ59cm程を測る。**覆土** 焼土・炭化粒含有の黒褐色土を主体とする自然堆積である。**床** 床面は部分的にローム含有土の固く締まった貼床で構築されている。**柱穴** 東壁に沿うように南北方向に並列して径70×深さ60cm程のピットが2基、南壁際に同規模のピットが1基確認された。また、調査区西壁に梯子状の入口施設が想定される斜めに掘り込まれた径50×深さ70cm程のピットが確認された。**遺物** 床面付近から土器片が多量に出土した。掲載遺物15点。**時期** As-C 拡充の畝状遺構の下方に検出されたこと、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。**備考** 炉・周溝等は確認されなかった。

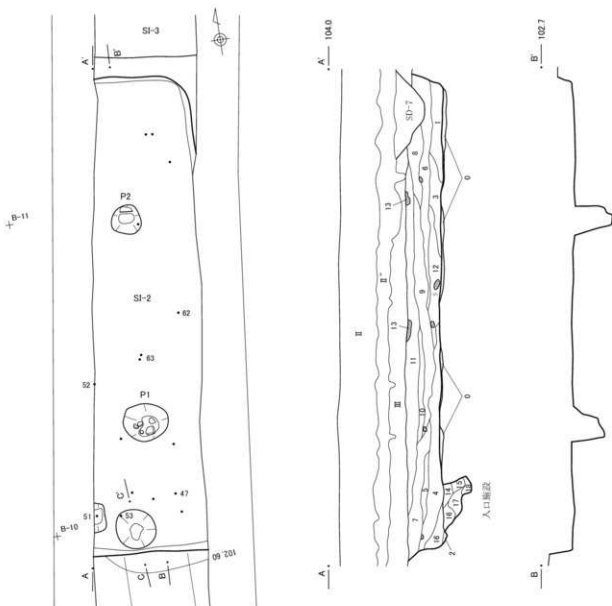


SI-1 土層説明

1. 暗褐色 黄色粒・炭微量含有
2. 黒褐色 やや粘質
3. 黒褐色 ロームブロック微量含有
4. 黄褐色粘質土 貼床
5. 黒褐色 ロームブロック微量含有
6. 黄褐色粘質土



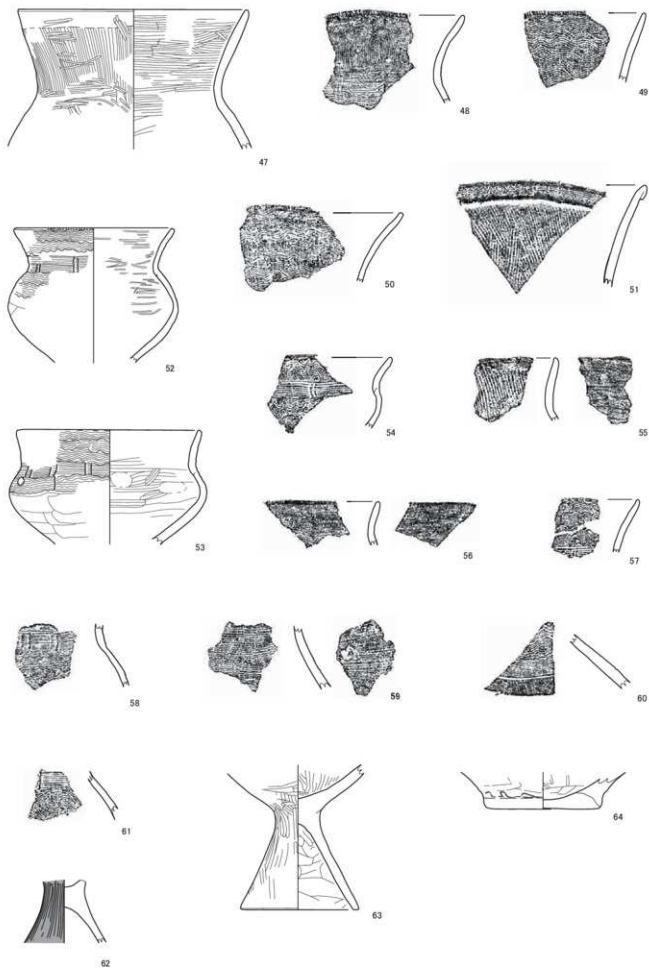
第12図 1号住居、及び出土遺物



SI-2 土層説明

0. 褐色 固くしまる ローム粒・ロームブロック多量含有 床土
1. 黒色 粘性やや有、しまり有 黄色バミス・ロームブロック少量含有
2. 1同様
3. 黒色 粘性やや有、しまり有 炭化粒・焼土粒少量、黄色バミス含有
4. 黒色(やや暗色) 3同様
5. 黒褐色 粘性やや有、しまり有 黒色土ブロック・黄色バミス・炭化粒少量含有
6. 黒褐色 粘性やや有、しまり有 黒色土ブロック多量、白色軽石少量、炭化粒・焼土粒含有
7. 6同様
8. 黒褐色 粘性やや有、しまり有 黄色バミス・炭化粒少量含有
9. 黒色 粘性やや有、しまり有 黄色バミス・炭化粒少量、ローム・黒色土ブロック多量含有
10. 黒褐色 粘性やや有、しまり有 炭化粒・焼土粒少量、黄色バミス含有
11. 黒色 粘性やや有、しまり有 黄色バミス・炭化粒少量含有
12. 4とはほぼ同じ(ややより黒色)
13. 灰色火山灰(2よりやや暗色) As-Cのほぼ純層 鉄覆土
14. 褐色 粘性有、しまり無 ロームブロック多量含有
15. 暗褐色 粘性・しまり有 ロームブロック多量含有
16. 黒褐色 粘性・しまり有
17. 暗褐色 粘性・しまり有 ローム粒含有
18. 明(白)褐色 粘性・しまり有

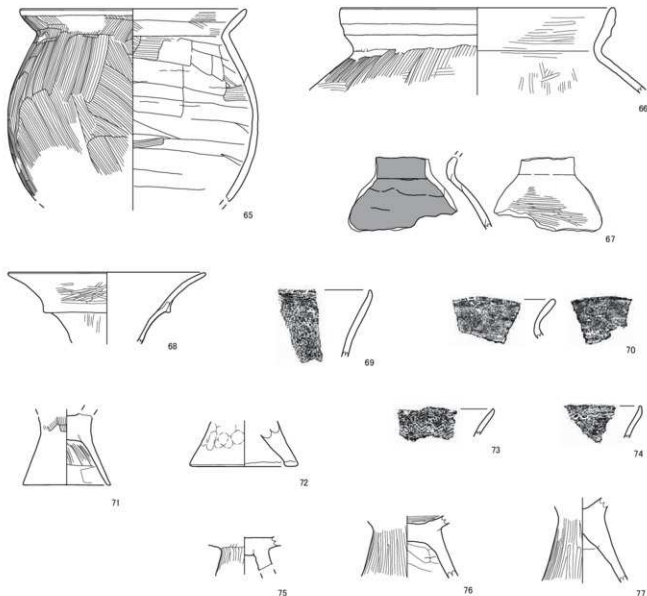
第13図 2号住居



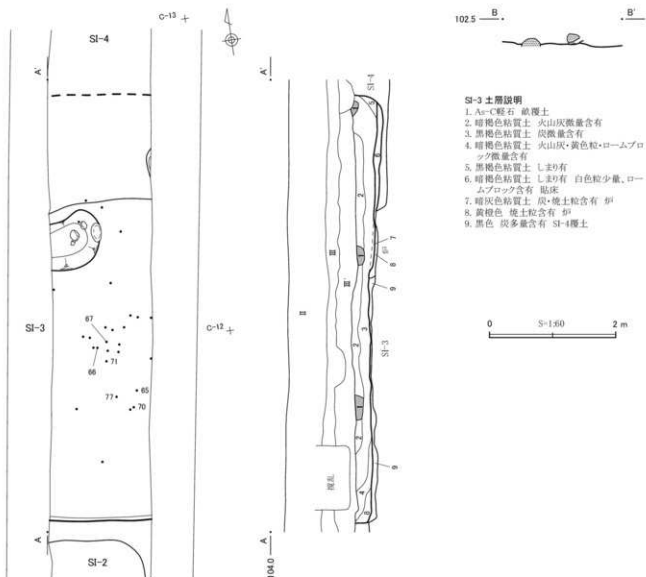
第 14 图 2 号住居出土遺物

3号住居 (SI-3) (第5・15・16図、第3表、PL4・23)

位置 調査区南寄り、グリッド B-11 ~ B-12 に位置する。2号住居の北に隣接する。**形状・規模** 東西とも調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-8°-E、南北 6.8 × 東西 1.6 m、深さ 38 cm 程を測る。**重複遺構** 北部で重複する4号住居の上方に構築されている。**覆土** 炭化粒微量含有の黒褐色粘質土を主体とする自然堆積である。**床** 床面は部分的にロームブロック含有粘質土の貼床で構築されている。**炉** 西壁、やや北寄りに楕円形を成すと思われる皿状の窪みが検出された。西端部は調査区外へ広がっているが、確認状況において南北 80 × 東西 90 × 深さ 8 cm 程のピットを測る。なお、壁面に被熱痕は認められなかったが、覆土に焼土粒が含有し、比熱した礫が認められた。**遺物** 床面付近から土器片が数十点出土したが、比較的炉の南東方向にまとまって出土している。掲載遺物 13 点。**時期** As-C 拡充の畝状遺構の下方に検出されたこと、重複遺構との新旧関係、出土遺物から弥生時代末～古墳時代初頭と考えられる。**備考** 柱穴・周溝等は検出されなかった。



第 15 図 3号住居出土遺物



第 16 図 3 号住居

4 号住居 (SI-4) (第 5-17 ~ 19 図、第 3 表、巻頭 2・PL4・5・24・25)

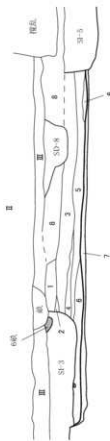
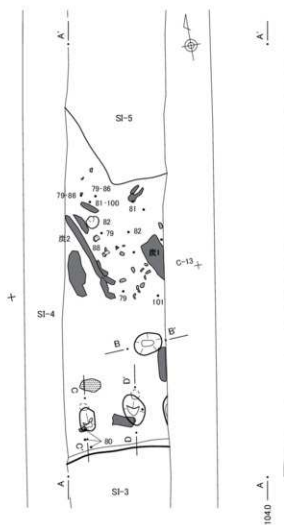
位置 調査区南寄り、グリッド B-12 ~ B-13 に位置する。5 号住居の南に隣接する。 **形状・規模** 東西とも調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-6°-E、南北 5.2 × 東西 3.3 m、深さ 53 cm 程を測る。 **重複遺構** 南部で重複する 3 号住居の下方に構築され、北部は 5 号住居に切られている。

覆土 焼土粒・炭化粒含有の暗褐色粘質土を主体とする水平堆積を示し、人為堆積の可能性が高い。 **床** 床面はローム小ブロック・焼土粒多量含有の貼床で構築されている。 **柱穴** 南壁寄りに梯子状の入口施設が想定される斜めに掘り込まれた径 40 × 深さ 80 cm 程のビットが、その北側に径 40 × 深さ 50 cm 程のビットが確認された。

遺物 床面付近から完形土器・破片が多量に出土した。掲載遺物 27 点。 **時期** Aa-C 拡充の畝状遺構の下方に検出されたこと、重複遺構との新旧関係、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。 **備考** 多量の炭化材が出土しており、焼失家屋と考えられる。炉・周溝等は検出されなかった。

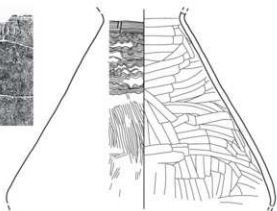
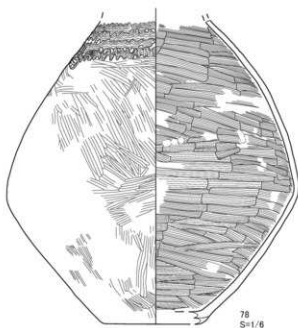
5 号住居 (SI-5) (第 5-20 ~ 22 図、第 3 表、PL5・6・25 ~ 27)

位置 調査区中央付近、グリッド B-13 ~ C-14 に位置する。6 号住居の南に隣接する。 **形状・規模** 北西部、東部は調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-13°-W、南北 5.7

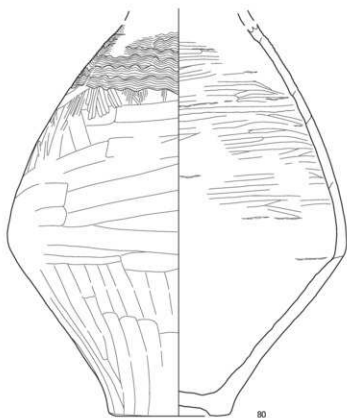


SI-4 土層説明

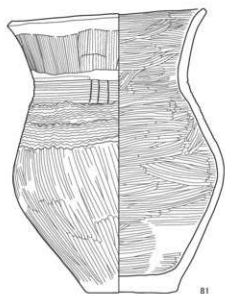
1. 黒褐色 粘性弱、しまり中 黄色粒・焼土粒含有
2. 暗褐色 粘性弱、しまり中 黄色粒・炭化粒含有
3. 暗褐色 粘性弱、しまり中 焼土粒やや多く、黄色粒・炭化粒少量含有
4. 褐色 粘性弱、しまり中 焼土粒多量、黄色粒・炭化粒含有
5. 暗褐色 粘性弱、しまり中 焼土粒・炭化粒・黄色粒やや多く含有
6. 黒色 粘性中、しまり弱 炭化物主体 焼土粒やや多く含有
7. 暗褐色 粘性中、しまりやや強 ローム小ブロック・焼土粒多量、炭化粒含有
8. 黒褐色 炭・火山灰少量含有



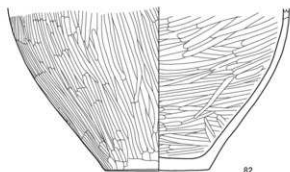
第17図 4号住居、及び出土遺物1



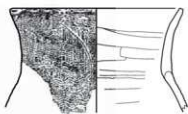
80



81



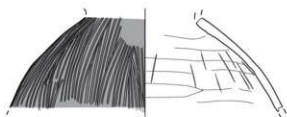
82



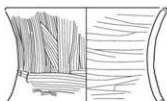
83



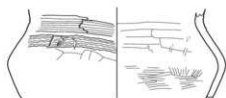
84



86



85

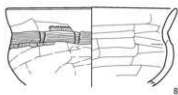


87

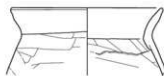
第18図 4号住居出土遺物 2



88



89



90



91



92



93



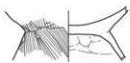
94



96



95



97



98



99



100



101



102

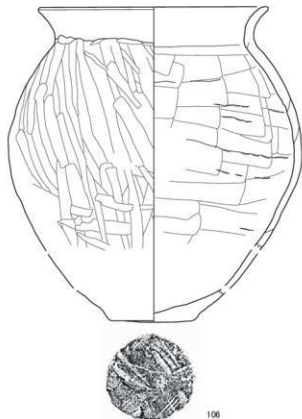
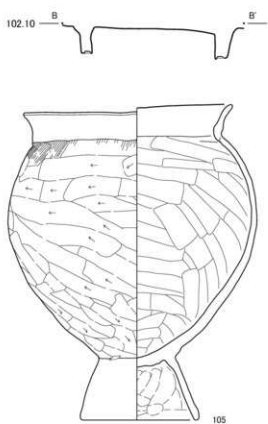
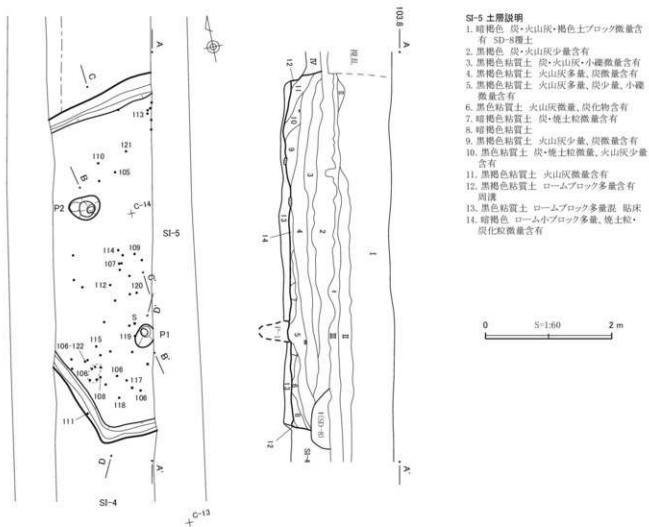


103

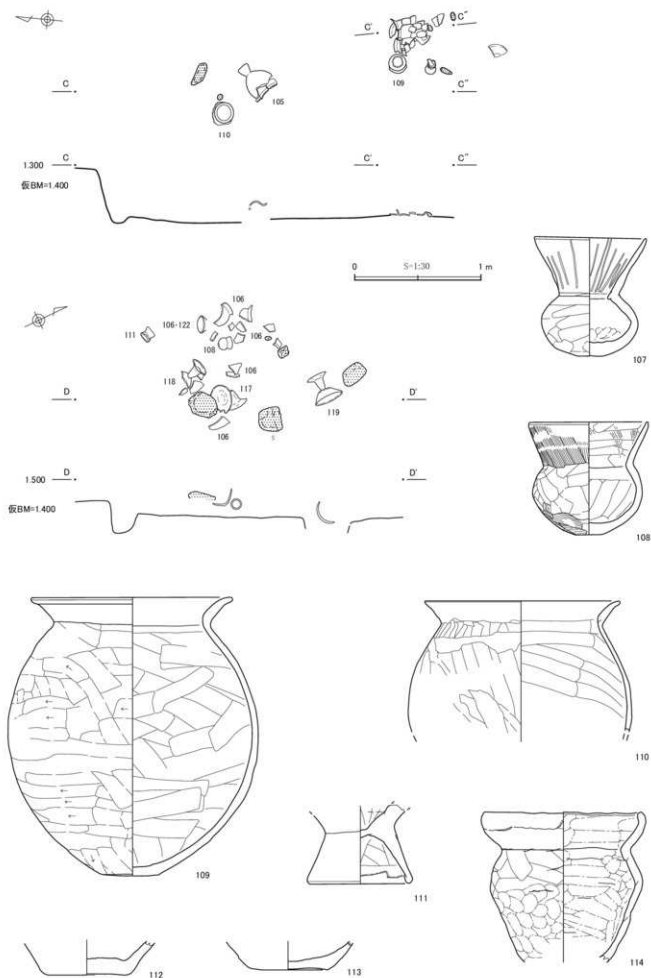


104

第 19 图 4 号住居出土遺物 3



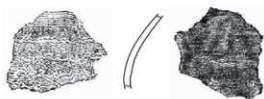
第20図 5号住居、及び出土遺物 1



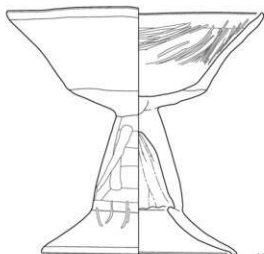
第 21 図 5号住居遺物出土状況図、及び出土遺物 2



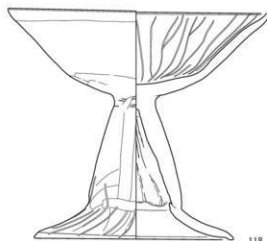
115



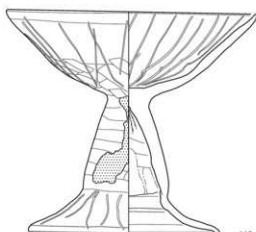
116



117



118



119



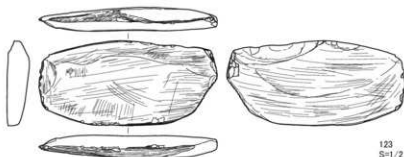
120



121

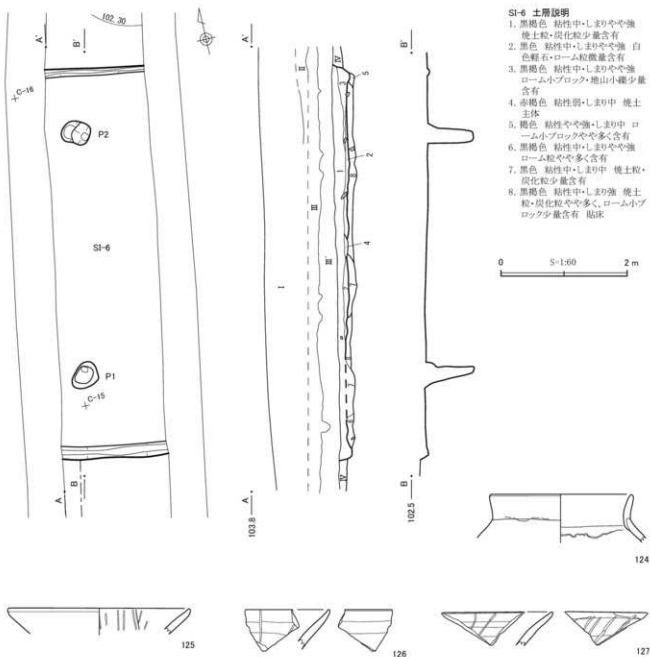


122



123
S=1/2

第22图 5号住居出土遺物3



第23図 6号住居、及び出土遺物

×東西 1.7 m、深さ 38 cm程を測る。重複遺構 南部で4号住居を切っている。覆土 炭化粒、小礫含有の黒褐色粘質土を主体とする自然堆積である。床 床面はロームブロック多量含有粘質土の貼床で構築されている。柱穴 西壁に沿うように南北方向に並んで径 45 × 深さ 50 cm程のビットが2箇所確認された。溝溝 確認範囲において幅 20 × 深さ 10 cm程の溝が壁直下に検出された。遺物 床面付近から完形土器・破片、小礫が多量に出土した。掲載遺物 19 点。時期 重複遺構との新旧関係、出土遺物から古墳時代前期と考えられる。備考 炉等は検出されなかった。

6号住居 (SI-6) (第5・23図、第3表、PL6・27)

位置 調査区中央付近、グリッド B-14 ~ C-16 に位置する。5号住居の北、7号住居の南に隣接する。形状・規模 東西とも調査区外へ拡がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-10°-W、南北 6.3 × 東西 1.7 m、深さ 40 cm程を測る。覆土 焼土粒・炭化粒含有の黒色土を主体とする自然堆積である。

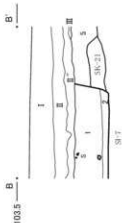
SI-7 B-B'土層説明

1. 暗褐色 粘性中、しまり弱 白色軽石やや多く、焼土粒・炭化粒少量含有

2. 褐色 粘性中、しまり強 ローム小ブロック多く、焼土粒・炭化粒少量含有 貼床層

5. 黒褐色 粘性弱、しまり中 白色・黄色軽石少量含有

※ 5層は壁のみの確認で遺構の可能性あり



SI-7 A-A'土層説明記

1. 暗褐色 粘性中、しまりやや強 焼土粒・炭化粒やや多く含有

2. 黒色 粘性、しまり弱 炭化粒・灰極多量含有

3. 暗褐色 粘性しまり中 炭化粒・ローム粒やや多く含有

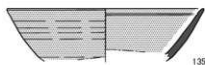
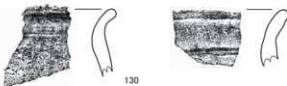
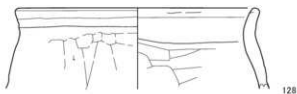
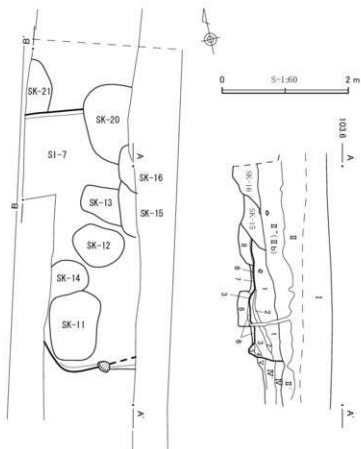
4. 暗褐色 粘性中、しまりやや強 ローム小ブロックやや多く含有

5. 褐色 粘性やや強、しまり中 炭化粒少量、ローム小ブロック多量含有

6. 暗褐色 粘性中、しまり強 焼土粒・炭化粒多量、ローム小ブロック少量含有 貼床

7. 褐色 粘性やや強、しまり強 ローム小ブロック主体、焼土粒少量含有

8. 暗褐色 粘性、しまり中 焼土粒・炭化粒多量含有 床下土坑



第 24 図 7 号住居、及び出土遺物

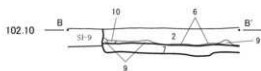
SI-8 A-A'・B-B'土層説明

1. 暗褐色 粘性・しり中 白色軽石やや多く、焼土粒・炭化粒少量含有
2. 黒褐色 粘性・しり中 白色軽石・焼土粒・炭化粒少量含有
3. 暗褐色 粘性・しり中 ローム粒・白色軽石少量含有
4. 赤褐色 粘性・しり弱 焼土主体、ローム小ブロック少量含有
5. 赤褐色 粘性・しり弱 焼土多量、ローム小ブロック少量含有
6. 褐色 粘性弱、しり強 ローム小ブロック多量、焼土粒・炭化粒含有 貼床
7. 暗褐色 粘性・しり中 ローム小ブロックやや多く、ローム粒・焼土粒・炭化粒少量含有
8. 暗褐色 粘性・しりやや強 ローム小ブロックやや多く、焼土粒・炭化粒少量含有
9. 赤褐色 粘性弱・しり弱 焼土小ブロック多量、炭化粒少量含有
10. 暗褐色 粘性弱・しり中 白色軽石少量、焼土粒・炭化粒若干含有
11. 褐色 粘性中、しり強 ローム小ブロック主体、焼土粒・炭化粒少量含有 SI-13貼床
12. 暗褐色 粘性・しり中 ローム小ブロック・ローム粒やや多く含有 SI-9壁面

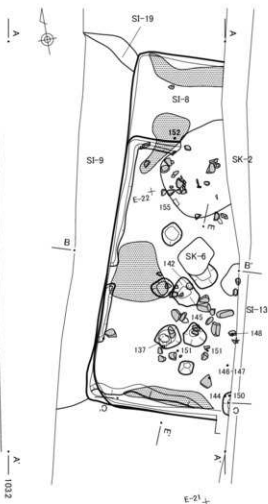
SI-8 焼土 C-C'土層説明

1. 暗褐色 やや砂質 火山灰少量、黄褐色土ブロック微量含有
2. 黒褐色 焼土多量(斑点状)含有
3. 黒色
4. 褐色 黄褐色土ブロック少量含有
5. 黒褐色 黄褐色土ブロック・焼土粒微量含有
6. 褐色粘質土 黄褐色土ブロック含有
7. 黒色粘質土(炭)
8. 焼土
9. 黒色粘質土(炭)
10. 褐色 黄褐色土ブロック少量含有
11. 明黄褐色粘質土

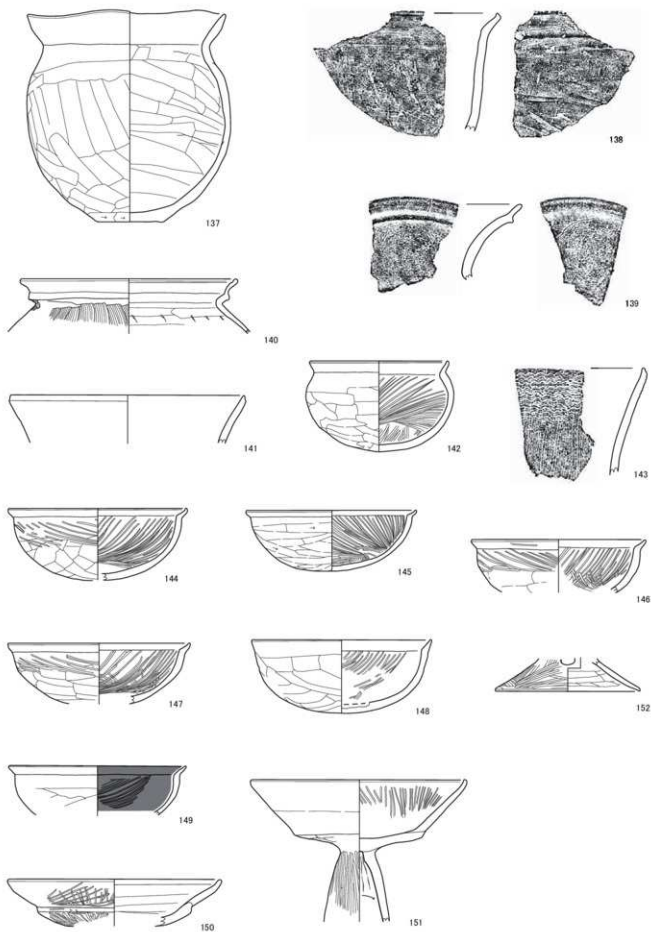
0 S-1:60 2 m



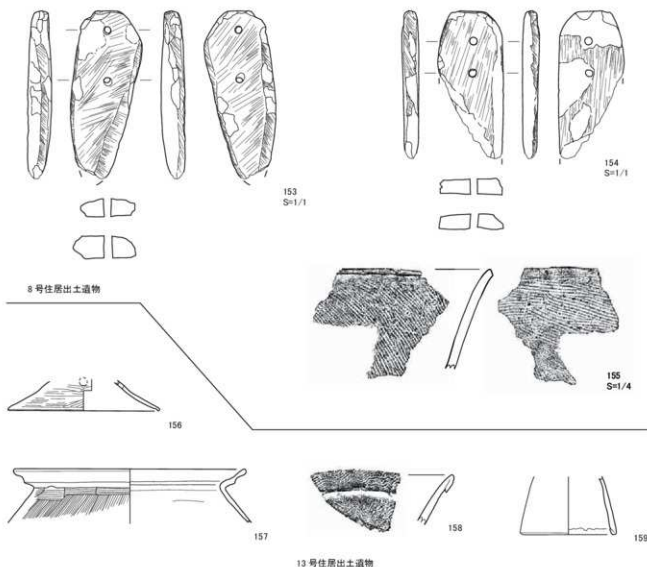
0 S-1:30 1 m



第 25 図 8-13 号住居



第 26 图 8 号住居出土遗物



第27図 8・13号住居出土遺物

床 床面はローム小ブロック含有黒褐色土の貼床で構築されている。**柱穴** 南北に並ぶ径40 cm×深さ75 cm程を測るビットが2基確認された。**周溝** 確認範囲において幅20×深さ10 cm程の溝が壁直下に検出された。**遺物** 床面付近から土器片が数点出土した。掲載遺物4点。**時期** 出土遺物から古墳時代中期と考えられる。**備考** 炉等は検出されなかった。

7号住居 (SI-7) (第5・24図、第3表、PL7・27)

位置 調査区中央付近、グリッドB-14～C-16に位置する。6号住居の北、22号住居の南に隣接する。**形状・規模** 北西部、東部は調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸N-5°-E、南北4.1×東西1.4 m、深さ28 cm程を測る。**重複遺構** 15・16号土坑に切られ、20・21号土坑を切っている。11～14号土坑は貼床下に検出された。**覆土** 焼土粒・炭化粒含有の暗褐色土を主体とする自然堆積である。**床** 床面は焼土粒・炭化粒・ローム小ブロック含有土の貼床で構築されている。**遺物** 床面付近から土器片が数十点出土した。掲載遺物9点。**時期** 出土遺物から10世紀前半と考えられる。**備考** カマド・貯蔵穴・柱穴等は検出されなかった。

8号住居 (SI-8) (第5・25～27図、第3表、PL7・28)

位置 調査区中央付近、グリッドD-21～E-22に位置する。10号住居の南に隣接する。**形状・規模** 東部は調査

査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-17°-E、南北 5.6 × 東西 2.0 m、深さ 55 cm 程を測る。柱穴 径 45 × 深さ 80 cm 程の南北方向に並深さ 47 cm 程を測る。重複遺構 9・13・19 号住居を切っている。2 号土坑に切られている。覆土 焼土粒・炭化粒含有の黒褐色土を主体とする自然堆積である。床 床面は部分的に焼土粒・炭化粒・ローム小ブロック含有褐色土の貼床で構築されている。柱穴 径 40 程のビツが複数確認されたが、いずれも掘り方調査時に検出されたものである。遺物 床面付近から右製模造品の他、完形土器・破片、頭大の礫が多量に出土した。掲載遺物 4 点。時期 重複遺構との新旧関係、出土遺物から古墳時代中期と考えられる。備考 床直上数ヶ所で焼土塊が、覆土中に多量の焼土粒が認められることから焼失家屋の可能性がある。周溝等は検出されなかった。

9 号住居 (SI-9) (第 5・28 図、第 3 表、PL7・8・29)

位置 調査区中央付近、グリッド D-21 ~ E-22 に位置する。10 号住居の南に隣接する。形状・規模 東部は重複遺構に切られ、西部は調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-64°-E、南北 4.7 × 東西 4.1 m、深さ 64 cm 程を測る。重複遺構 8・13 号住居に切られている。19 号住居を切っている。覆土 焼土粒・炭化粒含有の黒褐色土を主体とするが、自然堆積・人為堆積かは判断し難い。床 床面は部分的に焼土粒・炭化粒・ローム小ブロック含有褐色土の貼床で構築されている。周溝 幅 20 × 深さ 10 cm 程の溝が壁直下に検出された。遺物 床面付近から土器片、礫が数点出土した。掲載遺物 4 点。時期 重複遺構との新旧関係、出土遺物から古墳時代前期と考えられる。備考 一部で焼土が検出されているが、炉等は確認されなかった。

10 号住居 (SI-10) (第 5・29 図、第 3 表、PL8・29)

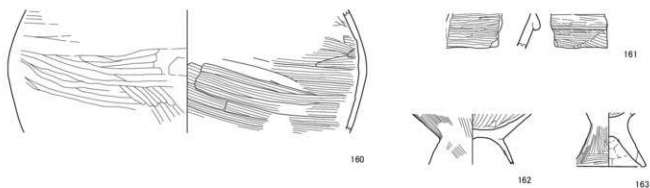
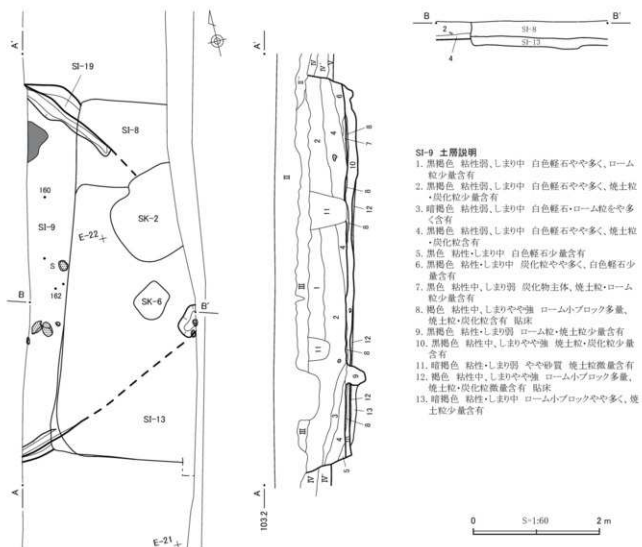
位置 調査区北寄り、グリッド E-22 ~ E-23 に位置する。8・9 号住居の北に隣接する。形状・規模 北部は重複遺構に切られ、東部は調査区外へ広がっており南西隅部を確認したのみであるが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-78°-E、南北 2.1 × 東西 2.4 m、深さ 45 cm 程を測る。重複遺構 11 号住居に切られている。覆土 焼土粒・炭化粒含有の黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。床 床面は部分的に焼土粒・炭化粒・ロームブロック多量含有黒褐色土の貼床で構築されている。遺物 床面付近から土器片が数点出土した。掲載遺物 5 点。時期 重複遺構との新旧関係、出土遺物から古墳時代前期と考えられる。備考 掘り方調査においてビツが 3 基確認されているが、いずれも浅く柱穴とは判断し難い。炉・周溝等は確認されなかった。

11 号住居 (SI-11) (第 5・29 ~ 33 図、第 3 表、巻頭 2・PL8・9・29 ~ 32)

位置 調査区北寄り、グリッド E-22 ~ E-23 に位置する。8・9 号住居の北、12 号住居の南に隣接する。形状・規模 北部は重複遺構に切られ、東部は調査区外へ広がっており南西隅部を確認したのみであるが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-78°-E、南北 2.1 × 東西 2.4 m、深さ 45 cm 程を測る。重複遺構 11 号住居に切られている。覆土 焼土粒・炭化粒含有の黒褐色土を主体とする人為堆積と考えられる。床 床面は部分的に焼土粒・炭化粒・ロームブロック多量含有黒褐色土の貼床で構築されている。カマド 北壁に付設されているが、確認状況において長さ 80 × 幅 40 cm 程を測る焚口・燃焼部を残すのみである。左袖は長 90 × 幅 25 cm、右袖は長 50 × 幅 50 cm 程を測る。貯蔵穴 カマド右脇に径 80 × 深さ 20 cm 程を測る円形のビツが確認された。遺物 カマド、貯蔵穴付近にまわって完形土器・破片が多量に出土した。掲載遺物 38 点。時期 重複遺構との新旧関係、出土遺物から古墳時代中期と考えられる。備考 柱穴・周溝等は確認されなかった。

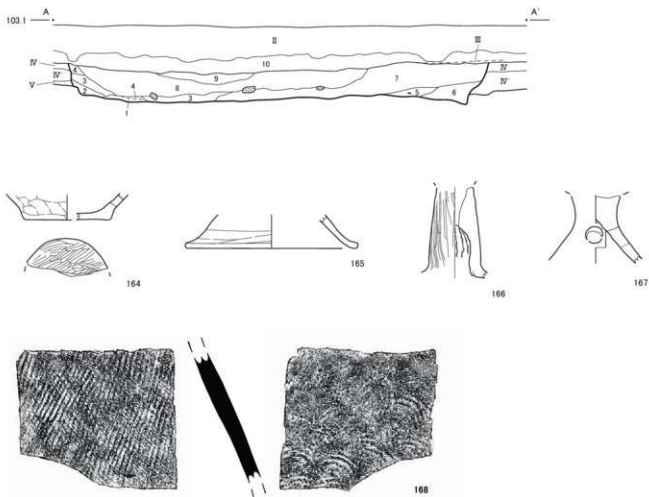
12 号住居 (SI-12) (第 5・34 図、第 3 表、PL9・32)

位置 調査区北寄り、グリッド E-24 ~ E-25 に位置する。10・11 号住居の北隣接する。形状・規模 遺構のほとんどは調査区外へ広がっており北東隅部を確認したのみであるが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-28°-W、南北 2.0 × 東西 2.5 m、深さ 70 cm 程を測る。覆土 炭化粒含有の黒褐色土を主体とする自

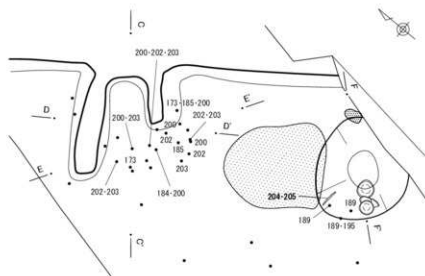


第28図 9-19号住居、及び9号住居出土遺物

然堆積と考えられる。床 床面は部分的に焼土粒・炭化粒含有のローム土主体の貼床で構築されいる。遺物 床面付近から完形土器・破片、鉄製品、礫が十数点出土した。掲載遺物4点。時期 出土遺物から弥生時末葉～古墳時代前期と考えられる。備考 一部炭化物が集中する箇所が認められた。炉・柱穴・周溝等は確認されなかった。

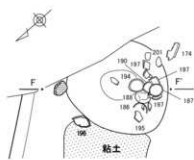
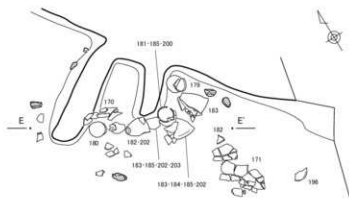
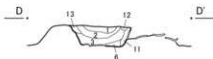


第29図 10-11号住居、及び10号住居出土遺物

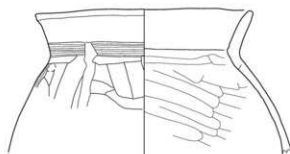
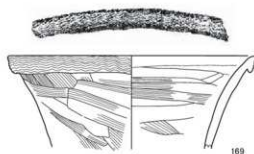


SI-11 カマド土層注記

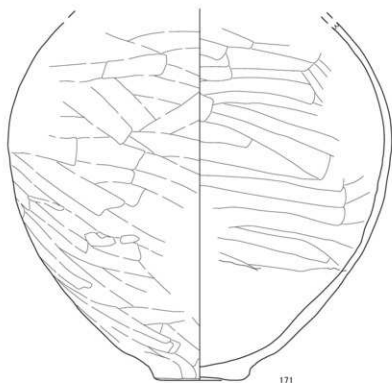
1. 暗褐色 粘性・しり中 焼土粒や多く、白色軽石少量含有
2. 褐色 粘性・しり中 地山ローム主体 焼土粒・炭化物粒少量含有
3. 赤褐色 粘性・しり弱 焼土ブロック主体 灰・炭化物粒含有
4. 暗褐色 粘性・しり中 焼土粒や多く、白色軽石少量含有
5. 暗褐色 粘性弱、しり中 白色軽石・炭化物粒少量含有
6. 褐色 粘性中、しり弱 灰・炭化物粒多量、焼土粒少量含有
7. 赤褐色 粘性弱、しり弱 焼土ブロック多量、炭化物粒含有
8. 褐色 粘性・しり弱 灰・炭化物粒含有
9. 赤褐色 粘性中、しり弱 灰・炭化物粒多量、焼土粒や多く含有
10. 赤褐色 粘性中、しり弱 焼土小ブロック多量、炭化物粒含有
11. 赤褐色 粘性弱、しりやや強 焼土ブロック主体
12. 黒褐色 粘性・しり弱 炭化物・焼土粒少量含有
13. 暗褐色 粘性・しり弱 炭化物少量、ローム小ブロック含有



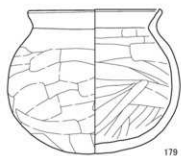
0 S:1:30 1 m



第 30 図 11 号住居遺物出土状況図、及び 11 号住居出土遺物 1



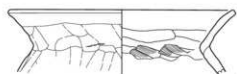
171



179



180



172



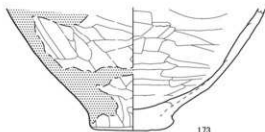
176



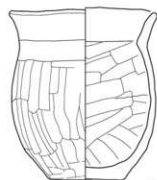
177



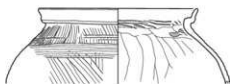
178



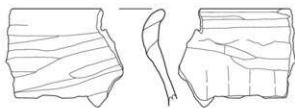
173



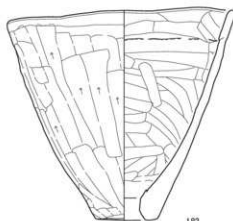
181



174

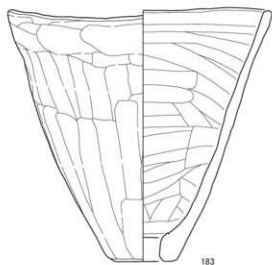


175

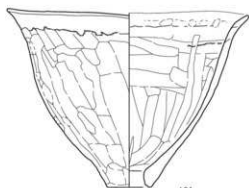


182

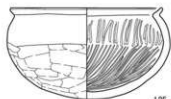
第 31 图 11 号住居出土遺物 2



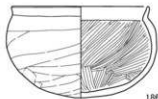
183



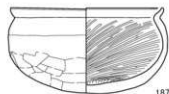
184



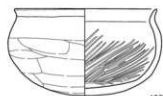
185



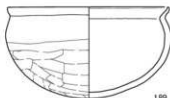
186



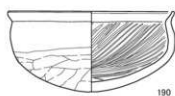
187



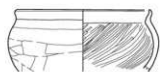
188



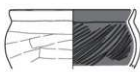
189



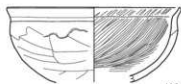
190



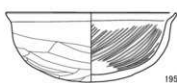
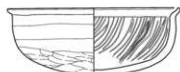
191



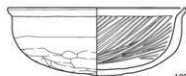
192



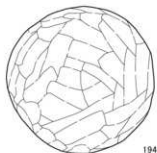
193



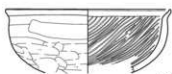
195



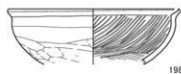
196



194

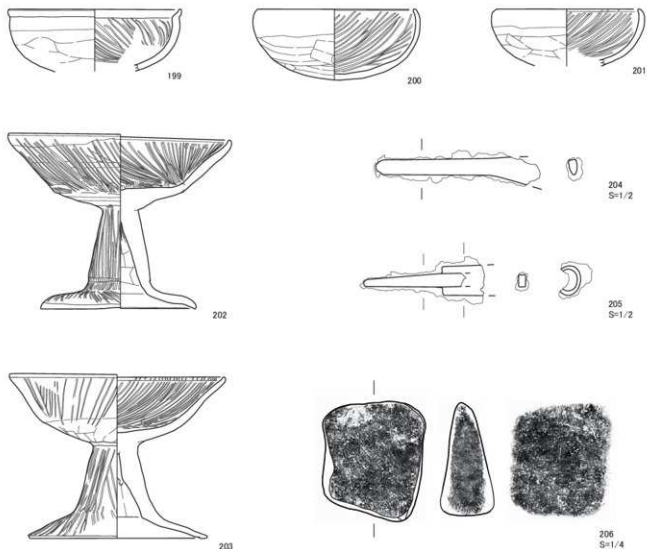


197



198

第 32 圖 11 号住居出土遺物 3



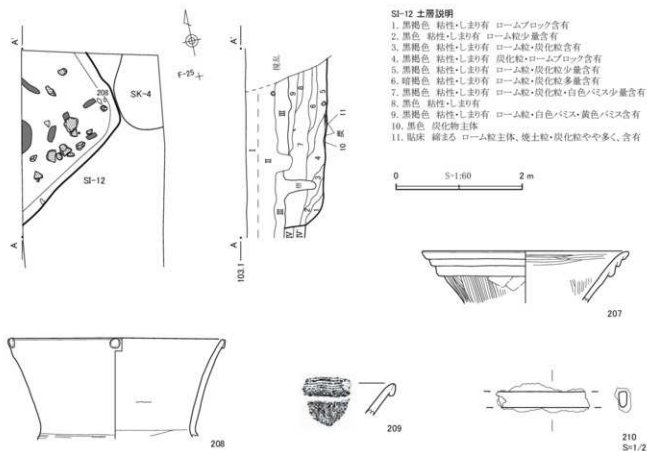
第 33 図 11 号住居出土遺物 4

13 号住居 (SI-13) (第 5・25・27 図、第 3 表、PL9・28)

位置 調査区中央付近、グリッド D-21 ~ E-22 に位置する。10 号住居の南に隣接する。**形状・規模** 東部は調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-17°-E、南北 4.3 × 東西 2.1 m、深さ 15 cm 程を測る。**重複遺構** 8 号住居の下方に、9 号住居の上方に構築されている。**覆土** 焼土粒・炭化粒・ローム粒・ローム小ブロック含有の暗褐色土の単層を成し、人為堆積と考えられる。**床** 床面は焼土粒・炭化粒含有のローム小ブロック主体の貼床で構築されている。**周溝** 幅 15 ~ 20 cm 程を測る溝が北・東壁直下に確認された。**遺物** 覆土中から土器片数点が出土した。掲載遺物 4 点。**時期** 重複遺構との新旧関係、出土遺物から古墳時代前期と考えられる。**備考** 炉・柱穴・周溝等は確認されなかった。

14 号住居 (SI-14) (第 4・35 ~ 36 図、第 3 表、PL10・32)

位置 調査区北寄り、グリッド F-27 ~ F-28 に位置する。**形状・規模** 東部は調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-9°-E、南北 3.6 × 東西 1.3 m、深さ 45 cm 程を測る。**重複遺構** 北部で 15 号住居、西部で 5 号土坑を切っている。**覆土** ローム小ブロック・焼土粒・炭化粒含有の暗褐色土の単層を成し、人為堆積と考えられる。**床** 床面はほぼ平坦を成すが、一箇所大きな土坑を持つ。また、この土坑の北西部床面には焼土・炭化材が散在していた。**遺物** 土坑壁面、焼土部から、かわかけ (完形) が数点



第 34 図 12 号住居、及び出土遺物

重なって出土した。掲載遺物 8 点。時期 重複遺構との新旧関係、出土遺物から 11 世紀と考えられる。備考 カマド・柱穴・周溝等は確認されなかった。

15 号住居 (SI-15) (第 4・35 ～ 36 図、第 3 表、PL10・32)

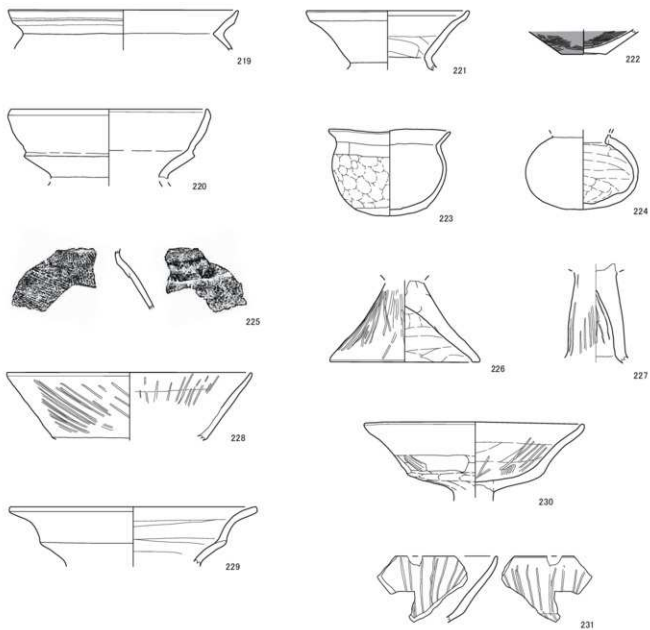
位置 調査区中央付近、グリッド D-28 ～ E-29 に位置する。16・18 住居の南に隣接する。形状・規模 東部は調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-7°-E、南北 5.7 × 東西 2.9 m、深さ 30 cm 程を測る。重複遺構 南部を 14 号住居に切られている。覆土 ローム粒含有の暗褐色土を主体とする自然堆積である。床 床面はローム小ブロック多量含有の貼床で構築されている。遺物 床面付近から完形土器・破片が数十点出土した。掲載遺物 13 点。時期 重複遺構との新旧関係、出土遺物から古墳時代中期と考えられる。備考 炉・柱穴・周溝等は確認されなかった。

16 号住居 (SI-16) (第 4・37 図、第 3 表、PL10・33)

位置 調査区北部、グリッド F-30 ～ G-31 に位置する。15 号住居の北に隣接する。形状・規模 南東、北西部は調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-13°-W、南北 5.5 × 東西 5.3 m、深さ 50 cm 程を測る。重複遺構 南西部で 8 号住居を切っている。覆土 焼土粒・炭化粒含有の黒褐色土を主体とする自然堆積である。床 床面はロームブロック多量含有黒褐色粘質土の貼床で構築されている。柱穴 径 45 × 90 cm 程を測るビットが 2 箇所、対角線上の北東・南西に確認された。周溝 幅 20 × 深さ 20 cm 程を測る溝が壁直下に確認された。遺物 覆土中から土器片が数十点出土した。掲載遺物 1 点。時期 重複遺構との新旧関係から古墳時代前期と考えられる。備考 炉等は確認されなかった。

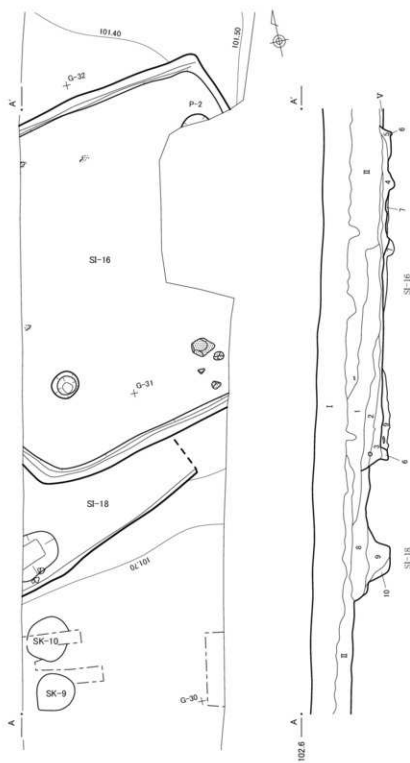


14号住居出土遺物



15号住居出土遺物

第 36 図 14・15 号住居出土遺物

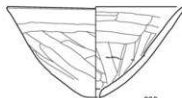


SI-16・18 土層説明

1. 褐色砂質土 火山灰・軽石多量、ロームブロック・炭微量含有
2. 暗褐色 火山灰・軽石微量含有
3. 黒褐色 しまり有 焼土粒・炭微量含有
4. 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒・炭微量含有
5. 暗褐色 ロームブロック少量含有
6. 暗褐色 ロームブロック含有
7. 黒褐色粘質土 しまり有 ロームブロック多量含有 肥床
8. 黒褐色 褐色土帯状、火山灰微量含有
9. 黒褐色粘質土 火山灰・炭・小礫微量含有
10. 黒褐色粘質土 ロームブロック少量含有



16号住居出土遺物



18号住居出土遺物

第37図 16-18号住居、及び出土遺物

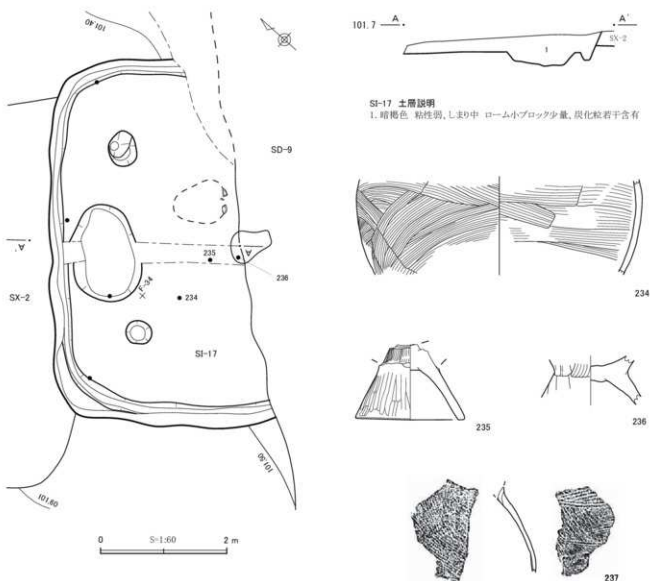
17号住居(SI-17) (第4・38図、第3表、PL10・33)

位置 調査区北端部、グリッドE-33～F-34に位置する。**形状・規模** 東部は9号溝によって削り取られているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸N-48°-E、南北5.8×東西3.6m、深さ35cm程を測る。

重複遺構 西部で2号不明遺構を切り、東部は9号溝に切られている。**覆土** ローム小ブロック含有の単層を成し、人為堆積と考えられる。**床** 床面は水成味を帯びたローム土で、ほぼ平坦である。**炉** 中央付近に80×70cm程の浅い凹み、比熱した礫が確認された。焼土は認められないが、炉の可能性が高い。**柱穴** 径45×深さ50cm程を測るピットが北西、南西、中央部の3個所で確認された。**周溝** 幅25×深さ15cm程を測る溝が壁直下に確認された。**遺物** 覆土中から土器片が数十点出土した。掲載遺物1点。**時期** 重複遺構との新旧関係から古墳時代前期と考えられる。**備考** 炉等は確認されなかった。

18号住居(SI-18) (第4・37図、第3表、PL10・33)

位置 調査区北端部、グリッドF-30～G-30に位置する。15号住居の北に隣接する。**形状・規模** ほとんどが調査区外へ広がっており一部を確認したのみであるが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸N-23°-W、南北1.8×東西3.4m、深さ25cm程を測る。**重複遺構** 北部を16号住居に切られている。**覆土** 黒褐色土の単層を成し、人為堆積と考えられる。**貯蔵穴** 南西部に隅丸方形を成すと思われる土坑が確認された。



第38図 17号住居、及び出土遺物

確認状況において、長軸 80 × 単軸 70 × 深さ 40 cm 程を測る。 **遺物** 貯蔵穴付近覆土中から土器片数点が出土した。 **掲載遺物** 1 点。 **時期** 重複遺構との新旧関係、出土遺物から弥生時代後期と考えられる。 **備考** 炉・柱穴等は確認されなかった。

19 号住居 (SI-19) (第 5・28 図、第 3 表、PL7・8)

位置 調査区中央付近、グリッド D-21 ～ E-22 に位置する。 **形状・規模** ごく一部を確認したのみで不明である。 **重複遺構** 8・9 号住居によって切られている。 **覆土** ローム小ブロック含有の人為堆積と考えられる。 **床** 床面は部分的にローム小ブロック多量含有褐色土の貼床で構築されている。 **遺物** 出土遺物なし。 **掲載遺物** 0 点。 **時期** 重複遺構との新旧関係から弥生時代後期と考えられる。

20 号住居 (SI-20) (第 6・39 ～ 40 図、第 3 表、PL11・33)

位置 調査区南東部、グリッド G-2 ～ H-2 に位置する。 1 号墳の西に隣接する。 **形状・規模** 南西、北部は調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-85°-E、南北 3.0 × 東西 2.5 m、深さ 60 cm 程を測る。 **重複遺構** 西部で 10 号溝を切っている。 **覆土** 小礫多量含有の暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。 **床** 床面は焼土粒・炭化粒含有暗褐色土の貼床で構築されている。 **カマド** 東壁南寄りに付設され、確認状況において長さ 90 × 幅 65 × 深さ 65 cm 程を測る。焚口は両袖に竪を用いて壁際に、壁外に 50 cm 程の平坦な燃焼部から 50° 程傾斜する煙道部を設けている。なお、覆土は多量の礫、焼土塊を含み、自然崩壊した堆積状況を明確に示している。 **遺物** カマド内、その付近にまとまって土器片、礫が数十点出土した。 **掲載遺物** 10 点。 **時期** 出土遺物から 11 世紀と考えられる。 **備考** 貯蔵穴・柱穴等は確認されなかった。

21 号住居 (SI-21) (第 5・41 図、第 3 表、PL11・12・34)

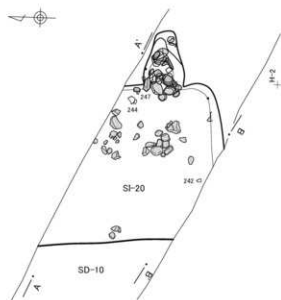
位置 調査区中央付近、グリッド D-19 に位置する。 22 号住居、17 号土坑の北に隣接する。 **形状・規模** ほとんどが調査区外へ広がっており、一部を確認したのみであるが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-3°-W、南北 2.0 × 東西 2.0 m、深さ 55 cm 程を測る。 **覆土** 焼土粒・炭化粒含有の黒褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。 **床** 床面はローム粒・ローム小ブロック多量含有暗褐色土の貼床で構築されている。 **遺物** 床面付近から完形土器・破片が数十点出土した。 **掲載遺物** 7 点。 **時期** 出土遺物から古墳時代中期と考えられる。 **備考** 炉・柱穴等は確認されなかった。

22 号住居 (SI-22) (第 5・42 図、第 3 表、巻頭 3・PL12・34)

位置 調査区中央付近、グリッド C-17 ～ D-18 に位置する。 7 号住居の北、21 号住居の南に隣接する。 **形状・規模** 東部は調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-11°-W、南北 3.1 × 東西 2.8 m、深さ 25 cm 程を測る。 **重複遺構** 北東部で 18 号土坑を切り、南部で 19 号土坑に切られている。 **覆土** 焼土粒・炭化粒含有暗褐色土の単層を成し、人為堆積と考えられる。 **床** 床面は地山小ブロック含有黒褐色土の貼床で構築されている。 **炉** 北東部で焼土、比熱礫を有する僅かな回みが確認された。また、調査区西壁においても灰層・焼土層を持つ回みが認められた。 **遺物** 炉付近にまとまって完形土器・破片が数十点出土した。 **掲載遺物** 6 点。 **時期** 出土遺物から古墳時代前期と考えられる。 **備考** 床面数ヶ所で炭化材・焼土塊が認められることから焼失家屋の可能性がある。貯蔵穴・柱穴等は確認されなかった。

23 号住居 (SI-23) (第 6・43 図、第 3 表、PL12・35)

位置 調査区南部、グリッド E-3 ～ E-4 に位置する。 25 号住居の東に隣接する。 **形状・規模** 南部は調査区外へ広がり、調査区内も下水管工事により破壊されているためカマドの一部と調査区南壁面において壁の立ち上がりを確認したのみであるが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸 N-35°-E、南北 1.2 × 東西 3.3 m、深さ 40 cm 程を測る。 **重複遺構** 24・26 号住居を切っている。 **覆土** 焼土粒・炭化粒含有暗褐色土の自然堆積



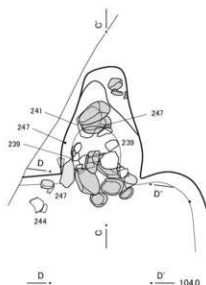
105.0 A



SI-20 A-A'土層説明

1. 黒褐色 粘性・しまり中 白色軽石・黄色軽石少量、炭化粒極少量含有
2. 黒褐色(1層より色調暗い) 粘性・しまり中 白色軽石・黄色軽石少量、炭化粒極少量含有
3. 暗褐色 粘性やや強、しまり中 地山小ブロック多量含有
4. 暗褐色 粘性中、しまり弱 黄色軽石少量、地山小ブロック多量含有
5. 暗褐色 粘性やや強、しまり中 地山小礫多量、黄色軽石・炭化粒少量含有
6. 褐色 粘性強、しまりやや強 地山小礫多量、地山褐色土とほぼ同じ土質
7. 暗褐色 粘性やや強、しまり中 地山小ブロック多量含有
8. 褐色 粘性・しまりやや強 地山小ブロックをやや多く含有
9. 暗褐色 粘性・しまりやや強 焼土粒・炭化粒少量、地山小ブロック若干含有 貼路面

0 S=1:60 2 m



104.4 B



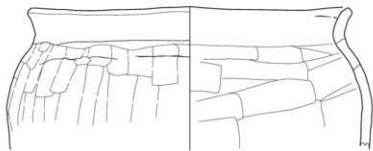
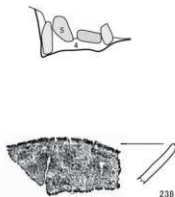
SI-20 B-B'土層説明

1. 黒褐色 粘性・しまり中 白色・黄色軽石少量、焼土粒・炭化粒若干含有
2. 黒褐色 粘性・しまり中 5~10cmの川原石少量、焼土粒・炭化粒若干含有
3. 暗褐色 粘性・しまり中 地山小ブロック多量含有
4. 暗褐色 粘性・しまり中 地山小ブロック多量含有

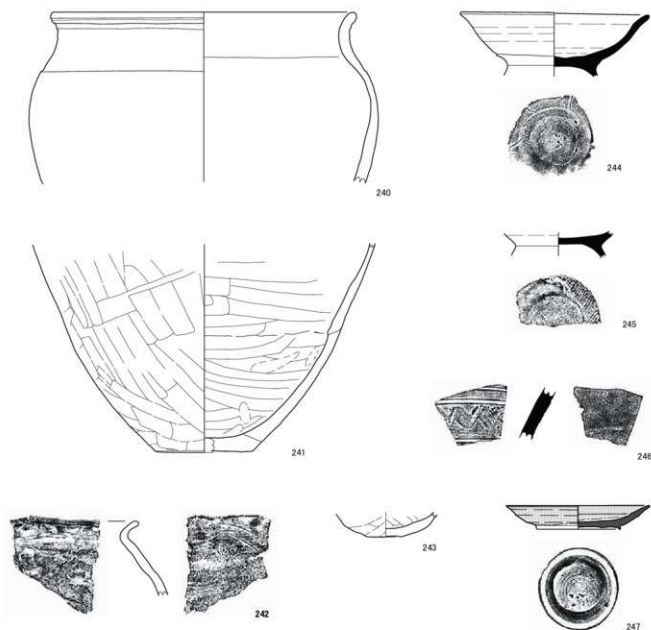
SI-20カマド 土層説明

1. 暗褐色 粘性・しまり弱 ローム小ブロック少量、炭化粒若干含有
2. 黒褐色 粘性・しまり弱 焼土粒・白色軽石少量含有
3. 暗褐色 粘性・しまり中 ローム小ブロック・焼土粒やや多く、炭化粒少量含有
4. 褐色 粘性・しまり中 やや被熱した地山ローム主体 カマド構築材崩落土
5. 暗褐色 粘性・しまり弱 焼土小ブロック多量、焼土粒・炭化粒含有
6. 暗褐色 粘性中、しまり弱 炭化粒多量、ローム小ブロック・焼土粒少量含有

0 S=1:30 1 m



第 39 図 20 号住居、及び出土遺物 1

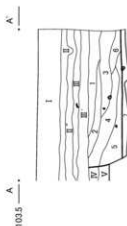
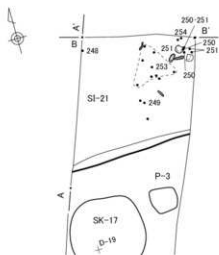


第40図 20号住居出土遺物2

と考えられる。床 床面は24号住居覆土である。カマド 北部東端に付設される。詳細は不明であるが、残存状況から煙道部と考えられ、確認状況において長さ35×幅45×深さ20cm程を測る。また、調査区北壁面において煙道と思われる焼土粒・炭化粒含有のU字状の掘り込みが認められた。遺物 覆土中から土器片が数点出土した。掲載遺物3点。時期 重複遺構との新旧関係、出土遺物から古墳時代後期と考えられる。備考 貯蔵穴・柱穴等は確認されなかった。

24号住居 (SI-24) (第6・43～44図、第3表、PL12・13・35)

位置 調査区南部、グリッドE-3～E-4に位置する。25号住居の東に隣接する。形状・規模 北部は調査区外へ拡がり、調査区内も下水管工事により破壊されているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸N-118°-E、南北1.3×東西4.0m、深さ50cm程を測る。重複遺構 23号住居を切っている。覆土 炭化粒含有の暗褐色土を主体とするが、自然、人為堆積の判断は難しい。床 床面はロームブロック多量含有褐色土の貼床で構築されている。カマド 本体は検出されなかったが、土層断面において焼土主体層などカマド崩壊土が窺

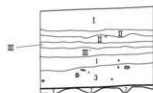


SI-21 土層説明

1. 黒色 粘性・しまり中 As-C粒少量、焼土粒・炭化粒若干含有
2. 黒褐色 粘性・しまり中 As-C粒少量、ローム粒若干含有
3. 暗褐色 粘性・しまり中 焼土粒・炭化粒やや多く、ローム小ブロック少量含有
4. 暗褐色 粘性・しまり中 ローム粒やや多く、焼土粒・炭化粒少量含有
5. 黒色 粘性・しまり中 焼土粒・炭化粒少量含有
6. 黒褐色 粘性・しまり中 ローム小ブロック少量、焼土粒・炭化粒若干含有
7. 暗褐色 粘性中、しまりやや強 ローム粒・ローム小ブロック多量、焼土粒少量含有

0 S:1:60 2 m

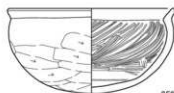
103.5 B B'



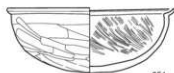
248



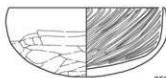
249



250



251



252

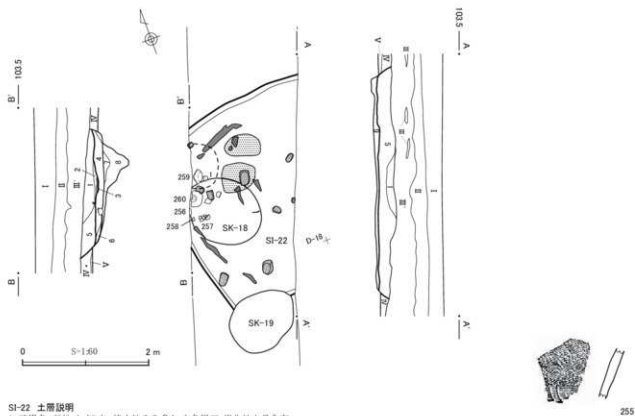


254



253

第41図 21号住居、及び出土遺物



SI-22 土層説明

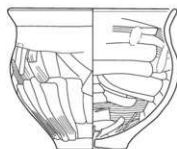
1. 暗褐色 粘性・しまり中 焼土粒やや多く、白色軽石・炭化粒少量含有
2. 黒褐色 粘性・しまり中 焼土粒やや多く、灰多量含有
3. 赤色 粘性・しまり中 焼土主体
4. 暗褐色 粘性・しまり中 炭化粒多量、白色軽石・黄色軽石含有
5. 暗褐色 粘性・しまり中 焼土粒・炭化粒少量、白色軽石・黄色軽石含有
6. 褐色 粘性ややあり、しまり弱 地山褐色土小ブロック多量含有
7. 暗褐色 粘性・しまり中 白色軽石少量、焼土粒・炭化粒若干含有
8. 褐色 粘性ややあり、しまり中 焼土粒・炭化粒少量、地山小ブロック若干含有
9. 黒褐色 粘性中、しまり強 焼土粒・炭化粒・地山小ブロックやや多く含有 貼床



257



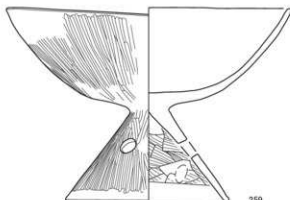
258



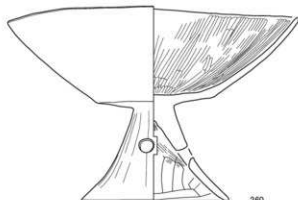
255



256

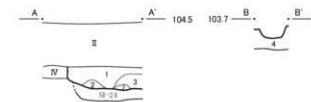
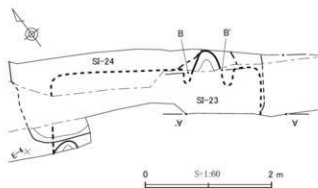


259



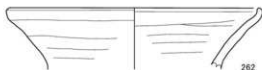
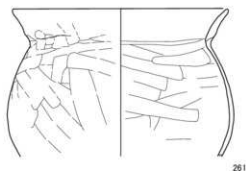
260

第 42 図 22 号住居、及び出土遺物

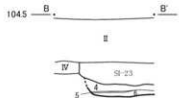
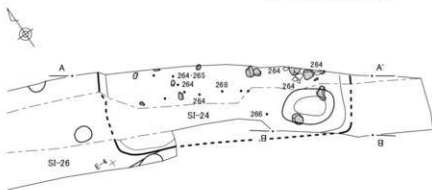


SI-23 土層説明

1. 暗褐色 粘性弱、しまり中 白色・黄色軽石少量、焼土粒・炭化粒含有
2. 褐色 粘性・しまり中 焼土ブロック・焼土粒多量含有 カマド本体崩落土
3. 暗褐色 粘性弱、しまり中 焼土粒・炭化粒少量含有
4. 赤褐色 粘性弱、しまり中 焼土ブロック多量、炭化粒やや多く含有

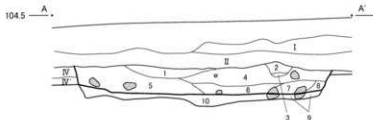


23号住居、及び出土遺物



SI-24 B-B'土層説明

4. 黒褐色 粘性弱、しまり中 白色軽石少量、焼土粒・炭化粒含有
5. 褐色 粘性・しまり弱 炭化粒・灰主体 カマド前の灰層
6. 褐色 粘性・しまりやや強 ローム小ブロック多量、焼土粒・炭化粒少量含有



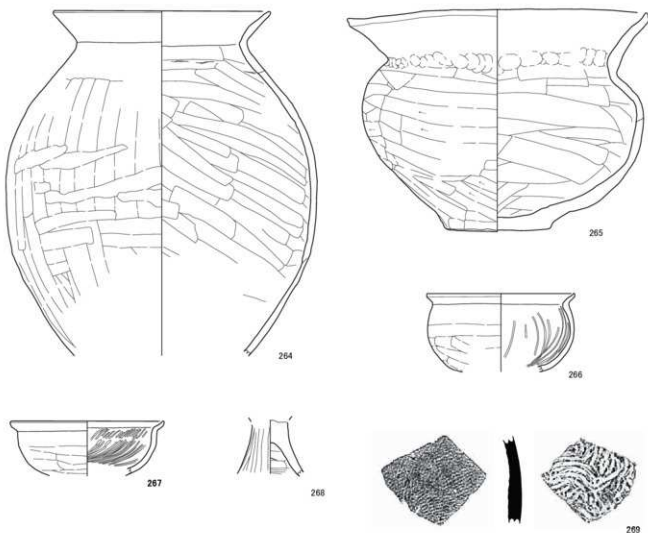
SI-24 A-A'土層説明

1. 黒褐色 粘性・しまり弱 白色軽石・焼土粒少量含有
2. 暗褐色 粘性弱、しまり中 焼土粒・炭化粒少量、ローム小ブロック含有
3. 赤褐色 粘性弱、しまり中 焼土粒・焼土小ブロック多量、炭化粒含有
4. 暗褐色 粘性弱、しまり中 白色・黄色軽石・炭化粒少量含有

5. 暗褐色 粘性弱、しまり中 白色軽石やや多く、焼土粒・炭化粒少量含有
6. 暗褐色 粘性弱、しまり中 白色・黄色軽石少量含有
7. 暗褐色 粘性弱、しまり中 焼土粒やや多く、ローム小ブロック少量含有
8. 赤褐色 粘性弱、しまり中 焼土小ブロック・焼土粒主体 カマド崩落土か
9. 褐色 粘性・しまり中 ローム小ブロック・焼土粒少量含有
10. 褐色 粘性中、しまりやや強 ローム小ブロック多量、焼土粒少量含有

24号住居

第43図 23・24号住居、及び23号住居出土遺物

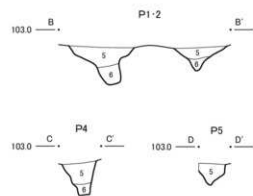
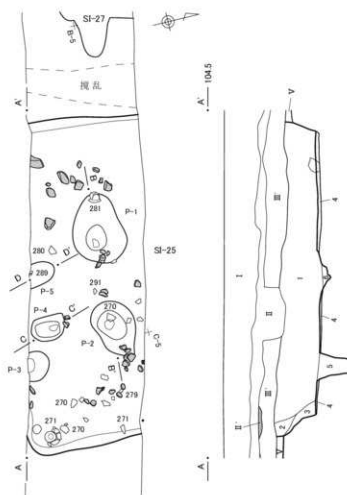


第44図 24号住居出土遺物

える堆積層が認められ、東壁南寄りにカマドが付設されている可能性が高い。**貯蔵穴** 南東隅に長軸（東西）80×短軸（南北）60×深さ50 cm程を測る楕円形の土坑が確認された。**遺物** 床面付近から土器片、礫が十数点出土した。掲載遺物6点。**時期** 重複遺構との新旧関係、出土遺物から古墳時代中～後期と考えられる。**備考** 柱穴・周溝等は確認されなかった。

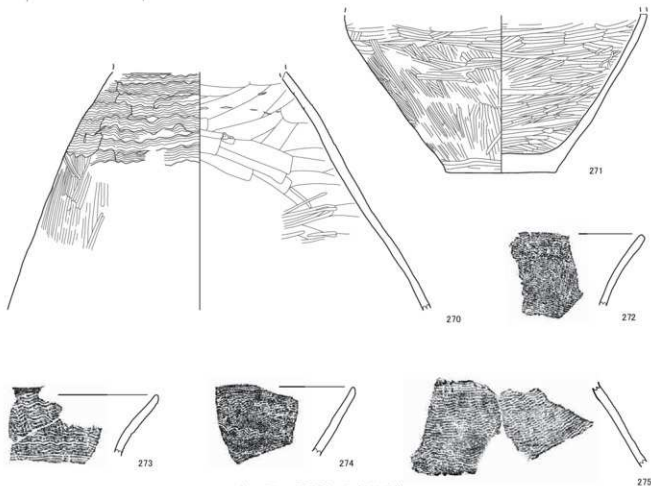
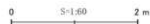
25号住居（SI-25）（第6・45～46図、第3表、PL13・35・36）

位置 調査区南東部、グリッドB-4～C-4に位置する。27号住居の東に隣接する。**形状・規模** 南・北部は調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸N-6°-E、南北2.3×東西5.0 m、深さ70 cm程を測る。**重複遺構** 1・2号集石遺構に切られている。**覆土** 東端部でローム小ブロック含有の自然堆積と思われる状況も窺えるが、焼土粒・炭化粒含有黒褐色土の単層を成す人為堆積を主体とする。**床** 床面はローム小ブロック多量含有黒褐色土の貼床で構築されている。**柱穴** 覆土を同じくする径50 cm程を測るビットが3基、及び長軸100×短軸85 cm、長軸85×短軸70 cm程を測る楕円形のビットが2基が確認された。この内、断面形状から柱穴の可能性が高いのはP-3・4であり、P-1・2は炉掘り方の可能性もある。**遺物** 覆土中、床面付近から完形土器・破片、礫が多量に出土した。掲載遺物22点。**時期** 出土遺物から弥生時代後期と考えられる。**備考** 炉・周溝等は確認されなかった。

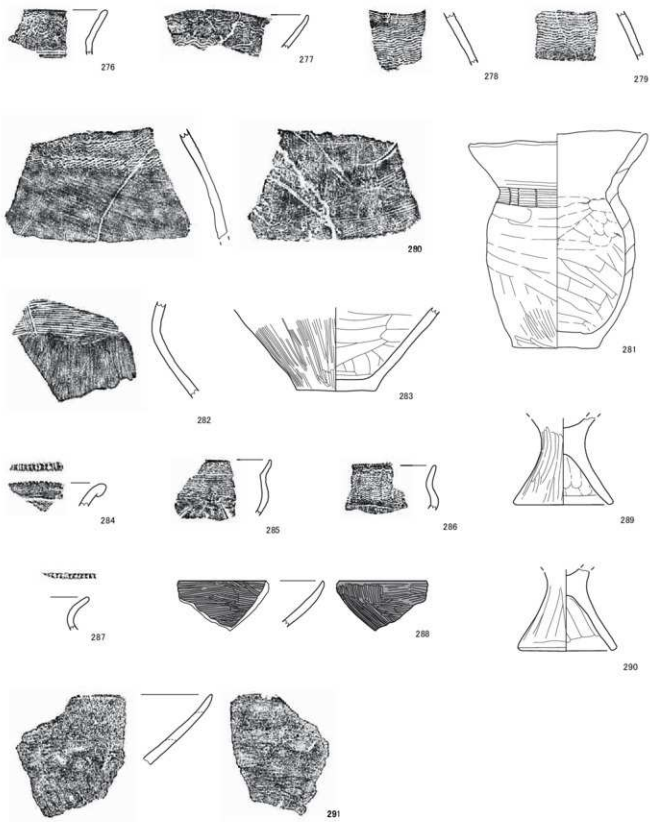


SI-25 土層説明

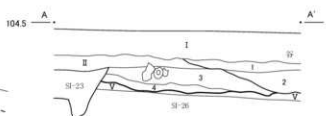
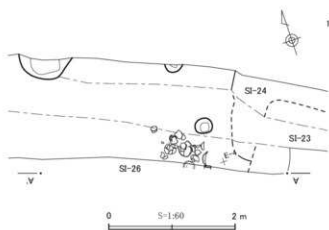
1. 黒褐色 粘性・しまり中 黄色軽石やや多く、焼土粒・炭化粒少量含有
2. 黒褐色 粘性・しまり中 黄色軽石やや多く、ローム小ブロック少量含有
3. 褐色 粘性やや強、しまり中 ローム小ブロック多量含有
4. 褐色 粘性中、しまり強 ローム小ブロック多量、焼土粒・炭化粒少量含有
5. 黒褐色 粘性・しまり中 黄色軽石やや多く、焼土粒少量含有
6. 暗褐色 粘性やや強、しまり中 ローム小ブロック・黄色軽石多量含有



第 45 図 25 号住居、及び出土遺物 1

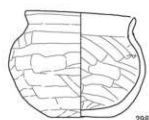
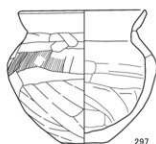
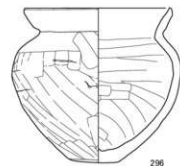
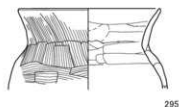
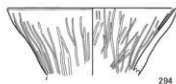
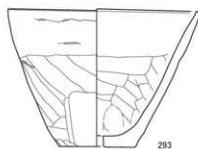
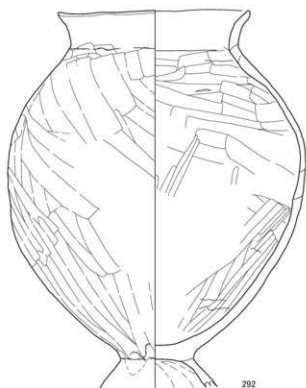
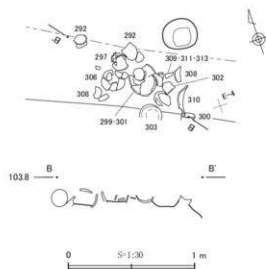


第 46 图 25 号住居出土遺物 2

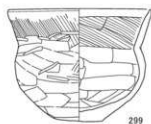


SI-26 土層説明

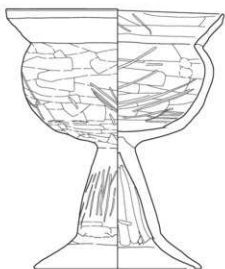
1. 黒褐色 粘性弱、しまり中 Aa-布軽石やや多く含有
2. 黒褐色 粘性・しまり中 円礫やや多く、白色軽石・炭化粒少量含有
3. 黒色 粘性・しまり中 白色・黄色軽石少量含有、遺物多量包含
4. 暗褐色 粘性・しまり中 コーム小ブロックやや多く、白色軽石少量含有



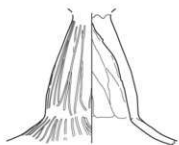
第 47 図 26 号住居、及び出土遺物 1



299



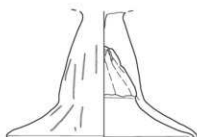
303



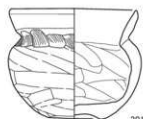
305



300



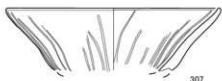
306



301



304



307



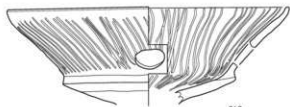
302



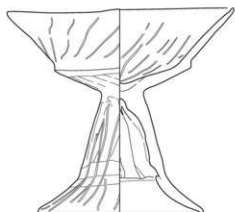
308



309



310



311

312

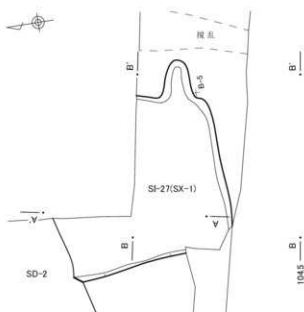


313



314

第48图 26号住居出土遺物2



SI-27 A-A'土層説明

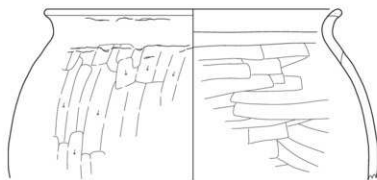
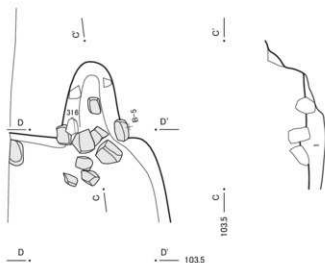
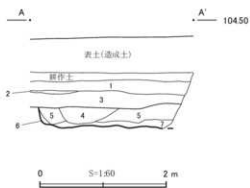
1. 暗褐色砂質土 Aa-B混土
2. Aa-B
3. 暗褐色砂質土 赤色粒・火山灰微量含有
4. 暗褐色砂質土 やや粘質 赤色粒・火山灰少量含有
5. 黒褐色 赤色粒少量、ロームブロック微量含有
6. 褐色
7. 黒褐色 ロームブロック含有

SI-27 B-B'土層説明

1. 黒褐色 粘性・しまり中 黄色軽石やや多く、白色軽石少量含有
2. 黒褐色 粘性・しまり中 ローム小ブロック・ローム粒少量含有
3. 黒色 粘性・しまり中 炭化粒・黄色軽石少量含有
4. 褐色 粘性中、しまりやや強 ローム小ブロック多量、炭化粒少量含有

SI-27カマド 土層説明

1. 暗褐色 粘性・しまり弱 焼土粒・炭化粒やや多く、ローム小ブロック少量含有



第49図 27号住居、及び出土遺物

26号住居 (SI-26) (第6・47～48図、第3表、巻頭3・PL14・36～38)

位置 調査区南部、グリッドD-4～E-4に位置する。**形状・規模** 平面形状は確認できなかった。**重複遺構** 23号住居に切られている。**覆土** 黒色土を主体とする自然堆積と考えられる。**柱穴** 径30×深さ20cm程を測るビットが2基確認された。**遺物** 調査区南壁際からまともに完形土器・破片が現位置に置かれた状態を保つように数十点出土した。特に308が307に挿しこまれた状態で検出されたことは貴重な出土状況を示すものである。**掲載遺物** 24点。**時期** 出土遺物から古墳時代中期と考えられる。**備考** 調査区北壁に径80×深さ10cm程を測る土坑が半円状に検出された。貯蔵穴の可能性もあるが不明瞭である。総体的に遺構としての性格は不明瞭で、住居以外の遺構である可能性もある。

27号住居 (SI-27、SX-1) (第6・49図、第3表、PL14・38)

位置 調査区南東部、グリッドA-4～E-5に位置する。25号住居の西に隣接する。**形状・規模** 北～北東部は調査区外へ広がっているが、平面は方形を成すと思われる。確認状況において主軸N-86°-E、南北2.6×東西2.5m、深さ35cm程を測る。**重複遺構** 2号との新旧関係は不明である。**覆土** 炭化粒含有の黒色土を主体とする人為堆積の可能性が高い。**床** 床面はローム土の地山である。**カマド** 東壁南端部に付設される。確認状況において長さ70×幅50×深さ30cm程を測る。焚口は両袖に竈を用いて壁際に、壁外に50cm程の平坦な燃焼部から50°程傾斜する煙道部を設けている。また、燃焼部中央付近には支脚と思われる竈が直立した状態で確認された。なお、焚口部とその手前には構築材として利用されたと思われる多量の竈が散在しており、自然崩壊した状況が窺える。**遺物** カマド付近から土器片が数十点出土した。また、角閃石安山岩（写真掲載のみ）の切り石が4点程出土している。**掲載遺物** 3点。**時期** 出土遺物から11世紀と考えられる。**備考** 貯蔵穴・柱穴等は確認されなかった。

(3) 集石遺構・土坑・ビット (SX・SK・P)

集石遺構 (SX-4) (第6・50・52図、第1・3表、PL15・39)

位置 調査区南西部、グリッドB-4～B-5に位置する。**形状・規模** 1m程離れた隣接する2箇所で径70cm程の範囲に竈がまともに出土した。特に意識的に配列、積み重ねた状況は窺えなかった。いずれも下方に掘り方は確認できなかった。**重複遺構** 25号住居内、覆土上端部に検出された。**遺物** 竈と混在するように土器片が数点出土した。**掲載遺物** 1点。**時期** 時期不明であるが、25号住居が埋められた時期に一致すると思われる。**備考** 性格不明ではあるが、25号住居を埋める際に竈をまとめて廃棄した状況が想像される。

土坑 (SK)・ビット (P) (第4～6・50～53図、第1～3表、PL15～17・39)

土坑20基（3号土坑欠番）、ビット3基を確認したが、調査範囲の制約、掘乱や重複遺構による削平を受けていることから十分な情報は得られなかった。また、重複遺構との新旧関係も不明瞭なものが多く、そのほとんどが性格、時期について判断し難い状況である。各遺構の概略は一覧表（第1・2表）のとおりである。

第1表 土坑一覧表

計測単位＝cm

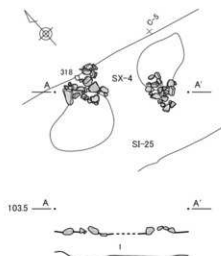
番号	位置	計測値/残存値 長軸 短軸 深さ	平面形	断面形	出土遺物	備考
1	A-7	108 72 42	楕円形?	—	なし	北東部を確認したのみである。
2	E-21-22	131 133 91	—	船底状	礎、土器片 数十点 / 掲載遺物 2点	9-18号住居を切る。東部は調査区外
3	欠番					
4	E-24-25	124 75 56	—	箱状	土器片 数点 / 掲載遺物 2点	住居の可能性あり。南東部を確認したのみである。
5	F-28	80 90 5	隅丸方形?	不整形	土器片 数点	14号住居に切られる。
6	E-21	54 48 56	方形	箱状	土器片 数点	13号住居床下に検出された。掘立建物柱穴?
7	F-27-28	233 60 71	—	逆台形	土器片 数十点 / 掲載遺物 1点	北東部を確認したのみである。
8	E-35	206 83 49	—	逆台形	なし	南部を確認したのみである。
9	F-30	62 60 —	円形	—	土器片 数十点 / 掲載遺物 1点	10号土坑の南に隣接
10	F-30	72 70 8	円形	皿状	礎、土器片 数点	焼土層あり。11号土坑の北に隣接

番号	位置	計測値/残存値 長軸 短軸 深さ	平面形	断面形	遺物	備考
11	C-16	113 82 27	隅丸方形	逆台形	土器片 数点 / 掲載遺物 1 点	7 号住居床下。14 号土坑との新旧関係不明。鉄器出土
12	C-17	83 69 18	不整楕円形	不整形	土器片 数点 / 掲載遺物 1 点	7 号住居床下に検出。遺物は覆土上面から出土
13	C-17	68 63 14	楕円形?	不整形	土器片 数点 / 掲載遺物 1 点	7 号住居床下に検出。15 号土坑に切られる。
14	C-16	61 48 24	楕円形?	—	なし	7 号住居床下に検出。11 号土坑との新旧関係は不明。
15	C-17	90 33 41	—	—	なし	7 号住居を切る。
16	C-17	78 34 46	—	—	なし	7 号住居。15 号土坑を切る。20 号土坑との新旧関係不明。
17	D-19	120 119 15	円形	皿状	なし	P-3 と隣接
18	C-18	122 102 12	楕円形	皿状	土器片 十数点 / 掲載遺物 1 点	22 号住居に切られる。
19	C-17	110 100 10	円形	皿状	なし	22 号住居を切る。
20	C-17	128 83 16	楕円形?	皿状	なし	7 号住居。15 号土坑との新旧関係不明。
21	C-17	84 37 15	—	—	土器片 数十点	7 号住居に切られる。

第 2 表 ビット一覧表

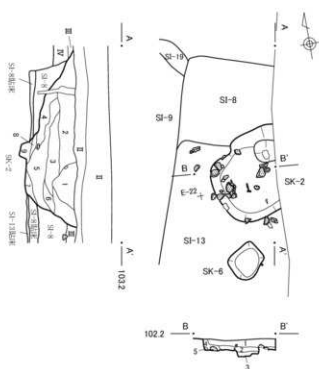
計測単位 = cm

番号	位置	計測値/残存値 長軸 短軸 深さ	平面形	断面形	遺物	備考
1	A-8+B-8	80 33 35	円形?	U 字状	なし	柱穴?
2	B-9	77 62 42	円形?	U 字状	なし	柱穴?
3	D-19	45 44 40	方形	漏斗状	なし	柱穴?



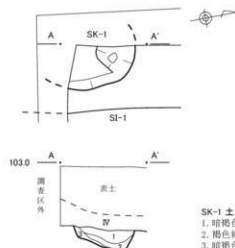
SK-4(集石) 土層説明

1. 黒褐色 粘性・しまり中 黄色軽石や多く、焼土粒・炭化粒少量含有



SK-2 土層説明

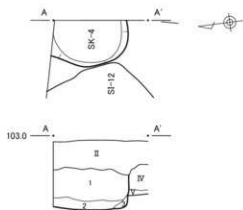
1. 黒褐色 粘性・しまり部 やや砂質 円礫や多く、焼土粒・炭化粒少量含有
2. 黒褐色 粘性・しまり部 焼土粒・炭化粒少量含有
3. 暗褐色 粘性弱、しまり中 焼土粒・炭化粒少量含有
4. 褐色 粘性・しまりやや強 ローム主体、地山小礫少量含有
5. 暗褐色 粘性・しまり中 ローム小ブロックや多く、焼土粒・炭化粒少量含有
6. 暗褐色 粘性弱、しまり中 焼土粒・炭化粒少量含有
7. 暗褐色 粘性・しまり中 ローム小ブロックや多く含有
8. 褐色 粘性・しまり中 ローム小ブロック多量、地山小礫少量含有
9. 暗褐色 粘性・しまり中 ローム粒・焼土粒少量含有



SK-1 土層説明

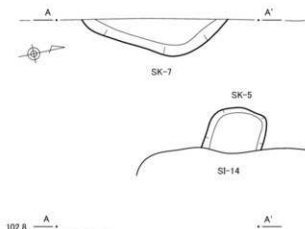
1. 暗褐色 褐色土ブロック微量含有
2. 褐色粘質土 黄色粒微量含有
3. 暗褐色粘質土

第 50 図 集石遺構、1・2・6 号土坑



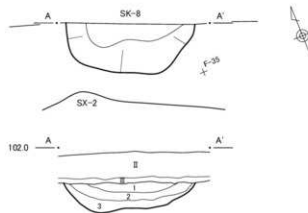
SK-4 土層説明

1. 黒褐色 粘性弱、しまり中 白色軽石やや多く、焼土粒・炭化粒少量含有
2. 暗褐色 粘性・しまり中 白色軽石・ローム小ブロックやや多く含有
3. 暗褐色 粘性・しまり中 白色・黄色軽石若干含有



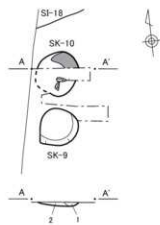
SK-7 土層説明

1. 黒褐色 白色パズ・ローム粒少量含有
2. 黒色 ローム粒少量、白色パズ含有



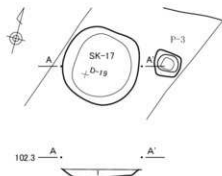
SK-8 土層説明

1. 褐色 火山灰・黄色粒少量含有
2. 褐色 火山灰・黄色粒少量、炭化粒含有
3. 暗褐色粘質土 火山灰・黄色粒少量含有



SK-10 土層説明

1. 赤褐色 粘性弱、しまり中 焼土主体炭化粒少量含有
2. 暗褐色 粘性・しまり中 焼土粒・炭化粒やや多く含有

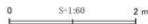


SK-17 土層説明

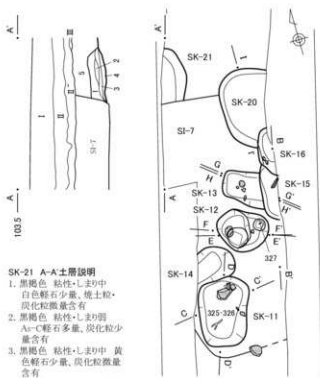
1. 黒褐色 粘性・しまり中 ローム小ブロック・ローム粒やや多く、白色軽石少量含有

P-3 覆土

1. 黒褐色 粘性弱、しまり中 白色軽石やや多く、ローム粒・炭化粒少量含有



第 51 図 4・5・7・8・10・17 号土坑、3 号ピット



SK-21 A-A'土層説明

1. 黒褐色 粘性・しまり中 白色軽石少量、焼土粒・炭化粒微量含有
2. 黒褐色 粘性・しまり弱 A-C軽石多量、炭化粒少量含有
3. 黒褐色 粘性・しまり中 黄色軽石少量、炭化粒微量含有
4. 暗褐色 粘性・しまり中 黄色軽石・ローム小ブロック少量含有
5. 黒褐色 粘性弱、しまり中 白色軽石・黄色軽石少量含有

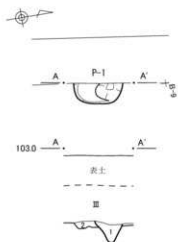
※ 5層は壁のみの確認で遺構の可能性あり

11・12土坑 C-C'・E-E'土層説明

1. 暗褐色 粘・しまり有 ローム粒・焼土粒やや多量
2. 暗褐色(1層より明) 粘・しまり有 ローム粒・焼土粒・炭化粒多量、ローム小ブロック少量
3. 褐色 粘・しまり有 ローム小ブロック多量、焼土粒・炭化粒少量
4. 黒褐色 粘・しまり有 焼土粒・炭化粒やや多量

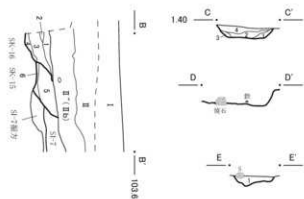
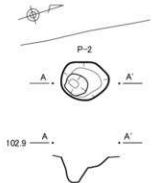
13・15土坑 G-G'

1. 暗褐色 粘・しまり有 ローム粒やや多量、焼土粒・炭化粒少量
2. 12土坑1層と同じ
3. 13土坑1層と同じ(色調暗)
4. 褐色 粘・しまり有 ローム粒・焼土粒多量、炭化粒少量



P-1 土層説明

1. 黒褐色土・黄褐色土ブロック(ローム)微量混
2. 黄褐色粘質土

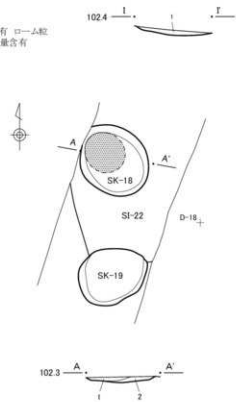


SK-15-16 B-B'土層説明

1. 暗褐色 粘性中、しまりやや強 焼土粒・炭化粒やや多く含有
2. 黒色 粘性・しまり弱 炭化粒含有
3. 暗褐色 粘性・しまり中 炭化粒・ローム粒やや多く含有
4. 暗褐色 粘性中、しまりやや強 ローム小ブロックやや多く含有
5. 黒褐色 粘性・しまり中 焼土粒やや多く、炭化粒・ローム粒少量含有
6. 暗褐色 粘性中、しまりやや強 ローム小ブロックやや多く、焼土粒・炭化粒少量含有

SK-20 I-I'土層説明

1. 暗褐色 粘性・しまり有 ローム粒やや多く、焼土粒少量含有



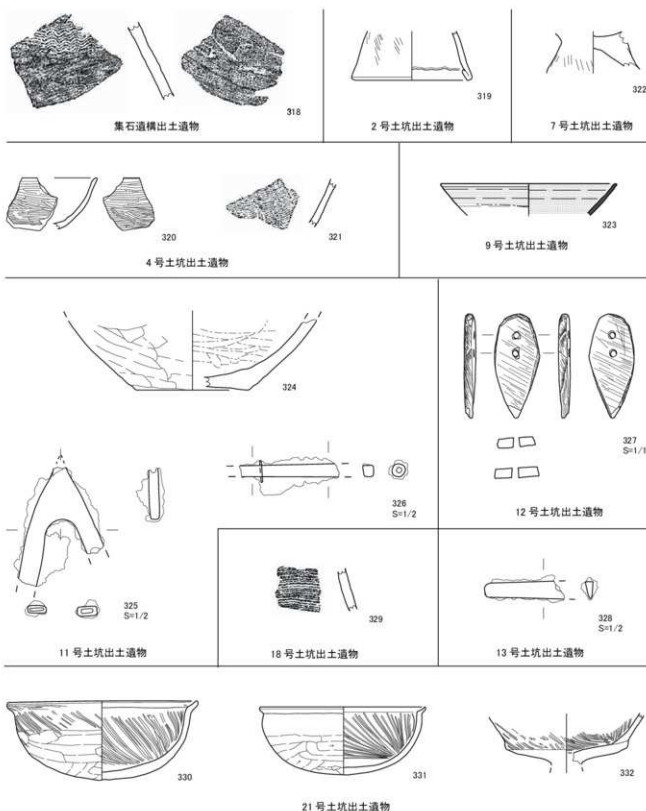
SK-18 土層説明記

1. 赤褐色 粘性・しまり中 焼土ブロック多量、炭化粒少量含有
2. 暗褐色 粘性・しまり中 焼土粒やや多く、炭化粒・地山ローム小ブロック少量含有

SK-19 覆土

1. 黒褐色 粘性・しまり中 やや砂質 白色軽石少量含有

第52図 11～16・19・20号土坑、1・2号ピット

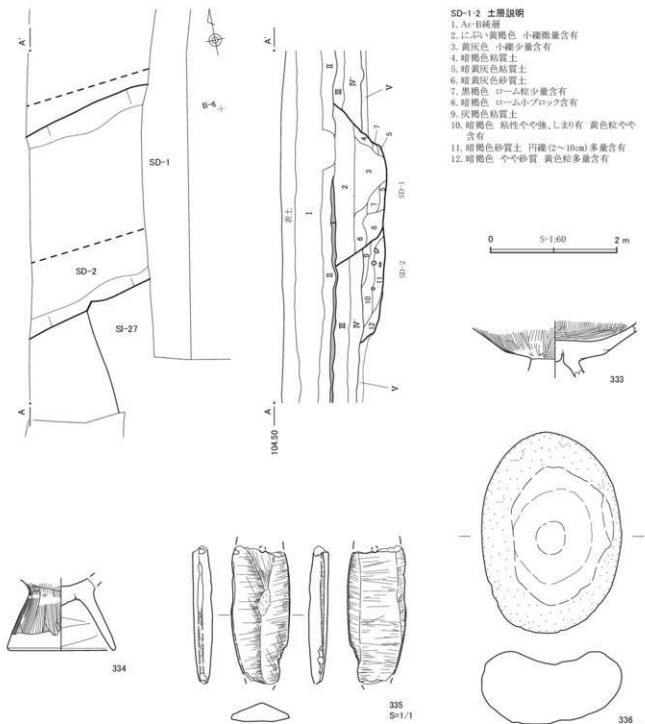


第53图 土坑出土遺物

(4) 溝 (SD)

1号溝 (SD-1) (第6-54図、第3表、PL17-39)

位置 調査区南西部、グリッドA-5～A-6に位置する。**形状・規模** 調査区を東西に横断し、両側とも調査区外へ伸びている。確認状況において主軸N-83°-E、長さ2.7×幅2.4m程を測り、断面は逆台形を成し深さ85cm程を測る。**重複遺構** 南側を平行して走る2号溝を切っている。**覆土** 最上層は水平堆積を成し、その下層北寄りには逆台形状に掘り込まれた状態が明瞭に観察できる。最終的にAs-B下面整地の一環として人為的に埋められた可能性が高い。**遺物** 覆土中から土器片が数十点出土した。掲載遺物2点。**時期** As-B下から掘り込まれていること、2号溝を切っていることから12世紀以前であることは確実である。



第54図 1-2号溝、及び出土遺物

2号溝 (SD-2) (第6-54図、第3表、PL17-39)

位置 調査区西南部、グリッドA-5～A-6に位置する。**形状・規模** 調査区を東西に横断し、両側とも調査区外へ伸びている。確認状況において主軸N-75°-E、長さ2.4×幅1.8m程を測り、断面は皿状を成し、深さ40cm程を測る。**重複遺構** 北側を平行して走る1号溝に切られている。**覆土** 最下層に多量の礫を含む自然堆積と考えられる。**遺物** 覆土中から土器片が十数点、石製品が2点出土した。掲載遺物2点。**時期** 1号溝に切られ、IV層下に掘り込まれていることから古墳時代以前と考えられる。

3～5号溝 (SD-3～5) (第55図、Ⅶ 自然科学分析、PL18)

位置 調査区南部、グリッドB-11・B-12に位置する。**形状・規模** 3～5溝を含む平行して走る同一覆土の溝が6条確認された。畑状を成す一体の遺構と判断し、1～6畝とした。いずれも調査区を東西に横断し、両側とも調査区外へ伸びている。確認状況において主軸N-76°-E、長さ1.9m×幅35cm程を測り、断面はU字状を成し、深さ10cm程を測る。**重複遺構** 2・3・4号住居を切っている。**覆土** As-C拡充の単層を成す。**遺物** 出土遺物なし。**時期** 重複遺構との新旧関係、As-C堆積層が認められるから弥生時代と考えられる。**備考** ブランド・オパール分析の結果テフラ下にイネが検出され、稲作が行われていた可能性が高いことが指摘されている。

6号溝 (SD-6) (第55図、PL18)

位置 調査区南部、グリッドB-11に位置する。**形状・規模** 調査区を東西に横断し、両側とも調査区外へ伸びている。確認状況において主軸N-95°-E、長さ1.9×幅1.6m程を測り、断面は逆台形状を成す。**重複遺構** 2号ピットを切っている。**覆土** 最下層にAs-B堆積層。**遺物** 出土遺物なし。**時期** 覆土下層にAs-B堆積層が認められることから12世紀以前であることは確実である。

7号溝 (SD-7) (第55図)

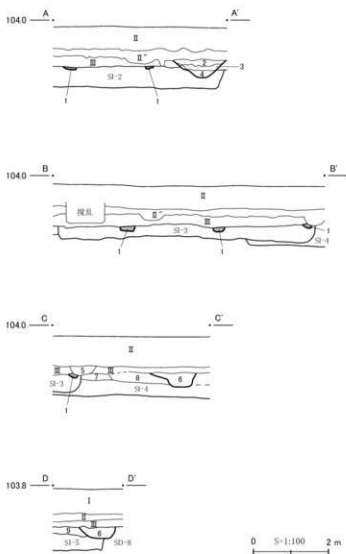
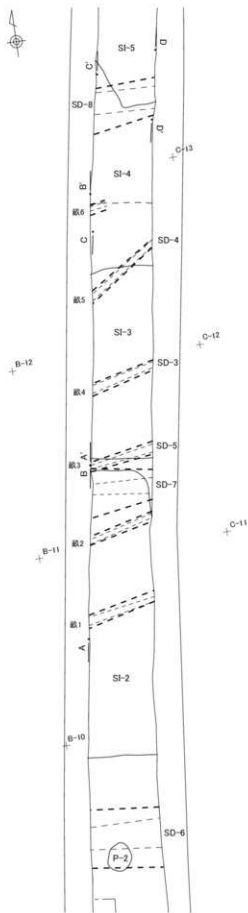
位置 調査区南部、グリッドB-9に位置する。**形状・規模** 調査区を東西に横断し、両側とも調査区外へ伸びている。確認状況において主軸N-91°-E、長さ1.6×幅1.3m程を測り、断面は逆台形状を成し、深さ48cm程を測る。**重複遺構** 2号住居を切っている。**覆土** ローム小ブロック含有暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。As-B混土層下に掘り込まれている。**遺物** 出土遺物なし。**時期** As-B混土層直下に掘り込まれていることから12～13世紀頃の可能性が高いと考えられる。

8号溝 (SD-8) (第55図)

位置 調査区南部、グリッドB-13に位置する。**形状・規模** 調査区を東西に横断し、両側とも調査区外へ伸びている。確認状況において主軸N-87°-E、長さ1.6×幅1.5m程を測り、断面は逆台形状を成し、深さ38cm程を測る。**重複遺構** 4・5号住居を切っている。**覆土** 黒褐色土の単層を成す。**遺物** 出土遺物なし。**時期** 時期不明。

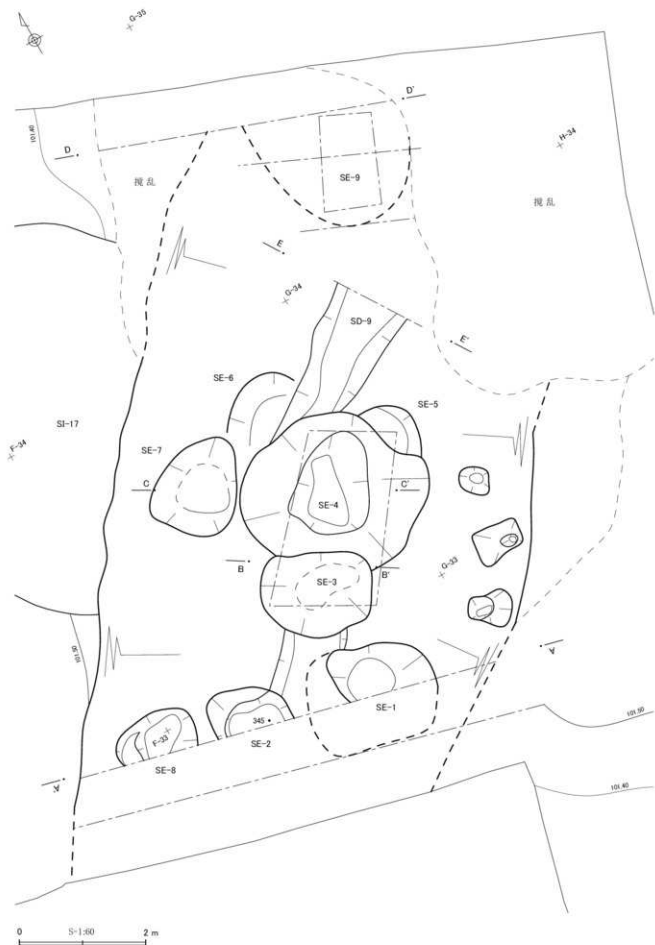
9号溝 (SD-9) (第4-56図、第3表、PL18・19-40)

位置 調査区北端部、グリッドE-32～G-34に位置する。**形状・規模** 調査区を南北に横断し、両側とも調査区外へ伸びている。攪乱によって大きく削平されている部分もあるが、確認状況において主軸N-38°-E、長さ11.9×上幅6.6・下幅1.0m程を測る。断面は葉研状を成し、深さ2.5m程を測る。**重複遺構** 17号住居、2・4・8号井戸を切り、1・7号井戸に切られている。3・5・6・9号井戸との新旧関係は不明瞭である。**覆土** 上層にAs-Kk、As-Bを含む自然堆積である。**遺物** 覆土中から土器片が数十点出土した。掲載遺物7点。**時期** 覆土上層にAs-B堆積層が認められることから12世紀以前であることは確実である。



SD-3~8 土層説明

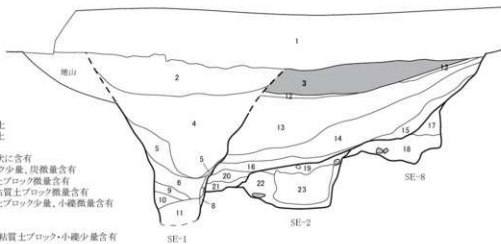
1. 灰色火山灰(2よりやや暗色) As-CI117純層 礫層土
2. 暗褐色 粘性弱、しまり中 白色軽石やや多く含有
3. 黒褐色 粘性・しまり中 白色・黄色軽石少量含有
4. 暗褐色 粘性・しまり中 ローム小ブロックやや多く、焼土粒・炭化物粒少量含有
5. 暗褐色 粘性・しまり弱 焼土粒・炭化物粒少量含有
6. 暗褐色 炭・火山灰・褐色土ブロック微量含有
7. 黒褐色 粘性弱、しまり中 黄色粒・焼土粒微量含有
8. 黒褐色 炭・火山灰少量含有
9. 黒褐色 炭・火山灰少量含有



第56图 9号溝、1~9号井戸

102.5 A

A'



SE-1-2-8 A-A' 土層説明

1. 暗褐色砂質土 Aa-A混土
2. 暗褐色砂質土 Aa-B混土
3. Aa-B純層
4. 黒灰色砂質土 Aa-B形状に含有
5. 暗褐色 黄褐色土ブロック少量、炭微量含有
6. 暗褐色粘質土 黄褐色土ブロック微量含有
7. 暗褐色粘質土 暗褐色粘質土ブロック微量含有
8. 暗褐色粘質土 黄褐色土ブロック少量、小礫微量含有
9. にぶい黄褐色粘質土
10. 黄褐色粘質土
11. 黒褐色粘質土 黄褐色粘質土ブロック・小礫少量含有
12. 暗褐色 灰・焼土少量含有
13. 暗褐色 やや砂質 火山灰・炭微量含有
14. 黒褐色 火山灰・炭微量含有
15. 暗褐色 火山灰微量含有
16. 褐色 灰黄褐色土・炭微量含有
17. 暗褐色 褐色土ブロック・黄褐色土ブロック少量含有
18. 暗褐色粘質土
19. 暗褐色粘質土 炭微量含有
20. 暗褐色粘質土 黒褐色粘質土ブロック少量含有
21. 暗褐色粘質土 砂礫多量、炭微量含有
22. 暗褐色粘質土 炭微量、小礫含有
23. 灰黄砂質土 ローム混れ込み
24. 黒褐色 火山灰微量含有
- ※ 20～22 SD-9号下層

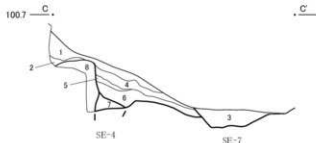


SE-3 B-B' 土層説明

1. 暗褐色粘質土
2. にぶい黄褐色粘質土 黄褐色粘質土ブロック少量含有
3. 褐色粘質土 黄褐色粘質土ブロック少量、炭微量含有
4. 黒褐色砂質土 小礫(5～10cm程)多量、炭微量含有

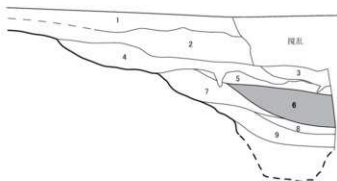
SE-4-7 C-C' 土層説明

1. 黒褐色 黄褐色土ブロック・灰黄色土ブロック少量含有
2. 黒色
3. 暗褐色砂質土 礫(5～20cm程)多量、炭微量含有
4. 灰黄色 黒褐色土ブロック少量含有
5. 灰黄褐色粘質土
6. 黒褐色 灰黄色土ブロック微量含有
7. 灰白色粘質土 黒褐色土ブロック少量、小礫・炭微量含有
8. 灰黄色粘質土 しまり有 軽石少量含有 地山



102.0 D

D'



SE-9 D-D', SD-9 E-E' 土層説明

1. にぶい黄褐色砂質土 Aa-A混土
2. 褐色砂質土 軽石少量含有
3. 褐色砂質土 軽石微量含有
4. 褐色土
5. 灰色シルト
6. (1)～(6)に分類
 - (1) 青灰色砂質土 Aa-Kk
 - (2) 薄紫色砂質土 Aa-B
 - (3) 黒灰色火山灰 Aa-B
 - (4) 灰白色火山灰 Aa-B
 - (5) 薄紫色火山灰 Aa-B
 - (6) 暗灰色火山灰 Aa-B
7. 黒褐色 火山灰・赤色粒少量含有
8. 褐色 火山灰少量含有
9. にぶい黄褐色 火山灰少量含有
10. 黄褐色
11. 黄褐色粘質土 暗褐色粘質土ブロック含有
12. 暗褐色粘質土 炭微量含有
13. 黒褐色粘質土 炭微量含有
14. にぶい黄褐色砂質土
15. 暗褐色粘質土 砂礫多量、炭微量含有

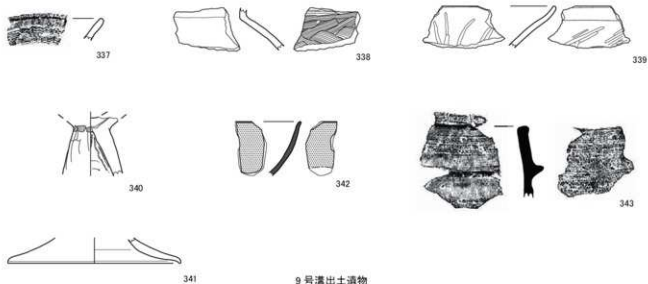
100.5 E

E'

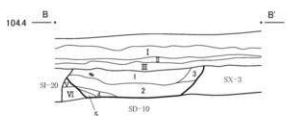
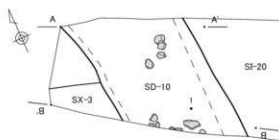


0 S=1:50 2 m

第57図 9号溝、1～9号井戸土層断面

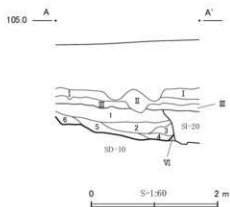


9号溝出土遺物



SD-10 土層説明

1. 黒褐色 粘性・しり中 白色・黄色軽石少量、焼土粒・炭化粒若干含有
2. 黒褐色 粘性・しり中 川原石(5~10cm)少量、焼土粒・炭化粒若干含有
3. 黒色 粘性・しり中 白色・黄色軽石少量含有
4. 暗褐色 粘性やや強、しり中 黄色軽石・地山小ブロック少量含有
5. 暗褐色 粘性・しり中 地山小ブロック多量含有
6. 暗褐色 粘性・しり中 地山小ブロック多量含有



10号溝出土遺物

第58図 10号溝、及び9・10号溝出土遺物

10号溝 (SD-10) (第6-58図、第3表、PL19-40)

位置 調査区南部、グリッドG-2に位置する。**形状・規模** 調査区を南北に横断し、両側とも調査区外へ伸びている。確認状況において主軸N-4°-W、長さ3.0×上幅1.6・下幅1.4m程を測る。断面は逆台形を成し、深さ50cm程を測る。**重複遺構** 3号不明遺構を切り、20号住居に切られている。**覆土** 焼土粒・炭化粒・川原石含有黒褐色土を主体とする自然堆積である。**遺物** 覆土中から土器片が数点出土した。掲載遺物1点。**時期** 重複遺構との新旧関係から11世紀以前であることは確実である。

(5) 井戸 (SE)

1号井戸 (SE-1) (第4-56-57図、PL18-19)

位置 調査区北端部 (9号溝内)、グリッドF-32に位置する。**形状・規模** 南部は調査区外に広がっているが、円形を成すと思われる。確認状況において上径1.8×下径0.9m程を測り、断面は屈曲の弱い漏斗状を成し、深さ2.8m程を測る。なお、発掘調査時において井戸と判断されたが、Eセクションに見られる9号溝の築研状を成す掘り込みである可能性も考えられる。**重複遺構** 9号溝を切っている。**覆土** 上層は部分的にAs-Bが帯状に堆積し、下層は黄褐色土ブロック・小礫含有の暗褐色粘質土を主体とする自然堆積と考えられる。**遺物** 出土遺物なし。**時期** As-Bを切っているから12世紀以降であることは確実である。

2号井戸 (SE-2) (第4-56-57-59図、第3表、PL18-19-40)

位置 調査区北端部 (9号溝内)、グリッドF-32に位置する。**形状・規模** 上方は9号溝に削平され、南部は調査区外に広がっているが、円形を成すと思われる。確認状況において径1.4×深さ0.9m程を測る。**重複遺構** 8号井戸を切り、9号溝に切られている。**覆土** 覆土の大半を中央部の大きなロームブロックが占有する。**遺物** 覆土中から土器片、埴輪片が数点出土した。掲載遺物2点。**時期** 重複遺構の新旧関係から12世紀以前であることは確実である。

3号井戸 (SE-3) (第4-56-57-59図、第3表、PL18-19-40)

位置 調査区北端部 (9号溝内)、グリッドF-33に位置する。**形状・規模** 上方は9号溝に削平されているが、確認状況において不整形円形を成し、東西1.7×南北1.4m程を測る。下端は湧水が激しく、確認できなかった。**重複遺構** 9号溝底面で確認したが、4号井戸、9号溝との新旧関係は不明瞭である。**覆土** 小礫 (5～10cm程) 多量含有黒褐色砂質土を主体とする自然堆積と考えられる。**遺物** 覆土中から土器片が数点出土した。掲載遺物3点。**時期** 時期不明。

4号井戸 (SE-4) (第4-56-57-59図、第3表、PL18-19-40)

位置 調査区北端部 (9号溝内)、グリッドF-33-34に位置する。**形状・規模** 上方は9号溝に削平されているが、確認状況において不整形円形を成し、東西3.0×南北2.5m程を測る。下端は湧水が激しく、確認できなかった。**重複遺構** 9号溝を切るが、4・5・6号井戸との新旧関係は不明瞭である。**覆土** 小礫含有灰白色粘質土を主体とする。**遺物** 覆土中から土器片が数点出土した。掲載遺物1点。**時期** 重複遺構の新旧関係から12世紀以前であることは確実である。

5号井戸 (SE-5) (第4-56-57図、PL18-19)

位置 調査区北端部 (9号溝内)、グリッドG-33に位置する。**形状・規模** 上方は9号溝に削平され、南部は4号井戸と重複するが、円形を成すと思われる。確認状況において東西1.0×南北0.8m程を測る。下端は湧水が激しく、確認できなかった。**重複遺構** 9号溝底面で確認したが、4号井戸、9号溝との新旧関係は不明瞭である。**遺物** 出土遺物なし。**時期** 時期不明。

6号井戸 (SE-6) (第4-56-57図、PL18-19)

位置 調査区北端部 (9号溝内)、グリッドF-33に位置する。**形状・規模** 上方は9号溝に削平され、南部は4・7号井戸と重複するが、円形を成すと思われる。確認状況において東西1.0×南北0.9m程を測る。下端は湧水が激しく、確認できなかった。**重複遺構** 9号溝底面で確認したが、4・7号井戸、9号溝との新旧関係は不明瞭である。**遺物** 出土遺物なし。**時期** 時期不明。

7号井戸 (SE-7) (第4-56-57図、PL18・19)

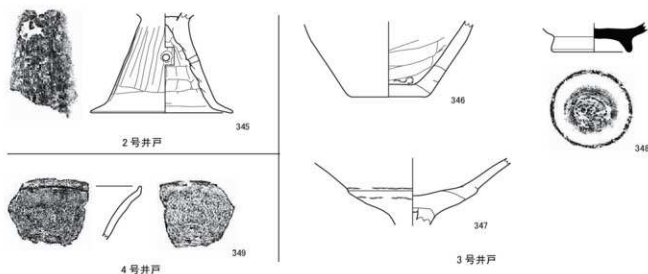
位置 調査区北端部 (9号溝内)、グリッドF-33に位置する。**形状・規模** 確認状況において不整形円形を成し、長軸1.6×短軸1.3m程を測る。断面は逆台形を成し、深さ30cm程を測る。**重複遺構** 9号溝を切っている。**遺物** 出土遺物なし。**時期** 時期不明。

8号井戸 (SE-8) (第4-56-57図、PL18・19)

位置 調査区北端部 (9号溝内)、グリッドF-32・33に位置する。**形状・規模** 上方は9号溝に削平され、南部は調査区外に広がっているが、円形を成すと思われる。確認状況において径1.3×深さ0.8m程を測る。**重複遺構** 9号溝、2号井戸に切られている。**覆土** 暗褐色土を主体とする自然堆積と考えられる。**遺物** 出土遺物なし。**時期** 重複遺構の新旧関係から12世紀以前であることは確実である。

9号井戸 (SE-9) (第4-56-57図、PL18・19)

位置 調査区北端部 (9号溝内)、グリッドG-34に位置する。**形状・規模** 調査区北端の土層断面に深さ40cm程の逆台形状を成す掘り込みを確認した。発掘調査時において井戸と判断されたが、Eセクションに見られる9号溝の葉研状を成す掘り込みである可能性が高い。**遺物** 出土遺物なし。**時期** 時期不明。



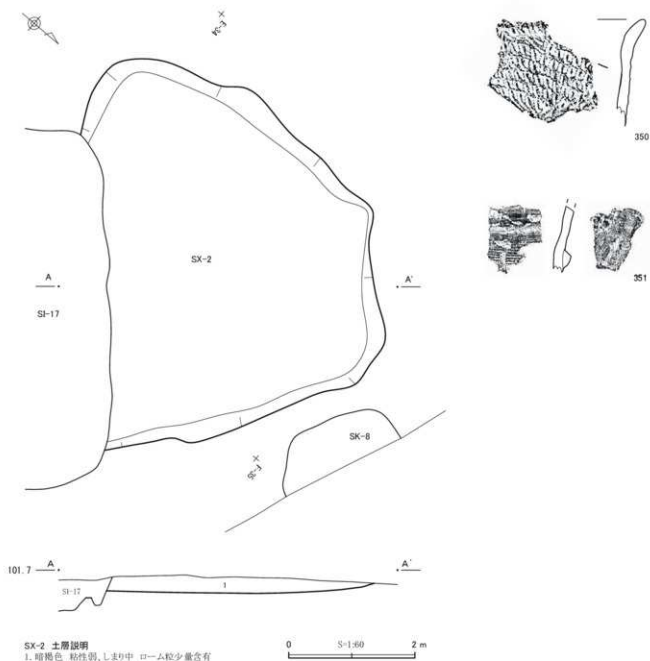
第59図 井戸出土遺物

(6) 性格不明遺構 (SX)

1回目の調査において南端部に検出した1号不明遺構は、2回目の調査において住居であることが判明したことから27号住居とした。

2号不明遺構 (SX-2) (第4-60図、第3表、PL19・40)

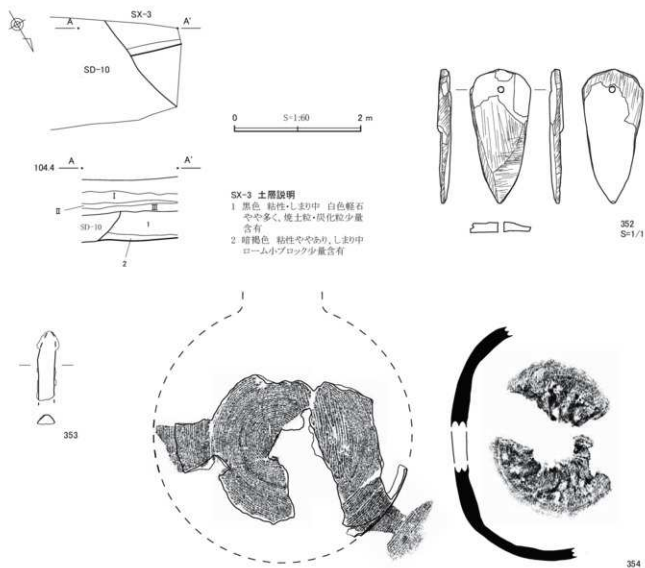
位置 調査区北西端部、グリッドE-33～F-34に位置する。**形状・規模** 東部を17号住居に切られ不明瞭であるが、確認状況において不整形形を成し、南北6.1×東西5.1m程を測り、底面はほぼ平坦で深20cm程を測る。**重複遺構** 17号住居に切られている。**覆土** 単層を成すが、自然、人為堆積の判断は難しい。**遺物** 覆土中から縄文土器片、埴輪片が数点出土した。**時期** 17号住居より古いことは確実であるが、時期不明である。



第 60 図 2 号不明遺構、及び出土遺物

3 号不明遺構 (SX-3) (第 6-61 図、第 3 表、PL19-40)

位置 調査区南部、グリッド G-2 に位置する。**形状・規模** 遺構のほとんどが調査区外へ拉り、10 号溝に切り取られているため詳細は不明である。確認状況において南北 95 × 東西 80 × 深 50 cm 程を測る。**重複遺構** 10 号溝に切られている。**覆土** 焼土粒・炭化粒含有黒色土を主体とする自然堆積と考えられる。**遺物** 覆土中から須恵器提瓶 1 点、石製品 1 点、鉄製品が数点出土した。**時期** 重複遺構との新旧関係から 11 世紀以前であることは確実である。

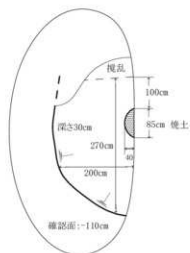


第 61 図 3 号不明遺構、及び出土遺物

(7) 工事立会、遺構外の出土遺物 (第 62-63 図、第 3 表、PL40-41)

本調査区の南約 50m の現況道路において平成 20 年 6 月に東京ガス株式会社によるガス管理め換え工事に伴い、高崎市教育委員会が工事立会を実施した。その結果、現況下 110 cm 程に炉を含む住居と考えられる遺構が確認され、多量の遺物が出土した。形状は不明瞭であるが、確認状況において南北 2.7 × 東西 2.0 × 深さ 0.3 程を測る。縄属時期は出土遺物から弥生時代後期～古墳時代初頭と考えられる。

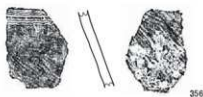
遺構外出土遺物は表土掘削、遺構確認作業時に出土し、出土遺構を特定できなかった遺物である。



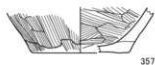
H20-19 工事立会
道構横出状況略図



355



356



357



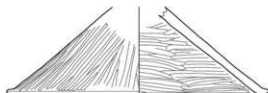
358



359



360



361

第 62 図 工事立会結果略図、及び出土遺物



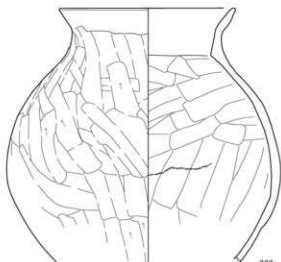
362



364



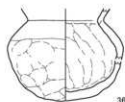
365



363



366



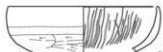
367



368



370

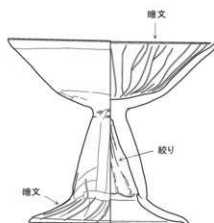
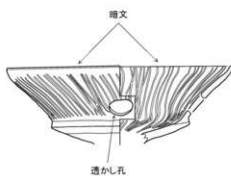
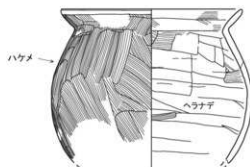
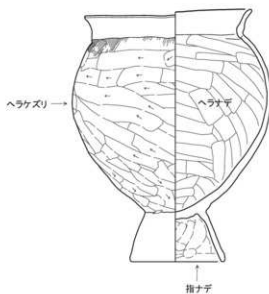
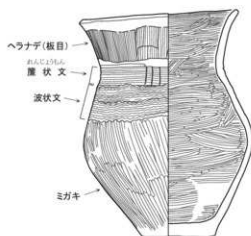


369

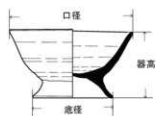
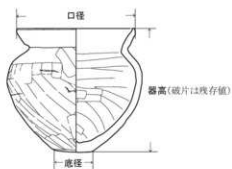
第 63 図 道橋外出土遺物

出土遺物観察表 凡例

整形痕



計測値



第3表 出土遺物観察表

No.	部位	段	計測値		段間計測値		透孔 形状	突帯 断面 /2cm	ハケ	調整および特徴		色調	胎土	注記		
			器高	口径	底部	①				②	外面				内面	
1	体	基	片	<32.0>	—	14.1	15.5	11.5	—	M	5	縦ハケ 突帯上下に爪跡 断続ナゲ技法 A 基 部焼きムラあり	指ナゲ	橙	石英片岩, 石英, 白・赤 色粒	1 墳一括
2	体	基	片	<23.3>	—	13.9	13.8	—	—	M	14	縦ハケ 基部ややダレ あり	指ナゲ	橙	石英片岩, 石英, 骨針, 白・赤色粒	1 墳 No. 20・ 30・36・ 一括
3	基	片	<11.4>	—	13.2	—	—	—	—	—	13	縦ハケ	指ナゲ	明赤 陶	石英片岩, 石英, 骨針, 白・赤色粒	1 墳 No. 23・ 25・55・ 一括
4	口	体	片	<19.1>	18.6	—	第3段 10.7	—	—	M	13	縦ハケ 口縁直線的で 端部やや反る	斜ハケ 線刻\、 あり	橙	石英, 骨針, 白・赤色粒	1 墳一括
5	口	体	片	<13.0>	—	—	第3段 10.4	—	—	M	12	縦ハケ 口縁端部やや 屈曲	斜ハケ 線刻\、 あり	橙	石英, チャート, 絹雲母, 白・赤色粒	1 墳 No. 23・ 55・一括
6	口	片	<4.0>	—	—	—	—	—	—	—	5	斜ハケ 口縁ゆるく外反	斜ハケ	にぶ い橙	石英, 骨針, 白・赤色粒	1 墳一括
7	口	片	<6.6>	—	—	—	—	—	—	—	6	縦ハケ 口縁直線的 線 刻あり 線刻不明瞭	斜ハケ	橙	石英, 骨針, 白・赤色粒	1 墳一括
8	体	片	<7.0>	—	—	—	—	半円?	M	5	縦ハケ	指ナゲ・斜ハケ	橙	石英, 骨針, 白・赤色粒	1 墳一括	
9	口	片	<9.0>	—	—	—	—	—	—	—	6	縦ハケ 口縁端部が体 部より薄い	斜ハケ	橙	石英片岩, 石英, 白・赤 色粒	1 墳一括
10	口	片	<9.9>	—	—	—	—	—	—	—	11	斜ハケ 口縁端部屈曲	指ナゲ・斜ハケ	橙	石英, 骨針, 白・赤色粒	1 墳一括
11	口	片	<5.3>	—	—	—	—	—	—	—	4	縦ハケ 口縁端部屈曲	斜ハケ	橙	石英, 骨針, 白・赤色粒	1 墳一括
12	体	片	<6.9>	—	—	—	—	半円?	M	6	縦ハケ 断続ナゲ技法 A	指ナゲ・斜ハケ 線刻\あり	橙	石英片岩, 石英, 骨針, 白・赤色粒	1 墳一括	
13	体	片	<8.2>	—	—	—	—	円 or 半円	M	13	縦ハケ	指ナゲ・斜ハケ	橙	石英, 白・赤色粒	1 墳一括	
14	体部	片	<17.5>	—	—	—	—	—	—	M	13	縦ハケ	指ナゲ	橙	角閃石, 石英, 骨針, 白・ 赤色粒	1 墳一括
15	体	片	<12.0>	—	—	—	—	—	?	M	13	縦ハケ	指ナゲ・斜ハケ	橙	石英片岩, 石英, 骨針, 白・赤色粒	1 墳一括
16	体	片	<6.8>	—	—	—	—	—	—	台形	11	縦ハケ	指ナゲ・ハケ 線 刻\あり	橙	石英片岩, 石英, 白・赤 色粒	1 墳 No. 29
17	体	片	<14.4>	—	—	—	—	—	—	M	13	縦ハケ	指ナゲ	橙	石英, 骨針, 白・赤色粒	1 墳一括
18	体	片	<6.1>	—	—	—	—	—	—	台形	13	縦ハケ	指ナゲ	橙	角閃石, 石英片岩, 石英, チャート, 骨針, 白・赤色 粒	1 墳 No. 28・ 一括
19	基	片	<8.0>	—	—	—	—	—	—	—	13	縦ハケ	指ナゲ	橙	石英片岩, 石英, 骨針, 白・赤色粒	1 墳一括
20	体	片	<4.9>	—	—	—	—	半円	台形	5	縦ハケ	指ナゲ・斜ハケ	橙	石英, 骨針, 白・赤色粒	1 墳一括	
No.	器形	部位	計測値			ハケ		特 徴				色調	胎土	注記		
			器高	幅	器厚	/2cm										
21	馬	吉栗	<5.9>	<6.5>	1.9	3	外面ナゲ調整 内面指ナゲ調整 粘土板・粘土粒貼付 割 差形あり				橙	石英, 白・赤色粒	1 墳一括			
22	馬	障泥	<4.9>	<6.9>	2.6	4	外面縦ハケ調整 内面ハケ調整 粘土板貼付 一部赤彩				橙	石英, 白・赤色粒	1 墳 No. 37			
23	馬	鞍	<3.5>	<5.2>	1.2	—	外面ナゲ調整 端部赤彩				橙	石英, 白・赤色粒	1 墳一括			
24	馬	鞍	<2.4>	<4.5>	1.3	—	外・内面ナゲ調整 端部赤彩				橙	石英, 白・赤色粒	1 墳一括			
25	馬	尾 or 耳	<8.9>	<7.3>	1.6	—	外面ハケ調整 内面指ナゲ調整 粘土板貼付 穿孔あり				橙	石英, 白・赤色粒	1 墳 No. 37・一括			
26	馬	距	<6.3>	<11.2>	1.3	—	外面ハケ調整 内面ナゲ調整 輪郭の剥離跡 赤彩				橙	石英, 白・赤色粒	1 墳一括			
27	馬	鬣	<9.7>	<10.3>	1.4	5	外面横ハケ調整 板状				橙	石英, 白・赤色粒	1 墳 No. 19			
28	馬	鞍	<8.5>	<9.2>	1.7	4	外面ハケ調整 内面指ナゲ調整 粘土板・粘土粒貼付 後輪 赤彩 剥突				橙	石英, 白・赤色粒	1 墳 No. 54			
29	馬	腹帯	<8.1>	<8.7>	1.6	4	外・内面ハケ・ナゲ調整				にぶい橙	石英, 白・赤色粒	1 墳 No. 16			

No.	器形	部位	計測値			ハケ /2cm	特 徴	色調	胎土	注 記
			器高	幅	器厚					
30	馬	駒整	<5.2>	<9.0>	1.2	5	外面ハケ調整 内面ナデ調整 粘土板貼付 馬蹄の剥離跡	橙	石英、白・赤色粒	1墳№17
31	馬	馬蹄	<5.1>	<3.7>	0.8	一	外・内面ナデ調整 格子状の線刻 赤彩	橙	石英、白・赤色粒	1墳№21
32	馬	右前足	<31.6>	10	1.2	4	外面縦ハケ調整 内面指ナデ調整	橙	石英、白・赤色粒	1墳№2・3・5・8・9・ 10・12・31・一括
33	馬	左後足	<33.2>	9.8	1.2	4	外面縦ハケ調整 内面ハケ・指ナデ調整 再切開技法	橙	石英、白・赤色粒	1墳№46・51・52・ 53・68・75・一括
34	馬	左前足	<13.1>	<9.3>	1.2	4	外面縦ハケ調整 内面ハケ・指ナデ調整	にぶい橙	石英、白・赤色粒	1墳№4・7・11・一括
35	馬	右後足	<9.1>	<8.8>	1.2	4	外面縦ハケ調整 内面指ナデ調整 再切開技法 ひづめの切り込み 赤色粒多い	橙	石英、白・赤色粒	1墳№15
36	馬	左前足	<7.1>	<11.3>	1.1	4	外面縦ハケ調整 内面ハケ・指ナデ調整 赤色粒多い	橙	石英、白・赤色粒	1墳№1・6
37	馬	右後足	<13.0>	<11.9>	1.2	4	外面縦ハケ・指ナデ調整 内面指ナデ調整	橙	石英、白・赤色粒	1墳№42・43・44・ 45・48・70・一括
38	馬	左前足	<9.3>	<9.8>	1.0	4	外面縦ハケ調整 内面指ナデ調整	橙	石英、白・赤色粒	1墳№27・一括
No	遺構名 注記名		種別・器種 残存状態		計測値		①胎土 / ②色調 ③焼成		調整・特徴	
39	1 墳	SZ1 一括	土師器 甕 口縁部破片	口： — 底： — 高： 1.4	① 雲母・細織 ② にぶい・橙色 ③ 良好	外：ミガキ 内：ミガキ 赤彩				
40	1 住	SI1 №1	土師器 高坏 口縁へ体部破片	口： 19.4 底： — 高： 7.1	① 雲母・細織 ② にぶい・橙色 ③ 普通	外：ヨコナデ後、ミガキ 内：ヨコナデ後、ミガキ				
41	1 住	SI1 №1・3	土師器 台付甕 ほぼ完形	口： 16.1 底： 9.2 高： 29.3	① 石英・雲母・軽石・細織・小織 ② 橙色 ③ 良好	外：口縁部ヨコナデ 体部ミガキ 台部ヘラナデ 内：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 右部指ナデ				
42	1 住	SI1 №2	土師器 甕 体部破片	口： — 底： — 高： 11.7	① 石英・雲母・軽石・小織・中織 ② 橙色 ③ 普通	外：ヘラケズリ 内：ヘラナデ				
43	1 住	SI1 №4	土師器 台付甕 体部破片	口： — 底： — 高： 4.7	① 石英・細織 ② 褐色 ③ 良好	外：ハケ目 内：ヘラナデ				
44	1 住	SI1 一括	土師器 甕? 体部破片	口： — 底： — 高： 1.3	① 石英・細織 ② 外：赤褐色/内：灰黄色 ③ 良好	外：ヘラナデ（板目）後、ミガキ 内：ヘラナデ 外面赤彩				
45	1 住	SI1 一括	土師器 S字甕 肩部破片	口： — 底： — 高： 3.5	① 石英・細織 ② にぶい・黄褐色 ③ 良好	外：ハケ目 内：ナデ				
46	1 住	SI1 №3	土師器 鉢 ほぼ完形	口： 13.0 底： — 高： 9.1	① 石英・雲母・細織・小織 ② にぶい・橙色 ③ 普通	外：口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部ナデ				
47	2 住	SI2 №5/ 一括	土師器 甕 口縁へ肩部	口： 18.2 底： — 高： 11.1	① 石英・雲母・細織 ② にぶい・橙色 ③ 良好	外：口縁部上端ヨコナデ 口縁へ肩部ヘラナデ後、ミガキ 肩部ミガキ				
48	2 住	SI2 一括	弥生土器 甕 口縁破片	口： — 底： — 高： 7.0	① 石英・チャート・細織 ② 橙色 ③ 普通	外：口縁部ヘラナデ（板目） 肩部縞状文、櫛描き波状文 内：ミガキ				
49	2 住	SI2 一括	弥生土器 甕 口縁破片	口： — 底： — 高： 5.5	① 雲母・細織 ② にぶい・黄褐色 ③ 良好	外：櫛描き波状文 内：ミガキ				
50	2 住	SI2 一括	弥生土器 甕 口縁破片	口： — 底： — 高： 5.5	① 石英・細織 ② 褐色 ③ 良好	外：櫛描き波状文 内：ミガキ				
51	2 住	SI2 №16	弥生土器 甕 口縁破片	口： — 底： — 高： 8.1	① 石英・細織 ② にぶい・褐色 ③ 良好	外：口縁部櫛描き波状文 肩部ヘラナデ（板目） 内：ミガキ				
52	2 住	SI2 №15・40	弥生土器 鉢 口縁へ体部	口： 12.6 底： — 高： 10.7	① 石英・細織 ② にぶい・黄褐色 ③ 普通	外：口縁へ体部上位櫛描き波状文 肩部縞状文 体部下位ヘラナデ 内：ミガキ				

No	遺構名 注記名	種別・器種 残存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③焼成	調整・特徴
53	2住 SI 2 №1 / 一括	弥生土器 鉢 口縁～体部	口： 14.6 底： — 高： 9.1	① 雲母・細礫・小礫 ② にぶい橙色 ③ 普通	外：口縁～体部上位櫛歯きは伏文 頸部縞状文、内貼付 体部下位ヘラナデ 内：指ナデ ミガキ
54	2住 SI 2 P-1 №1	弥生土器 鉢 口縁～体部破片	口： — 底： — 高： 5.6	① 雲母・細礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：口縁部櫛歯きは伏文 頸部縞状文 体部櫛歯き波状文、 ヘラナデ（板目） 内：ミガキ
55	2住 SI 2 一括	弥生土器 甕 口縁破片	口： — 底： — 高： 5.0	① 雲母・細礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：口唇部コナデ 口縁部ヘラナデ（板目） 内：ミガキ
56	2住 SI 2 P-2	弥生土器 鉢 口縁破片	口： — 底： — 高： 3.5	① 石英・チャート・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外：口縁部ミガキ 頸部櫛歯き波状文 内：ミガキ
57	2住 SI 2 一括	弥生土器 鉢 口縁破片	口： — 底： — 高： 4.2	① 石英・細礫 ② 外：明赤褐色／内：黒色 ③ 普通	外：縞状文 櫛歯き波状文 内：ミガキ
58	2住 SI 2 一括	弥生土器 鉢 肩部破片	口： — 底： — 高： 5.0	① 雲母・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外：縞状文 櫛歯き波状文 内：ミガキ
59	2住 SI 2 一括	弥生土器 甕 肩部破片	口： — 底： — 高： 4.9	① 軽石・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	外：縞状文 櫛歯き波状文 内：ヘラナデ（板目）
60	2住 SI 2 一括	弥生土器 甕 肩部破片	口： — 底： — 高： 4.4	① 細礫 ② 浅黄褐色 ③ 良好	外：櫛歯き波状文 内：ヘラナデ（板目）
61	2住 SI 2 一括	弥生土器 甕 肩部破片	口： — 底： — 高： 3.9	① 石英・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	外：縞状文 櫛歯き波状文 内：ヘラナデ（板目）
62	2住 SI 2 №10	土師器 高坏 脚部破片	口： — 底： — 高： 5.0	① 雲母・細礫 ② 外：明褐色／内：褐色 ③ 良好	外：ミガキ 内：ナデ 外面赤彩
63	2住 SI 2 №8・9 / 壓力 1/4	土師器 高坏 1/4	口： — 底： 9.4 高： 11.5	① 角閃石・軽石・小礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：ミガキ 内：底部ミガキ 脚部ナデ 磨滅
64	2住 SI 2 一括	土師器 甕 底部破片	口： — 底： 9.0 高： 2.9	① 雲母・細礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：ヘラナデ 内：ヘラナデ
65	3住 SI 3 №5 / 一括	土師器 甕 口縁～体部	口： 17.9 底： — 高： 15.3	① チャート・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外：口唇部コナデ 口縁～体部ハケ目 内：ヘラナデ
66	3住 SI 3 №8 / 一括	土師器 S字甕 口縁～肩部破片	口： 21.6 底： — 高： 7.0	① 石英・細礫 ② 浅黄褐色 ③ 普通	外：口縁部コナデ 肩部ハケ目 内：ミガキ 石田川系と北線系との融合？ 上中居遺跡に類似遺物
67	3住 SI 3 №10	土師器 甕 肩部破片	口： — 底： — 高： 5.7	① 石英・細礫・中礫 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	外：ミガキ 内：ナデ 外面赤彩
68	3住 SI 3 一括	土師器 甕 口縁部破片	口： 15.6 底： — 高： 5.6	① 石英・細礫 ② 浅黄褐色 ③ 普通	ミガキ
69	3住 SI 3 一括	弥生土器 鉢 口縁破片	口： — 底： — 高： 5.3	① 細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	外：口縁部上端櫛歯きは伏文 ハケ目 内：ヘラナデ（板目）
70	3住 SI 3 №3	土師器 鉢 口縁破片	口： — 底： — 高： 3.1	① チャート・細礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外：ミガキ 内：ミガキ 内外面赤彩
71	3住 SI 3 №7	土師器 台付甕 台部破片	口： — 底： 6.9 高： 5.7	① 石英・結晶片岩・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外：土壇ハケ目 内：ヘラナデ（板目） 底部コナデ 外面磨滅
72	3住 SI 3 Ⅱ	土師器 台付甕 台部破片	口： — 底： 8.6 高： 3.6	① 雲母・軽石・細礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外：ナデ 指頭痕 内：ナデ

No	遺構名 注記名	種別・器種 残存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③焼成	調査・特徴
73	3住 SI3-一括	弥生土器 鉢 口縁破片	口: ー 底: ー 高: 2.2	① 石英・細礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外: 櫛歯き波状文 内: ナデ
74	3住 SI3-一括	弥生土器 鉢 口縁破片	口: ー 底: ー 高: 2.6	① 細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	外: 櫛歯き波状文 内: ナデ
75	3住 SI3-4	土師器 高坪 脚部破片	口: ー 底: ー 高: 3.0	① 雲母・細礫・中礫 ② 灰褐色 ③ 良好	外: ミガキ 内: 底部ミガキ 脚部ナデ
76	3住 SI3-一括	土師器 台付甕 台部破片	口: ー 底: ー 高: 4.9	① チャート・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外: ミガキ 内: 底部ナデ 台部指ナデ
77	3住 SI3 No.2	土師器 高坪 脚部破片	口: ー 底: ー 高: 6.7	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外: ミガキ 内: ヘラナデ
78	4住 SI4 床直	弥生土器 蓋 胴～体部 1/4	口: ー 底: 7.8 高: 48.2	① 雲母・細礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外: 肩部櫛歯き波状文、列点刺突内貼付文 体部ミガキ 内: ヘラナデ (板目)
79	4住 SI4 No.3・7～9 床直 他	弥生土器 蓋 胴～体部	口: ー 底: ー 高: 30.8	① 雲母・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外: 頸部縞文 肩部櫛歯き波状文 体部ミガキ 内: ヘラナデ
80	4住 SI4 No.1・17 ・18/床直	弥生土器 蓋 胴～底部	口: ー 底: 9.5 高: 31.0	① 石英・雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 肩部櫛歯き波状文 体部中位ヘラナデ 体部下半ヘラナデ 内: ヘラナデ
81	4住 SI4 No.10・16	弥生土器 甕 ほぼ完形	口: 15.8 底: 7.1 高: 22.6	① 雲母・チャート・小礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ、縦位ヘラナデ (板目) 頸部縞文 体部櫛歯き波状文、ミガキ 内: ミガキ
82	4住 SI4 No.6・12/ 床直	土師器 甕 体～底部	口: ー 底: 8.2 高: 13.0	① 雲母・細礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外: 体部ミガキ 底部ヘラナデ 内: ミガキ (ナデに近似)
83	4住 SI4-一括	弥生土器 甕 口縁～肩部破片	口: 13.6 底: ー 高: 8.3	① 雲母・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外: 櫛歯き波状文 内: 口縁部ヨコナデ 頸部ヘラナデ
84	4住 SI4 床直	土師器 甕 口縁～頸部破片	口: 15.2 底: ー 高: 6.5	① 長石・チャート・細礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ ミガキ 内: ミガキ
85	4住 SI4・5	弥生土器 甕 口縁～頸部破片	口: 12.8 底: ー 高: 7.5	① 石英・雲母・角閃石・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヘラナデ (板目) 頸部縞文、櫛歯き波状文 内: ヘラナデ
86	4住 SI4 No.4・6・8・9	土師器 甕 体部破片	口: ー 底: ー 高: 7.5	① 軽石・細礫・小礫 ② 外: 赤褐色/内: にぶい褐色 ③ 普通	外: ミガキ 赤彩 内: ヘラナデ 一部赤彩
87	4住 SI4 確認	弥生土器 鉢 胴～体部破片	口: ー 底: ー 高: 7.1	① 石英・雲母・細礫・小礫 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	外: 頸～肩部縞文、櫛歯き波状文 体部ヘラナデ 内: ヘラナデ後、ミガキ
88	4住 SI4 No.5	弥生土器 鉢 2/3	口: 8.6 底: 4.5 高: 8.6	① 石英・雲母・小礫・中礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 頸部縞文、波状文 体部ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
89	4住 SI4-一括	弥生土器 鉢 口縁～体部	口: 13.6 底: ー 高: 6.3	① 石英・角閃石・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 頸部縞文 体部ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
90	4住 SI4 確認	土師器 甕 口縁～肩部破片	口: 12.0 底: ー 高: 5.4	① 石英・雲母・細礫・小礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 肩部ヘラナデ 体部ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
91	4住 SI4 床直	土師器 鉢 口縁～体部破片	口: 9.0 底: ー 高: 3.3	① 雲母・角閃石・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヨコナデ後、ミガキ
92	4住 SI4・5	土師器 甕 口縁部破片	口: ー 底: ー 高: 5.3	① 角閃石・細礫・小礫 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 頸部ヘラナデ 内: 剥着削減 内面赤彩

No	通称名 注記名	種別・器種 保存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③焼成	調整・特徴
93	4住 SI4 一括	弥生土器 甕 口縁部破片	口：— 底：— 高：3.6	① 長石・雲母・細礫・小礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：口縁部ヨコナデ 頸部ミガキ 内：ミガキ 赤彩
94	4住 一括	弥生土器 甕 体部破片	口：— 底：— 高：5.0	① 石英・結晶片岩・細礫・小礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：簾状文 柳描き波状文 内：ヘラナデ
95	4住 SI4 一括	弥生土器 甕 体部破片	口：— 底：— 高：4.8	① 雲母・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外：簾状文 柳描き波状文 内：ミガキ
96	4住 SI4・5 確認	土師器 甕 底部破片	口：— 底：8.0 高：3.4	① 石英・細礫・小礫 ② 灰黄褐色 ③ 普通	外：ヘラナデ（板目） 内：ナデ
97	4住 SI4 確認	土師器 台付甕 台部破片	口：— 底：— 高：4.3	① 雲母・チャート・細礫・小礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外：ハケ目 内：底部ヘラナデ 台部指ナデ
98	4住 SI 4 №4 / 床直 口縁部破片	土師器 高坪 口縁部破片	口：14.2 底：8.3 高：14.9	① 石英・細礫 ② 明赤褐色 ③ 良好	外：ミガキ 内：坪部ミガキ 脚部ハケ目 外面赤彩
99	4住 SI4 確認	土師器 器台 脚部破片	口：— 底：9.0 高：5.0	① チャート・細礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：ミガキ 内：ナデ 内外面一部赤彩
100	4住 SI 4 №16	土師器 高坪 脚部	口：— 底：9.7 高：6.5	① 石英・雲母・細礫・小礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：ミガキ 内：ヘラナデ（板目） 赤彩 炭化物入置き
101	4住 SI 4 №15	土師器 高坪 体へ脚部	口：— 底：8.2 高：10.3	① 石英・細礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：ミガキ 内：体へ底部ヘラナデ 脚部ヘラナデ（板目）
102	4住 SI 4 №2	弥生土器 高坪 脚部	口：— 底：6.8 高：4.7	① 雲母・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外：ミガキ 内：ヘラナデ（板目） 赤彩
103	4住 SI4 確認	土師器 高坪 脚部	口：— 底：— 高：7.5	① 石英・雲母・細礫・小礫 ② 明赤褐色 ③ 良好	外：底部ナデ 脚部ミガキ 内：底部ミガキ 脚部紋
104	4住 SI 4 確認	土師器 坪 口縁へ体部破片	口：10.4 底：— 高：3.3	① 雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外：口縁部ヨコナデ後、ミガキ 底部ヘラケズリ 内：ヨコナデ後、ミガキ
105	5住 SI 5 №38・50	土師器 台付甕 口縁部破片	口：16.5 底：9.4 高：25.0	① 石英・角閃石・軽石・小礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外：口縁部ヨコナデ 頸部ヘラナデ 体部ヘラケズリ 台部ナデ 内：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 台部指ナデ 最大径：19.6 cm
106	5住 SI 5 №3・5・7・12 他	土師器 甕 口縁へ体部・底部	口：18.2 底：7.0 高：25.1	① 石英・雲母・角閃石・細礫・中礫 ② 褐色 ③ 普通	外：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 底部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 最大径：23.3 cm
107	5住 SI 5 №32	土師器 甕 3/4	口：8.9 底：— 高：9.5	① 石英・角閃石・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外：口縁部ヨコナデ後、暗文 体部ヘラナデ （体部下縁へ底部ヘラケズリ） 内：口縁部ヨコナデ後、暗文 体部指ナデ
108	5住 SI 5 №6	土師器 甕 完形	口：9.5 底：— 高：9.0	① 石英・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外：口縁部ヘラナデ（板目）後、ヨコナデ 頸へ体部上半ヘラナデ 体部下半ヘラケズリ 内：口縁へ頸部ヘラナデ 体部指ナデ
109	5住 SI 5 №35	土師器 甕 4/5	口：16.0 底：4.7 高：22.1	① 石英・角閃石・軽石・細礫・小礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：口縁部ヨコナデ 頸部ヘラナデ 体へ底部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
110	5住 SI 5 №39	土師器 甕 口縁へ体部	口：15.5 底：— 高：10.5	① 石英・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外：口縁部ヨコナデ 頸へ体部ヘラナデ 内：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
111	5住 SI 5 №4	土師器 台付甕 台部破片	口：— 底：8.4 高：6.2	① 石英・軽石・小礫・中礫 ② 褐色 ③ 良好	外：ナデ 内：底部指ナデ 台部ヘラナデ
112	5住 SI 5 №27	土師器 甕 底部破片	口：— 底：6.8 高：2.7	① 石英・雲母・軽石・小礫 ② 褐色 ③ 普通	外：ナデ 内：ナデ

No	遺構名 注記名	種別・器種 残存状態	計測値	①粘土 / ②色調 ③構成	調整・特徴
113	5住 SI 5 No. 41	土師器 甕 底部破片	口: — 底: 6.4 高: 3.3	① 石英・チャート・細礫・小礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外: ヘラナデ 内: ヘラナデ 磨減
114	5住 SI 5 No. 34	土師器 小型甕 4/5	口: 12.4 底: — 高: 11.9	① 石英・軽石・細礫 ② 褐色 ③ 普通	手づくね風 外: 口縁部ヨコナデ 体部上半ナデ 体部下半指頭状 内: 口縁部ヨコナデ 体部ナデ, 指頭状
115	5住 SI 5 No. 20	弥生土器 甕 口縁部破片	口: — 底: — 高: 4.8	① 石英・雲母・軽石・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 櫛歯状文 内: ヘラナデ
116	5住 SI 5 一括	弥生土器 甕 頸部破片	口: — 底: — 高: 5.9	① 雲母・細礫 ② 灰黄褐色 ③ 普通	外: 櫛歯状文 櫛歯状文 内: ミガキ
117	5住 SI 5 No. 1	土師器 高坪 完形	口: 20.4 底: 15.6 高: 19.7	① 石英・角閃石・軽石・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁〜体部ヨコナデ 脚部ナデ 裾部ヨコナデ, 一部ミガキ 内: 口縁〜体部ヨコナデ後、ミガキ 脚部絞り (左回転) 内面底部連結割離
118	5住 SI 5 No. 2	土師器 高坪 2/3	口: 21.6 底: 15.8 高: 18.3	① 石英・雲母・軽石・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁〜体部ヨコナデ 底部ヘラケズリ 脚部ナデ 裾部ヨコナデ後、暗文 内: 杯部ヨコナデ後、暗文 脚部絞り (右回転)
119	5住 SI 5 No. 19	土師器 高坪 5/6	口: 19.8 底: 15.2 高: 17.8	① 石英・結晶片岩・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁〜体部ヨコナデ後、底部ヘラケズリ後、暗文 脚部ナデ 裾部ヨコナデ後、暗文 内: 杯部ヨコナデ後、暗文 脚部指ナデ 裾部ヨコナデ
120	5住 SI 5 No. 23	土師器 高坪 杯部破片	口: 19.0 底: — 高: 5.9	① 石英・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁ヨコナデ 体部ヘラナデ後、ミガキ 底部ヘラケズリ 内: ヘラナデ後、ミガキ
121	5住 SI 5 No. 40	土師器 高坪 口縁〜体部破片	口: 18.4 底: — 高: 5.7	① 石英・チャート・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ ミガキ 内: ミガキ
122	5住 SI 5 No. 11	土師器 高坪 脚部 4/5	口: — 底: 14.2 高: 9.5	① 雲母・軽石・細礫・小礫 ② 明赤褐色 ③ 良好	外: ヘラナデ 内: 底部ヘラナデ 脚部ヘラナデ (板目)
123	5住 SI 5 一括	砥石 完形	長: 9.4 幅: 4.5 重: 64.5g	厚: 1.2	黒色安山岩
124	6住 SI 6 No. 1	土師器 甕 口縁〜頸部破片	口: 11.4 底: — 高: 3.8	① 雲母・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 肩部ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ナデ
125	6住 SI 6 一括	土師器 甕 口縁部破片	口: 14.4 底: — 高: 2.1	① 石英・軽石・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ 暗文
126	6住 SI 6 一括	土師器 甕 口縁部破片	口: — 底: — 高: 3.2	① 雲母・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ 暗文?
127	6住 SI 6 一括	土師器 高坪 口縁部破片	口: — 底: — 高: 2.7	① 石英・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: ヨコナデ後、暗文 内: ヨコナデ後、暗文
128	7住 SI 7 一括	土師器 甕 口縁部破片	口: 19.2 底: — 高: 6.4	① 石英・雲母・細礫・小礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
129	7住 SI 7 一括	土師器 甕 口縁部破片	口: — 底: — 高: 5.3	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外: 口縁〜頸部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
130	7住 SI 7 一括	土師器 甕 口縁部破片	口: — 底: — 高: 5.3	① 石英・角閃石・細礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
131	7住 SI 7 一括	土師器 甕 口縁部破片	口: — 底: — 高: 4.8	① 雲母・細礫 ② 外: 褐灰色/内: にぶい黄褐色 ③ 良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ
132	7住 SI 7 一括	土師器 坪 口縁〜体部破片	口: — 底: — 高: 3.7	① 石英・雲母・軽石・細礫 ② 灰黄色 ③ 良好	外: ヨコナデ 内: ミガキ 内面黒色

No	遺構名 注記名	種別・器種 保存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③構成	調整・特徴
133	7住 SI7 一括	土師器 甕 底部破片	口: — 底: 6.4 高: 5.5	① 雲母・チャート・細礫・小礫・中礫 ② にぶい・褐色 ③ 普通	外: ヘラケズリ 内: ナデ
134	7住 SI7 一括	須恵器 甕 口縁部破片	口: — 底: — 高: 2.2	① 雲母・細礫 ② 灰白色 ③ 良好/還元	
135	7住 SI7 一括	灰輪陶器 坏 口縁～体部破片	口: 15.6 底: — 高: 4.3	① 長石・細礫 ② 灰白色 ③ 良好	灰輪掛けがけ
136	7住 SI7 一括	須恵器 羽釜 体部破片	口: — 底: — 高: 6.8	① 石英・雲母・結晶片岩 ② にぶい・黄褐色 ③ 良好/弱酸化	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ
137	8住 SI8 №1	土師器 甕 4/5	口: 15.7 底: 5.2 高: 16.8	① 石英・小礫・中礫 ② にぶい・黄褐色 ③ 普通	外: 口縁～肩部ヨコナデ 体部ヘラナデ 体部下端～底部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
138	8住 SI8 一括	土師器 鉢 口縁～体部破片	口: — 底: — 高: 9.3	① 石英・雲母・軽石・細礫 ② にぶい・褐色 ③ 良好	内外: ヘラナデ
139	8住 SI8・9 確認	土師器 甕 口縁部破片	口: — 底: — 高: 6.0	① 細礫・小礫 ② にぶい・黄褐色 ③ 良好	内外: ナデ
140	8住 SI8 一括 / SK-6 №1	土師器 S字甕 口縁～頸部破片	口: 17.2 底: — 高: 4.3	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい・黄褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 肩部ハケ目 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
141	8住 SI8 一括	土師器 甕 口縁部破片	口: 18.4 底: — 高: 3.8	① 石英・長石・結晶片岩・細礫 ② 褐色 ③ 普通	内外: ヨコナデ 磨滅
142	8住 SI8 №6	土師器 坏 完形	口: 11.0 底: — 高: 7.2	① 雲母・軽石・細礫 ② にぶい・褐色 ③ 良好	外: 口縁～肩部ヨコナデ 体部上半ヘラナデ 体部下半ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部暗文
143	8住 SI8 一括	弥生土器 甕 口縁部破片	口: — 底: — 高: 8.6	① 石英・チャート・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 柳細き波状文 ヘラナデ(板目) 内: ミガキ
144	8住 SI8 №7	土師器 坏 1/3	口: 14.2 底: — 高: 5.7	① 雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体部上半ヨコナデ後、ミガキ 体部下半ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部暗文
145	8住 SI8 №5/ 一括	土師器 坏 5/6	口: 13.5 底: — 高: 4.9	① 石英・雲母・小礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 体～底部ヘラケズリ 内: ミガキ
146	8住 SI8 №14/ 一括	土師器 坏 口縁～体部破片	口: 13.8 底: — 高: 4.2	① 雲母・軽石・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体部ミガキ 体部下半ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヨコナデ後、ミガキミガキ
147	8住 SI8 №14	土師器 坏 1/4	口: 14.4 底: — 高: 4.8	① 石英・雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体部上位ミガキ 体部下半ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ミガキ
148	8住 SI8 №4/ 一括	土師器 坏 1/2	口: 14.2 底: — 高: 5.8	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい・褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 体～底部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ミガキ
149	8住 SI8 一括	土師器 坏 口縁～体部破片	口: 14.0 底: — 高: 3.9	① 雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ミガキ 内面黒色
150	8住 SI8 №16	土師器 高坏 口縁～体部破片	口: 16.8 底: — 高: 3.7	① 雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: ミガキ 内: ヨコナデ
151	8住 SI8 №2・3	土師器 高坏 口縁～脚部	口: 17.1 底: — 高: 11.3	① 石英・雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 底部外周ヘラケズリ 底部指咽喉 脚部ミガキ 内: 坏部ミガキ 脚部破込み、指ナデ
152	8住 SI8 №17	土師器 高坏 脚部破片	口: — 底: 11.4 高: 2.6	① 石英・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: ミガキ 内: ヘラナデ 透かし

No	遺構名 注記名	種別・器種 残存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③焼成	調整・特徴						
153	8住 SI8一括	石製模造品 銅形 完形	長: 4.5 幅: 1.9 厚: 0.6 重: 4.05g		滑石						
154	8住 SI8一括	石製模造品 銅形 完形	長: 3.9 幅: 1.7 厚: 0.5 重: 6.46g		滑石						
No	部位	段	計測値	段間計測値	造孔	実測	ハケ	調整および特徴	色調	胎土	注記
			器蓋 口径	底面	①	②	形	断面 /2cm	外面	内面	
155	口へ	片	(10.6)	—	—	—	—	8	ヘラナデ (板目)	ヘラナデ (板目)	にぶい黄褐色 石英、雲母、細礫 8住 No.8一括
No	遺構名 注記名	種別・器種 残存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③焼成	調整・特徴						
156	13住 SI13一括	土師器 器台 脚部破片	口: — 底: 12.0 高: 2.4	① 石英・金雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: ミガキ 内: ココナデ 透かし						
157	13住 SI13一括	土師器 S字壺 口縁へ肩部破片	口: 18.4 底: — 高: 4.3	① 長石・雲母・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外: 口縁部ココナデ 肩部ハケ目 内: 口縁部ココナデ 体部ヘラナデ						
158	13住 SI13一括	弥生土器 壺 口縁部破片	口: — 底: — 高: 4.0	① 石英・雲母・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 櫛歯状波状文 内: ナデ						
159	13住 SI13一括	土師器 台付壺 台部破片	口: — 底: 7.6 高: 4.6	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	内外: ナデ						
160	9住 SI9 No.1・8/一括	土師器 壺 体部破片	口: — 底: — 高: 9.9	① 石英・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 普通	外: ヘラナデ (細) 内: ヘラナデ (板目) 内面一部赤彩?						
161	9住 SI9一括	土師器 壺 口縁破片	口: — 底: — 高: 3.0	① 雲母・細礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	内外: ミガキ						
162	9住 SI9 No.4	土師器 台付壺 台部破片	口: — 底: — 高: 4.3	① 雲母・細礫・小礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外: ハケ目 内: ヘラナデ						
163	9住 SI9一括	土師器 台付壺 台部	口: — 底: 5.8 高: 4.6	① 角閃石・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: ミガキ 内: 底部ミガキ 脚部指ナデ 内面底部黒色						
164	10住 SI10一括	土師器 壺 底部破片	口: — 底: 6.6 高: 2.1	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外: 体部ヘラナデ後、ミガキ 体部端部ヘラケズリ 底部ミガキ 内: ミガキ?						
165	10住 SI10 No.3・一括	土師器 台付壺 台部破片	口: — 底: 13.6 高: 2.6	① 石英・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	外: ココナデ 内: ナデ						
166	10住 SI10一括	土師器 高坪 脚部破片	口: — 底: — 高: 8.2	① 結晶片岩・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: ミガキ 内: 紋り						
167	10住 SI10一括	土師器 高坪 脚部破片	口: — 底: — 高: 5.4	① 石英・小礫・中礫 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	内外: 磨滅 透かし3箇所						
168	10住 SI10 No.2	須恵器 壺 体部破片	口: — 底: — 高: 10.3	① 細礫 ② 灰色 ③ 良好/還元	外: 平行叩き 内: 円底文						
169	11住 SI11一括	弥生土器 壺 口縁部破片	口: — 底: — 高: 7.3	① 石英・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部櫛歯状波状文 肩部ヘラナデ (板目) 内: ヘラナデ (板目)						
170	11住 SI11 No.60 カマド脇方	土師器 壺 口縁へ体部破片	口: 17.2 底: — 高: 11.7	① 石英・雲母・チャート・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ココナデ 頸・体部ヘラナデ 内: 口縁部ココナデ 体部指ナデ						
171	11住 SI11 No.25・26	土師器 壺 体へ底部破片	口: — 底: 7.4 高: 28.5	① 石英・雲母・結晶片岩・小礫・中礫 ② 褐色 ③ 普通	外: ヘラケズリ 内: ヘラナデ						
172	11住 SI11 No.6/一括 SHO・11	土師器 壺 口へ頸部破片	口: 17.8 底: — 高: 5.1	① 石英・雲母・チャート・小礫・中礫 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	外: 口縁部ココナデ 頸へ肩部ヘラケズリ 内: 口縁部ココナデ 頸へ肩部ヘラナデ						

No	遺構名 注記名	種別・器種 残存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③焼成	調整・特徴
173	11 住 SI 11 №.36・53	土師器 甕 体～底部破片	口：— 底：6.6 高：9.7	① 石英・チャート・軽石・小礫 ② にぶい・褐色 ③ 普通	外：体部ヘラケズリ 体部端部～底部ヘラナデ 内：ヘラナデ
174	11 住 SI 11 №.12	土師器 S字壺 口縁～体部破片	口：— 底：— 口縁～体部破片 高：6.0	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい・黄褐色 ③ 良好	外：口縁部ヨコナデ 頸～体部ヘラナデ 内：口縁部ヨコナデ 体部ナデ
175	10 住 SI 10 №.6	土師器 甕 口縁部破片	口：— 底：— 口縁部破片 高：7.7	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい・褐色 ③ 良好	外：口縁部ヨコナデ 体部上端ヘラナデ 体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部ナデ
176	11 住 SI 11 一括	土師器 台付甕 台部破片	口：— 底：8.4 高：5.5	① 石英・角閃石・細礫・小礫 ② にぶい・褐色 ③ 良好	外：ヘラナデ（板目） 内：底部ヘラケズリ 台部ヘラナデ
177	11 住 SI 11 0・11確認	土師器 台付甕 台部破片	口：— 底：8.0 高：3.8	① 細礫・中礫 ② にぶい・褐色 ③ 良好	外：ヘラナデ（板目） 内：指ナデ
178	11 住 SI 11 №.8	土師器 台付甕 台部破片	口：— 底：— 台部破片 高：3.2	① 石英・雲母・結晶片岩・細礫 ② にぶい・黄褐色 ③ 良好	外：ハケ目 内：脚部指ナデ
179	11 住 SI 11 №.46	土師器 小型甕 完形	口：10.6 底：— 高：11.5	① 石英・雲母・軽石・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外：口縁～肩部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 底部ヘラナデ 内：ヘラナデ
180	11 住 SI 11 №.58	土師器 小型甕 ほぼ完形	口：11.8 底：4.9 高：14.6	① 石英・チャート・角閃石・軽石・小礫 ② 褐色 ③ 普通	外：口縁～頸部ヨコナデ 体部ナデ 体部下位～底部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
181	11 住 SI 11 №.48 確認	土師器 小型甕 5/6	口：11.7 底：6.0 高：13.7	① 長石・細礫 ② にぶい・褐色 ③ 良好	外：口縁部ヨコナデ 頸～体部ヘラナデ 体部下端ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
182	11 住 SI 11 №.27・50	土師器 瓶 3/4	口：18.1 底：5.0 高：17.9	① 石英・チャート・中礫・小石 ② にぶい・黄褐色 ③ 良好	外：口縁部ヨコナデ 体～底部ヘラケズリ 内：ナデ
183	11 住 SI 11 №.47・ 49・52	土師器 瓶 ほぼ完形	口：20.9 底：5.5 高：20.1	① 石英・チャート・中礫・小石 ② にぶい・黄褐色 ③ 普通	外：ヘラケズリ 内：ヘラナデ
184	11 住 SI 11 №.34・49	土師器 瓶 2/3	口：19.2 底：3.6 高：14.2	① 石英・チャート・細礫・小礫 ② にぶい・褐色 ③ 普通	外：口縁部ヨコナデ 体部上端ナデ 体部ヘラケズリ 一部指頭痕 内：口縁部ヨコナデ、一部指頭痕
185	11 住 SI 11 №.48・49・ 52・53・55・一括	土師器 坏 ほぼ完形	口：12.1 底：— 高：7.3	① 石英・雲母・軽石・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外：口縁～肩部ヨコナデ 体～底部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体～底部暗文
186	11 住 SI 11 №.21	土師器 坏 2/3	口：10.9 底：— 高：7.3	① 石英・雲母・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外：口縁部ヨコナデ 肩部ヘラナデ 体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部ミガキ
187	11 住 SI 11 №.15	土師器 坏 完形	口：12.1 底：— 高：6.8	① 石英・雲母・角閃石・細礫 ② 明褐色 ③ 良好	外：口縁～肩部ヨコナデ 体～底部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部暗文
188	11 住 SI 11 №.23	土師器 坏 完形	口：11.2 底：— 高：6.9	① 石英・雲母・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外：口縁～肩部ヨコナデ 体～底部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体～底部暗文
189	11 住 SI 11 №.19・ 20・22/一括	土師器 坏 ほぼ完形	口：12.8 底：— 高：7.3	① 石英・雲母・軽石・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 普通	外：口縁～体部上半ヨコナデ 体部下半～底部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部ナデ 内面上半凍結剝離
190	11 住 SI 11 №.16	土師器 坏 ほぼ完形	口：13.2 底：— 高：6.4	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい・褐色 ③ 普通	外：口縁～体部上半ヨコナデ 体部下半～底部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部暗文
191	11 住 SI 11 確認	土師器 小型甕 口縁～体部破片	口：10.6 底：— 高：4.9	① 石英・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外：口縁部ヨコナデ 肩部ヘラナデ 体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部ミガキ
192	11 住 SI 11 カマド	土師器 坏 口～体部破片	口：10.0 底：— 高：4.7	① 石英・雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外：口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部暗文 内面黒色

No	遺構名 注記名	種別・器種 現存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③焼成	調整・特徴
193	11住 SI11 №2 / 一括	土師器 坏 口縁へ体部破片	口: 13.8 底: — 高: 5.9	① 雲母・軽石・小礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 内: ミガキ
194	11住 SI11 №17	土師器 坏 完形	口: 13.7 底: — 高: 5.3	① 雲母・細礫・小礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 底部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 暗文
195	11住 SI11 №18・20	土師器 小型壺 1/5	口: 13.6 底: — 高: 5.5	① 雲母・チャート・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体へ底部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部暗文
196	11住 SI11 №4・24/ 一括	土師器 坏 1/2	口: 14.1 底: — 高: 5.4	① 石英・雲母・細礫・小礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外: 口縁へ体部上半ヨコナデ 体部下半へ底部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部暗文
197	11住 SI11 №14・16	土師器 小型壺 1/3	口: 13.2 底: — 高: 5.1	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体部上半ヘラナデ 体部下半へ底部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部暗文
198	11住 SI11 カマド・確認	土師器 坏 口縁へ体部破片	口: 13.6 底: — 高: 4.5	① 石英・雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体部上位ヘラナデ 体部下位ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部暗文
199	11住 SI11 一括 / 貯蔵穴	土師器 坏 口縁へ体部破片	口: 13.6 底: — 高: 4.9	① 石英・細礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部暗文
200	11住 SI11 №31・34・ 48・53・54・59・62	土師器 坏 ほぼ完形	口: 12.4 底: — 高: 5.6	① 石英・軽石・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内: 暗文
201	11住 SI11 №13 / 一括 / SI10・11	土師器 坏 口へ体部破片	口: 11.2 底: — 高: 4.5	① 石英・雲母・チャート・軽石・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 体へ底部ヘラケズリ 内: 暗文
202	11住 SI11 №29・32・ 40・51・54・59	土師器 高坏 4/5	口: 17.7 底: 12.3 高: 13.9	① 雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヨコナデ後、暗文 底部ヘラナデ 脚部ミガキ 裾部暗文 内: 坏部暗文 脚部ヘラナデ 裾部ヨコナデ
203	11住 SI11 №28・32・51・ 52・56・59・カマド・確認	土師器 高坏 5/6	口: 17.1 底: 14.2 高: 13.1	① 雲母・軽石・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヨコナデ後、暗文 底部ヘラケズリ 脚部ミガキ 裾部ヨコナデ後、暗文 内: 坏部ヨコナデ後、暗文 脚部ヘラケズリ 裾部ヨコナデ
204	11住 SI11 鉄№1	鉄製品 刀子 柄?	長: 8.7 厚: 0.5 幅: 1.0 重: 19.43g		
205	11住 SI11 鉄№1	鉄製品 ?	長: 6.3 厚: 0.4 幅: 1.6 重: 21.09g		
206	11住 SI17 №5	砥石? 完形	口: 12.7 厚: 5.7 底: 10.7 重: 1136g		
207	12住 SI12 一括	土師器 壺 口縁部破片	口: 16.8 底: — 高: 4.2	① 石英・角閃石・細礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外: 口縁部3段重 ヘラナデ 内: ミガキ
208	12住 SI12 №2・5	弥生土器 直 口縁部破片	口: 17.2 底: — 高: 8.0	① 雲母・細礫 ② 灰褐色 ③ 普通	外: ヨコナデ ヘラナデ 円貼付文 (4箇所) 内: ナデ
209	12住 SI12 一括	弥生土器 壺 口縁部破片	口: — 底: — 高: 2.5	① 石英・細礫 ② 明褐色 ③ 普通	外: 口縁部櫛状波状文 内: ヘラナデ
210	12住 SK11 №1	鉄製品 鉄鏃 柄?	長: 4.9 厚: 0.4 幅: 0.9 重: 7.05g		
211	14住 SI14 №2	須恵器 碗 ほぼ完形	口: 12.1 底: 7.9 高: 6.8	① 結晶片岩・細礫 ② 灰白色 ③ 良好 / 中性	高台貼付 燻し気味 164と重なって出土
212	14住 SI14 №7	かわらけ 完形	口: 9.5 底: 6.3 高: 2.6	① 雲母・細礫 ② 灰色 ③ 良好 / 弱還元	回転糸切り
213	14住 SI14 №2	かわらけ 完形	口: 8.5 底: 5.6 高: 2.0	① 細礫 ② 灰白色 ③ 良好 / 中性	回転糸切り 右回転 165上に重なって出土
214	14住 SI14 №6	かわらけ ほぼ完形	口: 8.9 底: 6.9 高: 2.3	① 石英・細礫 ② 灰白色 ③ 良好 / 中性	回転糸切り 右回転 燻し気味

No	遺構名 注記名	種別・器種 残存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③焼成	調整・特徴
215	14住 SI 14 №1	かわらけ 完形	口: 8.5 底: 5.7 高: 2.1	① 長石・雲母・細礫・小礫 ② にがい・橙色 ③ 良好/酸化	回転糸切り 右回転
216	14住 SI 14 №4	かわらけ ほぼ完形	口: 9.2 底: 6.7 高: 2.3	① 雲母・細礫 ② 灰白色 ③ 良好/弱還元	回転糸切り 右回転 燻し
217	14住 SI 14 №3	かわらけ 4/5	口: 8.8 底: 5.4 高: 2.4	① 石英・雲母・細礫・小礫 ② 浅黄褐色 ③ 普通/弱酸化	回転糸切り
218	14住 SI 14 №5/一括	かわらけ 完形	口: 8.9 底: 6.1 高: 2.0	① 細礫・小礫 ② 灰白色 ③ 良好/中性	回転糸切り 燻し気味
219	15住 SI 15 一括	土師器 甕 口縁部破片	口: 18.2 底: — 高: 2.2	① 石英・細礫 ② 浅黄褐色 ③ 普通	磨滅
220	15住 SI 15 一括	土師器 甕 口縁部破片	口: 15.6 底: — 高: 5.5	① 石英・小礫・中礫 ② 橙色 ③ 普通	内外: ヘラナデ
221	15住 SI 15 №1	土師器 甕 口縁～頸部破片	口: 12.8 底: — 高: 4.7	① 雲母・角閃石・軽石 ② 橙色 ③ 良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ ヘラナデ
222	15住 SI 15 一括	土師器 甕 底部破片	口: — 底: 3.6 高: 2.0	① 雲母・細礫・小礫 ② 明赤褐色 ③ 良好	外: ミガキ 底部ヘラケズリ 内: ミガキ 内外面赤彩
223	15住 SI 15 №3	土師器 小型甕 完形	口: 9.6 底: — 高: 6.9	① 石英・チャート・中礫 ② 橙色 ③ 良好	手づくね風 外: 口縁～肩部ヨコナデ 体部指頭痕 内: 口縁部ヨコナデ 体部指ナデ
224	15住 SI 15 甕方	土師器 埴 体～底部 1/2	口: — 底: — 高: 5.9	① 石英・小礫・中礫 ② 橙色 ③ 普通	外: ヘラナデ ヘラケズリ 内: 指ナデ 外面磨滅
225	15住 SI 15 甕方	土師器 甕 肩部破片	口: — 底: — 高: 4.8	① 雲母・細礫 ② 黒褐色 ③ 良好	外: ヘラナデ (板目) 内: ヘラナデ 外面油漣
226	15住 SI 15 一括	土師器 高坪 頸部破片	口: — 底: 11.8 高: 6.4	① 石英・角閃石・軽石・細礫・小礫 ② にがい・橙色 ③ 良好	外: ミガキ 内: ヘラナデ
227	15住 SI 15 甕方	土師器 高坪 頸部破片	口: — 底: — 高: 7.9	① 雲母・細礫・小礫 ② 橙色 ③ 良好	外: ミガキ 内: 絞り
228	15住 SI 15 一括	土師器 高坪 口縁～体部破片	口: 19.4 底: — 高: 5.4	① 石英・細礫 ② 橙色 ③ 良好	外: ヨコナデ後、暗文 内: ヨコナデ後、暗文 凍結剥離
229	15住 SI 15 一括	土師器 甕 口縁部破片	口: 19.6 底: — 高: 4.7	① 石英・角閃石・軽石・小礫 ② 橙色 ③ 良好	内外: ヨコナデ
230	15住 SI 15 №2	土師器 高坪 坏部	口: 17.8 底: — 高: 5.5	① 石英・雲母・細礫 ② 橙色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 底部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ後、ミガキ
231	15住 SI 15 一括	土師器 高坪 口縁～体部破片	口: — 底: — 高: 5.3	① 雲母・細礫・小礫 ② 橙色 ③ 良好	外: ヨコナデ後、暗文 内: ヨコナデ後、暗文
232	16住 SI 16 P-1	弥生土器 甕 頸部破片	口: — 底: — 高: 4.2	① 角閃石・細礫 ② にがい・黄褐色 ③ 良好	外: 簾状文 側面波状文 内: ヘラナデ
233	18住/7土 SK 7 一括	土師器 甕 3/4	口: 14.2 底: 1.2 高: 7.2	① 石英・チャート・小礫 ② 明褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 孔径 0.6 cm
234	17住 SI 17 №2/一括	土師器 甕 体部破片	口: — 底: — 高: 7.6	① 石英 (多量)・細礫 ② 外: にがい・黄褐色/内: 橙色 ③ 不良	外: ハナ目 内: ヘラナデ (板目)

No	遺構名 注記名	種別・器種 残存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③焼成	調整・特徴
235	17 住 SI17 №3	土師器 台付壺 台部	口：— 底：8.6 高：6.0	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外：ミガキ 内：ナデ 接合部断面にヘラナデ（板目）
236	17 住 SI17 №4	土師器 台付壺 台部破片	口：— 底：— 高：3.9	① 石英・細礫・中礫 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	外：ハケ目 ヘラナデ 内：ナデ
237	17 住 SI17 一括	土師器 壺 体部破片	口：— 底：— 高：6.8	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外：ハケ目 内：ヘラナデ（板目）
238	20 住 SI20 一括	土師器 高坏？ 口縁部破片	口：— 底：— 高：3.3	① 雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	内外：ミガキ 赤彩
239	20 住 SI20 №12・16	土師器 壺 口縁～体部破片	口：25.6 底：— 高：11.4	① 石英・雲母・チャート・軽石・ 小礫・中礫 ② 褐色 ③ 普通	外：口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 240・241 と同一？
240	20 住 SI20 床下	土師器 壺 口縁～体部破片	口：24.2 底：— 高：13.5	① 石英・雲母・軽石・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外：口縁～肩部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部ナデ 239・241 と同一？
241	20 住 SI20 №10	土師器 壺 体～底部	口：— 底：7.6 高：16.5	① 石英・雲母・チャート・軽石・ 小礫・中礫 ② 褐色 ③ 普通	外：口縁部ヨコナデ 内：ヘラナデ 239・240 と同一？
242	20 住 SI20 №17	土師器 壺 口縁～体部破片	口：— 底：— 高：5.9	① 角閃石・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 普通	外：口縁～頸部指ナデ 体部ヘラケズリ 内：ヘラナデ
243	20 住 SI20 床下	土師器 小型壺 底部破片	口：— 底：2.6 高：2.0	① 雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外：ヘラケズリ 内：ナデ
244	20 住 SI20 №7・一括	須恵器 碗 3/4	口：15.0 底：5.2 高：5.0	① 石英・細砂 ② 灰白色 ③ 普通/中性	高台貼付
245	20 住 SI20 一括	須恵器 碗 底部破片	口：— 底：— 高：2.2	① 細砂 ② 灰白色 ③ 良好/弱酸化	高台貼付
246	20 住 SI20 一括	須恵器 壺 頸部破片	口：— 底：— 高：4.1	① 細砂 ② 灰白色 ③ 良好/還元	注跡 櫛描き波状文
247	20 住 SI20 №4・8・11・ 一括	灰輪陶器 皿 7/8	口：11.5 底：6.7 高：2.0	① 長石・細礫 ② 灰白色 ③ 良好/弱還元	高台削り出し 重ね地痕 残りがけ
248	21 住 SI21 №22	土師器 高坏 口縁部破片	口：18.8 底：— 高：4.5	① 石英・角閃石・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外：ヨコナデ後、暗文 内：暗文
249	21 住 SI21 №20	土師器 高坏 体～底部破片	口：— 底：— 高：5.3	① 石英・雲母・軽石・細礫 ② にぶい赤褐色 ③ 普通	外：口縁部ヨコナデ後、暗文 体部下位ヘラナデ 内：ヨコナデ・ヘラナデ後、暗文
250	21 住 SI21 №3・6・9	土師器 坏 1/2	口：13.2 底：— 高：6.8	① 石英・雲母・細礫 ② 明赤褐色 ③ 普通	外：口縁部ヨコナデ 体～底部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体～底部ナデ、暗文
251	21 住 SI21 №3・4・5	土師器 坏 3/4	口：13.3 底：— 高：5.2	① 石英・雲母・角閃石・細礫 ② にぶい赤褐色 ③ 普通	外：口縁部ヨコナデ 体～底部ヘラナデ 内：口縁部ヨコナデ 体部ミガキ 内面連続剥離
252	21 住 SI21 №1	土師器 坏 ほぼ完形	口：12.4 底：— 高：5.5	① 雲母・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外：口縁部ヨコナデ 体～底部ヘラケズリ 内：ナデ後、暗文
253	21 住 SI21 №10・12・ 15・17・18	土師器 壺 4/5	口：16.4 底：6.8 高：29.9	① 石英・中礫・大礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 底部ヘラケズリ 内：口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
254	21 住 SI21 №7・一括	土師器 台付壺 台部破片	口：— 底：9.9 高：5.1	① 雲母・角閃石・細礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：ナデ 内：指ナデ

No	遺構名 注記名	種別・器種 残存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③焼成	調査・特徴
255	22 住 SI22 一括	弥生土器 甕 底部破片	口: — 底: — 高: 4.0	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい・褐色 ③ 普通	外: 簾状文 櫛描き波状文 内: ミガキ
256	22 住 SI22 №.6	土師器 小型甕 4/5	口: 13.4 底: 5.5 高: 11.2	① 石英・雲母・細礫・小礫 ② 灰黄褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 体へ底部ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体へ底部ヘラナデ、ナデ 底部小孔あり
257	22 住 SI22 №.4 SK18	土師器 器台 2/3	口: 8.6 底: 10.8 高: 9.2	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい・褐色 ③ 普通	外: ミガキ 内: 受部ミガキ 脚部ヘラナデ 3 孔
258	22 住 SI22 №.5・釀方	土師器 器台 脚部破片	口: — 底: 12.7 高: 4.8	① 石英・小礫・中礫 ② 浅黄褐色 ③ 普通	外: ヘラナデ ミガキ 内: ヘラナデ (板目) 磨減
259	22 住 SI22 №.2	土師器 高坏 4/5	口: 22.5 底: 12.9 高: 15.4	① 石英・チャート・細礫 ② 浅黄褐色 ③ 普通	外: ミガキ 内: 坏部ナデ 脚部ヘラナデ (板目) 頸部ヨコナデ
260	22 住 SI22 №.3	土師器 高坏 4/5	口: 23.6 底: 11.7 高: 15.4	① 石英・細礫・小礫 ② にぶい・黄褐色 ③ 普通	外: 坏部ミガキ? 脚部ヘラナデ 内: 坏部ミガキ 脚部ヘラナデ 3 孔 外面磨減
261	23 住 SI23 南壁	土師器 甕 口縁へ体部破片	口: 17.1 底: — 高: 11.8	① 雲母・結晶片岩・細礫 ② にぶい・褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 頸へ体部ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
262	23 住 SI23 一括	土師器 甕 口縁部破片	口: 20.4 底: — 高: 4.9	① 角閃石・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 良好	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ
263	23 住 SI23 南壁	土師器 甕 体へ底部破片	口: — 底: 7.0 高: 7.4	① 石英・雲母・結晶片岩・小礫 ② にぶい・褐色 ③ 良好	外: ヘラナデ 内: ヘラナデ
264	24 住 SI24 №.5・7・8・11 12・13・カマド	土師器 甕 口縁へ体部破片	口: 17.2 底: — 高: 27.3	① 石英・角閃石・細礫・小礫 ② にぶい・褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 肩部ヘラナデ 体部ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
265	24 住 SI24 №.8 一括	土師器 甕 1/2	口: 23.8 底: 8.3 高: 17.5	① 石英・結晶片岩・小礫 ② にぶい・黄褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 頸部ヘラナデ、指頭痕 体部ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 頸部指頭痕
266	24 住 SI24 №.1 一括	土師器 坏 口縁へ体部破片	口: 11.7 底: — 高: 6.3	① 石英・雲母・角閃石・細礫 ② にぶい・褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部破文 内面凍結剥離
267	24 住 SI24 一括	土師器 坏 口縁へ体部破片	口: 12.2 底: — 高: 4.4	① 角閃石・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ミガキ
268	24 住 SI24 №.4	土師器 高坏 脚部破片	口: — 底: — 高: 4.4	① 石英・角閃石・細礫 ② にぶい・赤褐色 ③ 良好	外: ミガキ 内: 指ナデ ヘラナデ (板目)
269	24 住 SI24 一括	須恵器 甕 体部破片	口: — 底: — 高: 6.9	① 石英・細礫 ② 灰白色 ③ 良好/還元	外: 平行叩き後、ナデ 内: 円底文
270	25 住 SI25 №.4・5・ SI25P-2 №.1	弥生土器 甕 肩部	口: — 底: — 高: 18.8	① 角閃石・軽石・細礫・小礫 ② にぶい・黄褐色 ③ 普通	外: 櫛描き波状文 ミガキ 内: ヘラナデ 一部ミガキ
271	25 住 SI25 №.3・19	土師器 甕 体へ底部	口: — 底: 8.7 高: 12.6	① 石英・雲母・角閃石・細礫 ② にぶい・褐色 ③ 普通	外: 体部ミガキ 内: 体へ底部ミガキ
272	25 住 SI25 一括	弥生土器 甕 口縁部破片	口: — 底: — 高: 5.6	① 雲母・細礫 ② にぶい・黄褐色 ③ 良好	外: 櫛描き波状文 内: ナデ
273	25 住 SI25 土層	弥生土器 甕 口縁部破片	口: — 底: — 高: 4.8	① 石英・角閃石・細礫 ② にぶい・黄褐色 ③ 普通	外: 簾状文 櫛描き波状文 内: ナデ
274	25 住 SI25 一括	弥生土器 甕 口縁部破片	口: — 底: — 高: 5.5	① 雲母・細礫 ② にぶい・黄褐色 ③ 良好	外: 櫛描き波状文 内: ナデ

No	遺構名 注記名	種別・器種 残存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③焼成	調整・特徴
275	25 住 S125 一括	弥生土器 甕 肩部破片	口: — 底: — 高: 6.3	① 石英・角閃石・細礫 ② 橙色 ③ 普通	外: 縞状文 櫛掻き波状文 内: ヘラナデ
276	25 住 S125 一括	弥生土器 甕 口縁部破片	口: — 底: — 高: 3.6	① 雲母・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外: 口縁部櫛掻き波状文 頸部縞状文 内: ヘラナデ
277	25 住 S125 一括	弥生土器 甕 口縁部破片	口: — 底: — 高: 3.6	① 雲母・細礫 ② にぶい橙色 ③ 普通	外: 櫛掻き波状文 内: ナデ
278	25 住 S125P-1	弥生土器 甕 肩部破片	口: — 底: — 高: 4.2	① 角閃石・細礫 ② 明黄褐色 ③ 普通	外: 縞状文 櫛掻き波状文 内: ナデ
279	25 住 S125 No. 10	弥生土器 甕 体部破片	口: — 底: — 高: 4.0	① 雲母・細礫 ② 明黄褐色 ③ 普通	外: 櫛掻き波状文 内: ナデ
280	25 住 S125 No. 18	弥生土器 甕 肩部破片	口: — 底: — 高: 9.6	① 石英・角閃石・細礫・小礫 ② にぶい橙色 ③ 普通	外: 櫛掻き波状文 ヘラナデ 内: ヘラナデ
281	25 住 S125 No. 17・上層	弥生土器 甕 ほぼ正定形	口: 14.2 底: 6.9 高: 17.3	① 石英・細礫・小礫 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	外: 口縁部ナデ 頸部縞状文 体部ヘラナデ 内: ヘラナデ
282	25 住 S125 土層	弥生土器 甕 頸部破片	口: — 底: — 高: 7.6	① 雲母・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外: 頸部縞状文 肩部ミガキ 内: ナデ
283	25 住 S125 一括	土師器 甕 体へ底部	口: — 底: 6.3 高: 6.6	① 雲母・角閃石・細礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外: 体部ミガキ 底部ヘラナデ 内: ヘラナデ
284	25 住 S125 一括	土師器 甕 口縁部破片	口: — 底: — 高: 1.8	① 角閃石・砂礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口唇部キザミ 口縁部ヘラナデ 内: ナデ
285	25 住 S125 一括	弥生土器 鉢 口へ体部破片	口: — 底: — 高: 4.4	① 角閃石・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	外: 口縁・肩部櫛掻き波状文 頸部縞状文 内: ナデ後、ミガキ
286	25 住 S125 一括	弥生土器 鉢 口へ体部破片	口: — 底: — 高: 3.5	① 石英・雲母・角閃石・細礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外: 口唇部キザミ 口縁部櫛掻き波状文 体部ヘラナデ 内: ナデ
287	25 住 S125 一括	土師器 鉢 口縁部破片	口: — 底: — 高: 2.6	① 雲母 ② 褐色 ③ 良好	外: 口唇部キザミ 口縁部ミガキ 内: ミガキ 赤彩
288	25 住 S125P-1	土師器 器台 口縁部破片	口: — 底: — 高: 3.6	① 雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	内外: ミガキ 赤彩
289	25 住 S125P-5 No. 1	土師器 高坏 脚部	口: — 底: 7.9 高: 6.9	① 石英・チャート・細礫・小礫 ② にぶい赤褐色 ③ 良好	外: ヘラナデ 内: 指ナデ ヘラナデ 坏部内面黒色
290	25 住 S125P-4	土師器 高坏 脚部破片	口: — 底: 7.8 高: 6.5	① 角閃石・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: ヘラナデ 内: ナデ
291	25 住 S125 No. 15	土師器 高坏? 口縁部破片	口: — 底: — 高: 6.4	① 雲母・細礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外: ヘラナデ後、ミガキ 内: ヘラナデ
292	26 住 S126 No. 11・15 一括	土師器 台付甕 口縁へ台部	口: 15.2 底: — 高: 29.9	① 石英・雲母・軽石・細礫・小礫 ② にぶい赤褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 頸へ体部ヘラナデ 脚部ナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 脚部指ナデ
293	26 住 S126 一括	土師器 甕 正形	口: 15.1 底: 6.0 高: 10.9	① 石英・小礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ナデ
294	26 住 S126 一括	土師器 甕 口縁部破片	口: 13.4 底: — 高: 5.4	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外: ヨコナデ後、暗文 内: ヨコナデ後、暗文

No	遺構名 注記名	種別・器 種存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③構成	調整・特徴
295	26 住 S126 一話 S126 南壁	土師器 小型壺 口縁へ部	口: 11.2 底: — 高: 6.4	① 雲母・角閃石・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヘラナゲ後、ヨコナデ 体部ヘラナゲ (板目) 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナゲ
296	26 住 S126 一話	土師器 小型壺 ほぼ完成	口: 11.7 底: 4.1 高: 12.2	① 石英・雲母・細礫 ② 濃い褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 肩部ヘラナゲ 体へ底部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナゲ
297	26 住 S126 No.12	土師器 小型壺 3/4	口: 10.2 底: 3.6 高: 10.6	① 石英・雲母・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 肩部ヘラナゲ 体へ底部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナゲ
298	26 住 S126 一話	土師器 小型壺 完成	口: 8.8 底: 5.2 高: 8.5	① 石英・雲母・細礫 ② 明褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 体へ底部ヘラケズリ 肩部ナゲ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ナゲ
299	26 住 S126 No.5・6・8	土師器 小型壺 ほぼ完成	口: 11.4 底: 3.9 高: 9.0	① 石英・雲母・細礫 ② にぶい赤褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヘラナゲ後、ヨコナデ 肩へ底部ヘラケズリ 一部ミガキ 内: 口縁部ヨコナデ、ヘラナゲ (板目) 体部ナゲ
300	26 住 S126 No.1	土師器 小型壺 完成	口: 10.8 底: 2.7 高: 8.3	① 角閃石・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 頸へ底部ヘラケズリ 内: 口縁部ヘラナゲ後、ヨコナデ 体部ナゲ
301	26 住 S126 No.5・一話	土師器 小型壺 ほぼ完成	口: 10.2 底: 4.1 高: 8.7	① 石英・角閃石・軽石・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 頸部ヘラナゲ 体へ底部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナゲ
302	26 住 S126 No.3	土師器 小型壺 完成	口: 8.0 底: 3.3 高: 7.6	① 雲母・細礫 ② にぶい褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 頸へ底部ヘラナゲ 内: ナゲ
303	26 住 S126 No.16	土師器 台付高坏 ほぼ完成	口: 17.2 底: 13.3 高: 20.7	① 石英・雲母・角閃石・軽石 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁へ頸部・腹部ヨコナデ 肩へ脚部ヘラナゲ、ミガキ 内: 口縁部・腹部ヨコナデ 体部ヘラナゲ後、ミガキ・暗文 脚部絞り、指ナゲ
304	26 住 S126 一話	土師器 高坏 脚部欠損	口: 12.8 底: — 高: 10.0	① 石英・雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 肩部ナゲ 体部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナゲ後、体部ナゲ後、暗文
305	26 住 S126 一話	土師器 高坏 脚部 1/4	口: — 底: — 高: 10.4	① 角閃石・軽石・細礫 ② 明褐色 ③ 良好	外: 脚部ヘラナゲ後、腹部ヨコナゲ後、暗文 内: 脚部絞り、指ナゲ 腹部ヨコナゲ
306	26 住 S126 No.13	土師器 高坏 脚部 2/3	口: — 底: 15.2 高: 10.1	① 雲母・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 脚部ヘラナゲ後、腹部ヨコナゲ後、暗文 内: 絞り、指ナゲ 腹部ヨコナゲ 磨滅
307	26 住 S126 一話	土師器 高坏 口縁部破片	口: 17.0 底: — 高: 5.0	① 石英・雲母・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: ヨコナゲ後、暗文 内: ヨコナゲ後、暗文
308	26 住 S126 No.9・14 一話	土師器 高坏 口縁部破片	口: 19.6 底: — 高: 5.9	① 石英・雲母・細礫・小礫 ② 褐色 ③ 普通	外: ヨコナゲ後、暗文 内: ヨコナゲ後、暗文
309	26 住 S126 No.10	土師器 高坏 腹部	口: — 底: 15.8 高: 3.1	① 雲母・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: ヨコナゲ後、暗文 内: ヨコナゲ 磨滅
310	26 住 S126 No.2・一話	土師器 高坏 坏部	口: 22.3 底: — 高: 7.7	① 石英・雲母・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口縁へ体部ヨコナゲ後、暗文 底部外周ヘラナゲ 内: 口縁へ体部ヨコナゲ後、底部ヘラナゲ後、暗文
311	26 住 S126 No.10・一話	土師器 高坏 4/5	口: 17.9 底: 13.1 高: 16.3	① 雲母・軽石・細礫・小礫 ② 明褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナゲ後、暗文 底部ヘラケズリ 脚部ヘラナゲ後、 暗文 腹部ヨコナゲ 内: 外部ヨコナゲ後、暗文 脚部絞り、指ナゲ 腹部ヨコナゲ
312	26 住 S126 一話	土師器 高坏 口縁部破片	口: 22.8 底: — 高: 4.6	① 石英・雲母・結晶片岩・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナゲ 内: ヨコナゲ 磨滅 313と同一?
313	26 住 S126 No.7・10	土師器 高坏 腹部破片	口: — 底: 17.9 高: 2.0	① 石英・雲母・結晶片岩・細礫 ② 褐色 ③ 普通	磨滅 312と同一?
314	26 住 S126 一話	土師器 高坏 坏部	口: 18.5 底: — 高: 7.1	① 石英・雲母・角閃石・細礫 ② 褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナゲ 体部ヘラケズリ後、暗文 内: ヨコナゲ後、暗文

No	遺構名 注記名	種類・器種 保存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③焼成	調査・特徴
315	27 住 SI27 一括	弥生土器 甕 口縁部破片	口: ー 底: ー 高: 4.0	① 雲母・角閃石・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 櫛歯き波状文 ヘラナデ 内: ヘラナデ
316	27 住 SI27 No.5	土師器 甕 口縁～体部破片	口: 23.5 底: ー 高: 13.6	① 石英・雲母・小礫 ② 明赤褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部ヘラナデ
317	27 住 SI27 カマド	かわらけ 5/6	口: 10.7 底: 6.0 高: 2.6	① 角閃石・細礫 ② 浅黄色 ③ 普通/弱酸化	底部板目 釜内 内面油煙
318	集石 1 SX4 No.1	弥生土器 甕 肩部破片	口: ー 底: ー 高: 6.1	① 雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 櫛歯き波状文 ミガキ 内: ヘラナデ (板目)
319	2 土 SK 2 一括	土師器 台付甕 台部破片	口: 7.0 底: 9.1 高: 3.9	① 石英・細礫 ② 灰黄褐色 ③ 良好	内外: ヘラナデ
320	4 土 SK 4 一括	土師器 坪 口縁～体部破片	口: ー 底: ー 高: 4.2	① 雲母・細礫 ② 黒色 ③ 良好	内外: ミガキ 内外 炭素吸着
321	4 土 SK 4 一括	弥生土器 甕 頸部破片	口: ー 底: ー 高: 3.8	① 石英・細礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外: 櫛歯き波状文 内: ヘラナデ
322	7 土 SK 7 一括	土師器 台付甕 台部破片	口: ー 底: ー 高: 3.2	① 石英・小礫・中礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外: ハケ目後、ヘラナデ 内: ナデ
323	9 土 SK 9 一括	灰輪陶器 坪 口～体部破片	口: 14.0 底: ー 高: 2.6	① ー ② 灰白色 ③ 良好/還元	浸けかき
324	11 土 SK 11 No.4	土師器 甕 底部破片	口: ー 底: ー 高: ー	① 石英・軽石・小礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	外: ヘラケズリ 内: 指ナデ
325	11 土 SK 11 No.1	鉄製品 鎌 欠 刃先?	長: 6.3 厚: 0.5 幅: 4.3 重: 30.87g		
326	11 土 SK 11 No.1	鉄製品 鉄 櫛 柄?	長: 5.3 厚: 0.7 幅: 1.1 重: 14.52g		
327	12 土 SK 12 No.1	石製模造品 剣形 完形	長: 2.8 厚: 0.3 幅: 1.2 重: 4.65g		
328	13 土 SK 13 No.3	鉄製品 刀子 柄?	長: 4.2 厚: 0.4 幅: 0.9 重: 4.65g		
329	18 土 SK18 一括	弥生土器 甕 体部破片	口: ー 底: ー 高: 3.2	① 角閃石・細礫・小礫 ② 明黄褐色 ③ 普通	櫛歯き波状文 磨減
330	21 土 SK21 No.2・一括	土師器 坪 ほぼ完形	口: 15.1 底: ー 高: 6.2	① 雲母・角閃石・細礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外: 口縁部ヨコナデ 体部上位ヨコナデ後、暗文 体部中位～底部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体部暗文
331	21 土 SK21 一括	土師器 坪 完形	口: 13.1 底: ー 高: 5.4	① 石英・雲母・細礫 ② 褐色 ③ 良好	外: 口縁部ヨコナデ 体～底部ヘラケズリ 内: 口縁部ヨコナデ 体～底部ナデ後、暗文
332	21 土 SK21 一括	土師器 高坪 体底部破片	口: ー 底: ー 高: 4.0	① 雲母・細礫 ② にぶい褐色 ③ 普通	外: ヘラナデ後、暗文 内: ミガキ
333	1 溝 SD 1 一括	土師器 高坪 坪部破片	口: ー 底: ー 高: 4.4	① チャート・小礫 ② にぶい黄褐色 ③ 良好	内外: ミガキ
334	1 溝 SD 1 一括	土師器 台付甕 台部破片	口: ー 底: 8.6 高: 5.8	① 石英・小礫 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	外: ハケ目 端部ヨコナデ 内: 端部ヨコナデ
335	2 溝 SD 2 一括	石製模造品 剣形 一部欠損	長: 3.7 厚: 0.5 幅: 1.6 重: 3.81g		磨石
336	2 溝 SD 2 一括	凹み石 完形	長: 10.6 厚: 3.8 幅: 7.3 重: 364g		輝石安山岩

No	遺構名 注記名	種別・器種 残存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③焼成	調整・特徴										
337	9 溝 SD 9 一括	弥生土器 甕 口縁部破片	口：— 底：— 高：1.7	① 細織 ② にふい・黄褐色 ③ 普通	外：櫛歯き波状文 内：ヘラナデ										
338	9 溝 SD 9 一括	土師器 甕 頸部破片	口：— 底：— 高：3.4	① 石英・細織 ② にふい・褐色 ③ 良好	外：ハケ目 内：ヘラナデ										
339	9 溝 SD 9 一括	土師器 高坪 口縁部破片	口：— 底：— 高：3.3	① 石英・雲母・細織 ② 褐色 ③ 良好	内外：ヨコナデ後、ミガキ										
340	9 溝 SD 9 一括	土師器 高坪 脚部破片	口：— 底：— 高：4.7	① 石英・細織 ② 明赤褐色 ③ 普通	外：ヘラナデ 内：絞り（右回転）										
341	9 溝 SD 9 一括	土師器 高坪 脚部破片	口：— 底：13.8 高：2.0	① 石英・細織 ② 褐色 ③ 良好	内外：ヘラナデ 磨減										
342	9 溝 SD 9 一括	灰輪陶器 坪 口縁～体部破片	口：— 底：— 高：4.3	① — ② 灰白色 ③ 良好／還元	浸けかけ										
343	9 溝 SD 9 一括	須恵器 羽釜 口縁～体部破片	口：— 底：— 高：5.7	① 石英・雲母・細織 ② 灰色 ③ 良好／中性	内外：ヨコナデ 内外面横し										
344	10 溝 SD 10 一括	須恵器 甕 体部破片	口：— 底：— 高：4.6	① 細織 ② 灰褐色 ③ 良好	外：平行叩き 内：円弧文										
345	2 井戸 SE 2 №1	土師器 高坪 脚部破片	口：— 底：11.3 高：7.9	① 長石・雲母・軽石・細織・小織 ② 褐色 ③ 良好	外：ヘラナデ 縦位3本の縦刻 内：登上げ痕顯著										
346	3 井戸 SE 3 一括	土師器 甕 底部破片	口：— 底：6.0 高：6.0	① 石英・チャート・小織 ② 灰黄褐色 ③ 普通	外：ヘラナデ 底部ヘラケスリ 内：ヘラナデ 外面磨減										
347	3 井戸 SE 3 一括	土師器 高坪 坪部破片	口：— 底：— 高：5.3	① 石英・角閃石・軽石・細織・小織 ② 褐色 ③ 良好	内外：ナデ 磨減										
348	3 井戸 SE 3 一括	須恵器 甕 底部破片	口：— 底：6.1 高：2.3	① 細織 ② にふい・黄褐色 ③ 良好／弱酸化	高台貼付 右回転 油煙										
349	4 井戸 SE 4 一括	土師器 甕 口縁部破片	口：— 底：— 高：4.3	① 長石・雲母・細織 ② 褐色 ③ 良好	外：ヨコナデ 内：ヘラナデ										
350	2 号不明遺構 SX 2 一括	縄文土器 深鉢 口縁部破片	口：— 底：— 高：8.6	① 細織 ② にふい・黄褐色 ③ 普通	0 段多条（RL）										
No	部位	段	計 測 値			段間計測値	透 孔	変 形	ハケ	調整および特徴		色調	胎 土	注 記	
			器高	口径	底 部	①	②	形	断面	2/cm	外 面	内 面			
351	体	片	(7.0)	—	—	—	—	円	台形	10	横ハケ	指ナデ	橙	石英、長石	不明遺構一括
No	遺構名 注記名	種別・器種 残存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③焼成			調整・特徴								
352	3 号不明遺構 SX 3 一括	石製模造品 銅形 完形	長： 3.6 巾： 1.6	厚： 3.9 重： 2.18g	滑石										
353	不明遺構 SX 3 一括	鉄製品 鉄鏝9破片	長： 3.6 巾： 0.9	厚： 0.4 重： 3.209g											
354	3 号不明遺構 SX 3 一括	須恵器 提瓶 体部破片	口：— 底：— 高：12.8	① 石英・細織 ② 灰色 ③ 良好／還元	外：カキ目 内：絞り ヘラナデ										
355	試験 一括	弥生土器 甕 口縁部破片	口：— 底：— 高：4.5	① 軽石・細織・小織 ② 灰褐色 ③ 良好	外：口縁部櫛歯き波状文 ヘラナデ（板目） 内：ヘラナデ										
356	試験 5トレ	弥生土器 甕 体部破片	口：— 底：— 高：6.1	① 細織 ② 褐色 ③ 良好	外：櫛歯き波状文 ミガキ 内：ヘラナデ										

No	遺構名 注記名	種別・器種 残存状態	計測値	①胎土 / ②色調 ③構成	調整・特徴									
357	試掘 一括	土師器 甕 底部破片	口：－ 底：7.6 高：3.6	① 細織・小襷 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	内外：ヘラナデ（板目）									
358	試掘 一括	土師器 甕 底部破片	口：－ 底：－ 高：8.2	① 石英・細織 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：ミガキ 内：ヘラナデ（板目）									
359	試掘 一括	土師器 高坏 脚部破片	口：－ 底：－ 高：6.6	① 石英・細織・小襷 ② にぶい赤褐色 ③ 良好	外：ミガキ 内：ヘラナデ 外面赤彩									
360	試掘 一括	土師器 小型甕？ 口縁部破片	口：－ 底：－ 高：1.6	① チャート・角閃石・細織 ② 明赤褐色 ③ 良好	内外：ミガキ、赤彩									
361	試掘 一括	土師器 高坏 脚部破片	口：－ 底：10.8 高：7.2	① 石英・雲母・細織 ② 褐色 ③ 普通	内外：ヘラナデ（ミガキ状）									
No	部位	段	計 測 値			透孔	突帯	ハケ		調整および特徴		色調	胎 土	注 記
			器高	口径	底部	①	②	形	断面 / 2cm	外面	内 面			
362	口	片	<7.0>	—	—	—	—	—	12	縦ハケ 口縁横ナデ	縦ハケ 横ハケ 口縁横ナデ	にぶい黄褐色	石英、砂粒、織	表採一括
363	遺構外 確認	土師器 甕 1/3	口：14.0 底：－ 高：20.3	① 雲母・角閃石・軽石 ② 褐色 ③ 普通	外：口縁部コナデ 頸～体部ヘラケズリ 内：口縁部コナデ 体部ヘラナデ 最大径：21.7 cm									
364	遺構外 掘削	土師器 甕？ 口縁部破片	口：－ 底：－ 高：2.9	① 軽石・細織 ② にぶい黄褐色 ③ 普通	内外：ヘラナデ									
365	遺構外 掘削	土師器 台付甕 台部	口：－ 底：4.7 高：3.9	① 細織 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：ミガキ 内：ヘラナデ ヘラケズリ									
366	遺構外 掘削	土師器 甕 底部破片	口：－ 底：4.8 高：3.5	① 細織・小襷 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：ヘラナデ（板目）後、ミガキ 内：ナデ									
367	遺構外 掘削	土師器 小型甕 頸部～底部破片	口：－ 底：－ 高：7.3	① 雲母・軽石・細織 ② 褐色 ③ 良好	外：肩部コナデ 体部指頭痕 底部ヘラケズリ 内：指ナデ									
368	遺構外 掘削	土師器 坏 口縁～体部破片	口：13.2 底：－ 高：4.3	① 石英・細織 ② にぶい褐色 ③ 良好	外：口縁部コナデ 体部ヘラナデ後、ミガキ 内：口縁部コナデ 暗文									
369	遺構外 掘削	土師器 坏 口縁～体部破片	口：12.0 底：－ 高：3.7	① 石英・雲母・細織 ② 褐色 ③ 良好	外：口縁部コナデ 底部ヘラケズリ 内：コナデ後、暗文									
370	遺構外 確認	土師器 器台 脚部破片	口：－ 底：－ 高：4.2	① 石英・細織 ② 浅黄色 ③ 良好	外：ミガキ 内：ナデ									

VI まとめ

本調査において確認された遺構は、古墳1基、住居27軒、土坑21基、ピット3基、溝10条、井戸9基、不明遺構2基が確認された。各遺構の推定時期については事実記載にも記したが、改めて住居を中心に推定時期について整理し、集落の変遷について概観し、まとめる。

まず、各住居の時期を推定するにあたり、重複関係にある住居について土層観察から判断した新旧関係と出土遺物の推定時期に矛盾がないことを確認し、出土遺物から推定される年代を当てはめた。次に本遺跡の主体となる時期が弥生時代後期から古墳時代前期に該当することから若狭氏等による式土器3期区分に沿って細分を試みた。時期区分については便宜上、弥生時代後期を式土器2～3期、外來系土器が共存する時期を古墳Ⅰ期、在地系土器成立期～5世紀を古墳Ⅱ期、6世紀以降を古墳Ⅲ期と呼称した(図1、表1)。

細分の結果、式土器2期に該当する遺構はSI-4・SI-25、式土器3期に該当する遺構はSI-2・SI-18、古墳Ⅰ期に該当する遺構はSI-3・SI-9・SI-12・SI-13・SI-16・SI-22、古墳Ⅱ期に該当する遺構はSI-1・SI-5・SI-8・SI-10・SI-11・SI-15・SI-17・SI-21・SI-24・SI-26、古墳Ⅲ期に該当する遺構はSI-23・SZ-1という時期を推定した。

しかし、同一時期区分にあっても重複関係、出土遺物において明らかに時間差が認められるものもある。例えば古墳Ⅰ期に該当するSI-9とSI-13は出土遺物による判断は難しいが、土層断面においてSI-13が新しいことは明らかであり、古墳Ⅱ期に該当するSI-10・SI-11は土層断面においても、出土遺物においてもSI-10は4世紀後半、SI-11は5世紀と明確な時間差が認められる。とは言え、幅の狭い調査区に於て全体を把握できた遺構は一つもなく、出土遺物からさらに細分された時期を特定し得る遺構は少ない。変わって、出土遺物による時期判断が難しい遺構の内、SD-2はⅣ層(As-C含有層)下から掘り込まれ、形状規模が引間Ⅳ遺跡のSM1に類似し、SD-9はSI-17(4世紀)を切り、規模形状が引間遺跡の2溝に類似している。それぞれ類似する溝の走向が異なるが、いずれも古墳時代前期の環濠的色彩を持つ溝との見解が示されており、SD-2・9とも期的には符合する範囲に含まれている。

また、加えて時期区分にあたり大きな指標となり得るのがAs-Cの存在であり、As-C拡充の畝状遺構下に確認されたSI-2・3・4は重要である。SI-2・SI-4は弥生時代後期に属し問題とするところはないが、SI-3については他の古墳Ⅰ期に時期区分した遺構がAs-C含有層を掘り込んで構築されており、明確な時間差があることは容易に判断できる。しかし、本調査では遺構の全容が把握できていないこともあり、大雑把な時期区分として古墳時代前期を式土器系土器の有無で区分けしたのみで、土器要素からAs-Cを指標とする明確な時間差を示すことはできなかった。ただし、相対的印象としては式土器系土器と外來系土器との比率に違いが認められ、As-C下のSI-3は他遺構に比べ式土器系の比率が高い傾向が窺える。つまり、SI-3は若狭氏が式土器の崩壊過程において指示するⅠ段階に、他はⅡ・Ⅲ段階に別れることが想定される。

いずれにしても、周辺遺跡を含め鳥川右岸段丘下段面に弥生時代から古墳時代中期にかけて広範囲に亘る大規模集落、集落群が展開し、6世紀に入って集落が縮小すること、同時に丘陵部、段丘上段面にあった古墳が段丘下段面にも築造されるようになることが認められたことは貴重な成果であり、特に火山灰(As-C)の年代観と出土遺物の年代観において比較できる資料が提示できたことは大きな成果である。

註1. 若狭 徹 1996「群馬地域」『YAY! (やいっ!)』弥生土器を語る会、1990「群馬県における弥生土器の崩壊過程」『群馬考古学手帳 Vol.1』を参考にした。

註2. 若狭 徹 1990「群馬県における弥生土器の崩壊過程」『群馬考古学手帳 Vol.1』

※ 参考文献

神部 聖語、他 1979「引間遺跡」高崎市教育委員会

舘貫 説次郎 1997「上登岡引間Ⅳ遺跡」高崎市道路調査会

矢島 博文、武部善充 1997「引間Ⅴ遺跡」高崎市道路調査会

入澤 雪絵、加部 二生 2000「群馬県地域における弥生時代後期の概要」『東日本弥生時代後期の土器編年(第1分冊)』東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会、福島県立博物館

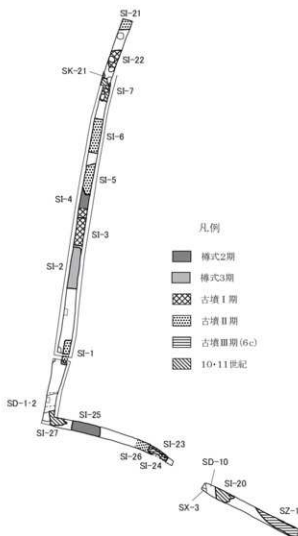
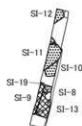
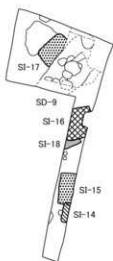


図1. 時期別推定図

表1. 時期別推定表

推定時期	様式2期	様式3期	古墳1期	古墳Ⅱ期	古墳Ⅲ期	10・11c
重複遺構	SI-4 SI-4 SI-19	→ → → SI-9	SI-3 → → SI-13	SI-5 → SI-8 SI-10 → SI-11 SI-15	→	SI-14
		SI-18 SX-2 (時期不明)	→ SI-16 → SI-17	→ SI-17 → SI-23	→ SI-9 (As-B 降下以前)	
			SI-26・SI-24			
その他の遺構	SI-25	SI-2	SI-12 SI-22	SI-1 SI-6 SI-21	SZ-1	SI-7 SI-20 SI-27
		竪状遺構	→ SI-2	→		

※ 推定時期は出土遺物から検討した。



47



52



53



63

SI-2

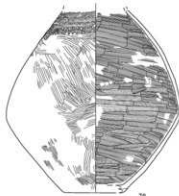


65



66

SI-3



78



80



88



89



81



98



101

SI-4

As-C 出土遺物

VII 自然科学分析

株式会社 火山灰考古学研究所 早田 勉

I. 引間VI遺跡の土層とテフラ

1. はじめに

関東平野北西部に位置する高崎市とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、榛名や浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山さいせつぶつ^{せきさいぶつ}砕屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている指標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようにしている。

そこで、発掘調査の際に、層位や年代が不明な土層や遺構が検出された高崎市引間遺跡（第6次調査）においても、地質調査を行って土層層序を記載するとともに、採取した試料を対象にテフラ検出分析と屈折率測定を行って指標テフラの層位を把握し、土層や遺構の層位や年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、基本土層断面1、ウネ1下地点、ウネ4下地点、3号住居址覆土、5号住居址覆土、調査区南壁北部谷埋土、調査区北壁北部谷埋土の7地点である。

2. 土層の層序

(1) 基本土層断面1

基本土層断面1では、引間VI遺跡の標準的な土層断面を観察できた（図1）。ここでは、下位より少し円磨された白色軽石を含む灰色泥流堆積物（層厚61cm、軽石の最大径28mm、礫の最大径上部108mm、上部36cmでは軽石が比較的少ない）、灰色土（層厚8cm）、黄灰色土（層厚22cm）、暗灰褐色土（層厚18cm）、黒灰褐色土（層厚17cm）、灰色軽石を含む黒灰褐色土（層厚19cm、軽石の最大径5mm）、若干黄色をおびた灰褐色土（層厚6cm）、灰褐色土（層厚14cm）、若干色調が暗い灰褐色砂質土（層厚20cm）、灰褐色作土（層厚33cm）が認められる。

これらのうち上位より2層目の若干色調が暗い灰褐色砂質土中には、層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B、荒牧、1968、新井、1979）に由来するテフラ粒子が多く含まれていると考えられる。

(2) ウネ1下地点

住居址が認められたウネ1下地点では、構式土器を伴う住居の床面の上位に、下位より炭化物混じり黒色土（層厚16cm）、焼土混じり暗灰褐色土（層厚16cm）、炭化物混じり黒灰褐色土（層厚16cm）、砂混じりで若干色調が明るい黒灰褐色土（層厚9cm）、正の級化構造をもつ灰色軽石層（層厚4cm、軽石の最大径9mm、石質岩片の最大径3mm、畠のサク状遺構の埋積層）、若干色調が明るい黒灰褐色土（層厚29cm）、砂混じり黄褐色土（層厚3cm）、褐色を帯びた灰褐色土（層厚3cm）、灰褐色土（層厚14cm）、少し色調が暗い灰褐色砂質土（層厚12cm以上）が認められる（図2）。

これらのうち最上位の若干色調が暗い灰褐色砂質土中には、層相からAs-Bに由来するテフラ粒子が多く含まれていると考えられる。

(3) ウネ4下地点

石田川式土器を伴う住居址が認められたウネ4下地点では、下位より色調がとくに暗い暗灰褐色土（層厚5cm、軽石の最大径19mm、石質岩片の最大径2mm）と、上部の桃色粗粒火山灰層（層厚5cm）からなる。

(4) 3号住居址覆土

石田川式土器を伴う住居址が認められた3号住居址覆土の断面では、掘り方の上位に、下位より黄色土ブロック混じり暗灰褐色土（最大径層厚6cm）、赤色焼土（最大層厚6cm）、赤色焼土ブロック混じり暗灰褐色土（最大層厚4cm）からなる貼り床構成層が認められた（図4）。床面の上位には、下位より炭化物混じり暗灰褐色土（層厚18cm）、成層したテフラ層のブロック（層厚 9.6cm、畠のサク状遺構の埋積層）、灰白色軽石混じりで色調がとくに暗い暗灰褐色土（層厚 28cm 以上、軽石の最大径6mm）が認められた。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より正の級化構造をもつ灰白色軽石層（層厚6cm、軽石の最大径12mm、石質岩片の最大径3mm）と桃灰色粗粒火山灰層（層厚 0.6cm）からなり、その上位に暗灰褐色土ブロック混じり灰白色軽石層（層厚3cm、軽石の最大径7mm）が認められる。

(5) 5号住居址覆土

和泉式土器を伴う5号住居址では、下位より若干色調が明るい黒灰褐色土（層厚 10cm 以上）、白色軽石を多く含む灰色砂層（層厚4cm）、わずかに黄色がかった灰色土（層厚4cm）、灰褐色土（層厚 15cm）、色調が少し暗い灰褐色砂質土（層厚 13cm）が認められる。これらのうち、最上位の色調が少し暗い灰褐色砂質土中には、層相からAs-Bに由来するテフラ粒子が多く含まれていると考えられる。

(6) 調査区南壁北部谷埋土

調査区南壁北部谷埋土では、少し円磨された灰色泥流堆積物をきって形成された谷の埋積層を観察できた。谷は、下位より垂円礫層（層厚 20cm 以上、礫の最大径 182mm）、黒灰褐色粘質土（層厚 34cm）、暗灰褐色土（層厚 16cm）、色調がとくに暗い暗灰褐色土（層厚 17cm）、暗灰褐色土（層厚 93cm）、炭化物を含む暗灰褐色土（層厚 7cm）、上部にブロック状に桃色砂質細粒火山灰層を含む黄灰色粗粒火山灰層（層厚 20cm）、青灰色砂質細粒火山灰層（層厚3cm）、暗灰褐色砂質土（層厚 16cm）、砂混じり暗灰褐色土（層厚 50cm）、わずかに灰色がかった白色軽石混じり灰褐色土（層厚 16cm、軽石の最大径8mm）で埋められている。

これらのうち、上部にブロック状に桃色砂質細粒火山灰層を含む黄灰色粗粒火山灰層は、層相からAs-Bの再堆積層と考えられる。またそのすぐ上位の青灰色砂質細粒火山灰層は、層相から1128（大治3）年に浅間火山から噴出したと推定されている浅間柏川テフラ層（As-Kk、早田，1991、早田，2004）に同定される。さらに最上位の灰褐色土中に含まれるわずかに灰色がかった白色軽石は、層位や岩相などから1783（天明3）年に浅間火山から噴出した浅間A軽石（As-A、荒牧，1968、新井，1979）に由来すると考えられる。

(7) 調査区北壁北部谷埋土

調査区北壁北部谷埋土では、調査区南壁北部谷埋土のAs-Bの一次堆積層を観察できた（図7）。ここでは、下位より暗灰褐色土（層厚5cm 以上）、成層したテフラ層（層厚 22.4cm）、砂混じり暗灰褐色土（層厚5cm）、青灰色砂質細粒火山灰層（層厚4cm）、成層した桃灰色シルト層（層厚 32cm）、青灰色シルト層（層厚1cm）、黄白色シルト層（層厚8cm）、暗灰褐色土（層厚2cm 以上）が認められた。

これらのうち、成層したテフラ層は、下位より褐色粗粒軽石（最大径19mm）を含む灰白色粗粒火山灰層（層厚1cm）、灰色細粒軽石層（層厚3cm、軽石の最大径4mm、石質岩片の最大径2mm）、桃色粗粒火山灰層（層厚3cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚 0.4cm）、黄灰白色粗粒火山灰層（層厚2cm）、暗灰色粗粒火山灰層（層厚1cm）、黄灰白色細粒軽石層（層厚4cm、軽石の最大径3mm）、成層した暗灰色粗粒火山灰層（層厚4cm）、桃色砂質細粒火山灰層（層厚4cm）からなる。このテフラ層は、層相からAs-Bに同定される。一方、その上位の青灰色砂質細粒火山灰層は、層位や層相からAs-Kkに同定される。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

調査地点において採取された試料のうち、基本土層断面1、ウネ1下地点、3号住居址覆土、5号住居址覆土の4地点の試料のうち、14点を対象にテフラ検出分析を行い、軽石や火山ガラスなどテフラ粒子の特徴やその産出状況の把握を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料 10g を秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80℃ で恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下でテフラ粒子の量や特徴を観察。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。基本土層断面1では、軽石が認められた土層から採取された試料 17 から、スポンジ状に良く発泡した灰白色軽石やその細粒物である灰白色軽石型ガラスが比較的多く検出された。この軽石の斑品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また、ほかに発泡がさほど良くない白色軽石型ガラスも少量含まれている。As-B に由来する粗粒火山灰を多く含むと考えられた試料 11 には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径 5.4mm）や、その細粒物である淡褐色軽石型ガラスが多く含まれている。

ウネ1下地点では、とくに試料 10 より上位で軽石が認められる。このうち試料 10 から試料2にかけては、スポンジ状に良く発泡した灰白色軽石やその細粒物である灰白色軽石型ガラスが認められ、それらはとくに試料9の軽石層に多く含まれている。この軽石の斑品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。試料2には、このタイプのテフラ粒子のほかに、発泡がさほど良くない白色軽石（最大径 7.6mm）や、その細粒物である白色の軽石型ガラスも比較的多く含まれている。軽石の斑品には、角閃石や斜方輝石が認められる。さらに試料1には、比較的良く発泡した淡褐色軽石（最大径 4.8mm）や、その細粒物である淡褐色軽石型ガラスが多く含まれている。この軽石の斑品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。

3号住居址覆土の試料の中では、とくに試料1の成層したテフラ層中に、スポンジ状に良く発泡した灰白色軽石やその細粒物である灰白色軽石型ガラスがとくに多く含まれている。この軽石の斑品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また試料5には、スポンジ状に良く発泡した白色軽石や、その細粒物の白色軽石型ガラス、さらに灰色や透明の分厚い中間型ガラスなどが含まれている。

5号住居址覆土の試料1には、スポンジ状に良く発泡した灰白色軽石やその細粒物である灰白色軽石型ガラスが比較的多く含まれている。この軽石の斑品には、斜方輝石や単斜輝石が認められる。また、ほかに斑品に角閃石をもつ白色軽石型ガラスも少量含まれている。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

テフラ検出分析の対象となった試料のうち、ウネ1下地点の試料9および3号住居址覆土の試料1の2試料に含まれる軽石のガラス部について、実体顕微鏡下でハンドピッキングの後に軽く粉砕して、温度変化型屈折率測定装置（古澤地質社製 MAIOT）により、火山ガラスの屈折率（ n ）の測定を実施した。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表2に示す。ウネ1下地点の試料9に含まれる軽石のガラス部の屈折率は、1.516-1.520（30 粒子）、3号住居址覆土の試料1に含まれる軽石のガラス部の屈折率は、1.514-1.518（28 粒子）である。

5. 考察

ウネ1下地点の試料9および3号住居址覆土の試料1の2試料が採取されたサク状遺構を覆うテフラ層は、とくに含まれる軽石の岩相、斑晶鉱物の組み合わせ、火山ガラスの屈折率などから、4世紀初頭に浅間火山から噴出したと推定されている浅間C軽石 (As-C, 荒牧, 1968, 新井, 1979, 友廣, 1988, 若狭, 2000) に同定される。したがって、基本土層断面1の試料17に含まれるような灰白色軽石や灰白色軽石型ガラスについても、As-Cに由来する可能性が高い。

また、ウネ1下地点の試料1付近に含まれる白色軽石は、岩相や斑晶鉱物の組み合わせから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名ニツ岳洪川テフラ (Hr-FA, 新井, 1979, 坂口, 1986, 早田, 1989, 町田・新井, 1992) に由来すると考えられる。5号住居址の試料1に、As-C起源のテフラ粒子のほかになぜか含まれる白色粗粒火山灰についても、岩相や斑晶鉱物などから、本テフラあるいは5世紀に榛名火山から噴出した榛名有馬テフラ (Hr-AA, 町田ほか, 1984) に由来すると思われる。

さらに、基本土層断面の試料11やウネ1下地点の試料1などに特徴的に含まれる淡褐色軽石やその細粒物である淡褐色の軽石型ガラスについては、岩相や火山ガラスの屈折率などから、As-Bに由来すると考えられ、層相からの同定を支持する。

以上のことから、ウネ1下地点で検出された樽式土器を伴う住居址や、石田川式土器を伴うウネ4下地点および3号住居址については、明らかにAs-Cより下位にあると考えられる。そして、これらの住居が廃棄された後、埋土上で農作が行われたようで、As-Cにより埋没したサク状遺構がそれらの上位に認められる。

なお、今回の分析では、3号住居址床面直上の試料5からスポンジ状によく発泡した白色軽石や白色の軽石方ガラスが少量検出された。これらのテフラ粒子に関しては、基盤にあたる下位の泥流堆積物に由来する可能性が高いと思われるが、今回のように保存状況の良い遺構などでは注意して覆土を観察分析しておく必要があろう。基盤の泥流堆積物については、本遺跡の位置から、高崎台地とその周辺でよく高崎泥流堆積物と呼ばれている泥流堆積物 (新井ほか, 1993, 中村, 2004) に相当するらしい。

6. まとめ

高崎市引間遺跡 (第6次調査) において、地質調査とテフラ検出分析さらに火山ガラスの屈折率測定を実施した。その結果、下位より浅間C軽石 (As-C, 4世紀初頭)、榛名ニツ岳洪川テフラ (Hr-FA, 6世紀初頭)、浅間Bテフラ (As-B, 1108年)、浅間A軽石 (As-A, 1783年) などのテフラ層やテフラ粒子を検出できた。その結果、樽式土器と石田川式土器をそれぞれ伴う住居址は、いずれもAs-Cより下位にあることが明らかになった。また、それらの遺構の覆土中にあるサク状遺構はAs-Cにより埋没していることも判明した。

文献

- 新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層, 考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.
新井雅之・矢口裕之・早川由紀夫・中村正芳 (1993) およそ1万年前に発生した高崎泥流の分布と起源, 日本地質学会第100年学術大会 講演要旨.
荒牧重雄 (1968) 浅間火山の地質, 地研研報, no.45, 65p.
町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス, 東京大学出版会, 276p.
町田 洋・新井房夫 (2003) 新編火山灰アトラス, 東京大学出版会, 336p.
町田 洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫 (1984) テフラと日本考古学—考古学研究と関係するテフラのカタログ—, 古文化財 編集委員会編「古文化財に関する保存科学と人文自然科学」, p.865-928.
中村正芳 (2004) 高崎の台地をつくる地層, 高崎市史編さん委員会編「新編高崎市史 通史編1 原始古代」, p.73-101.
坂口 一 (1986) 榛名ニツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器, 群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群—荒砥青柳遺跡」, p.103-119.
早田 勉 (1989) 6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害, 第四紀研究, 27, p.297-312.
早田 勉 (1991) 浅間火山の生い立ち, 佐久考古通信, no.57, p.2-7.

早田 勉 (2004) 火山灰層年学からみた浅間火山の噴火史—とくに平安時代の噴火について—, かみつけの里博物館編「1108—浅間火山噴火—中世への胎動」, p.45-56.
 友廣哲也 (1988) 古式土師器出現期の様相と浅間山C軽石, 群馬県埋蔵文化財調査事業団編「群馬の考古学」, p.325-336.
 若狭 徹 (2000) 群馬の弥生土器が終わるとき, かみつけの里博物館編「人が動く土器も動く—古墳が成立する頃の土器の交流」, p.41-43.

表1 テフラ検出分析結果

地点名	軽石・スコリア			火山ガラス		
	試料	量	色調	最大径	量	形態 色調
基本土層断面1	11	**	淡褐	5.4	***	pm 淡褐
	17	**	灰白	3.5	**	pm 灰白> 白
ウネ1下	1	**	淡褐> 白	4.8,4.9	***	pm 淡褐, 灰
	2	**	白, 灰 白	7.6,4.6	**	pm 白, 灰 白
	9	***	灰白	12.1	**	pm 灰白
	10	*	灰白	3.1	*	pm 灰白
	14				*	pm 白, 透明
	18				*	pm 灰, 透明
3号住居址覆土	1	****	灰白	11.9	**	pm 灰白
	3				*	pm,md 灰 白, 灰
	5	*	白	3.2	*	pm,md 白, 灰, 透明
	6				*	pm,md 白, 灰, 透明
	8				*	pm,md 白, 透明
5号住居址覆土	1	**	灰白	5.4	**	pm,md 灰 白> 白

**** : とくに多い, *** : 多い, ** : 中程度, * 少ない. 最大径の単位は, mm.

bw : バブル型, md : 中間型, pm : 軽石型.

表2 火山ガラスの屈折率測定結果

地点名	試料	火山ガラスの屈折率屈折率 (n)	
		屈折率 (n)	測定粒子数
ウネ1下	9	1.516-1.520	30
3号住居址	1	1.514-1.518	28

屈折率の測定は, 温度変化型屈折率測定装置 (MAIOT) による.

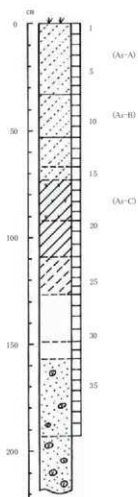


図1 基本土層断面の土層柱層図
数字はテフラ分析の資料番号

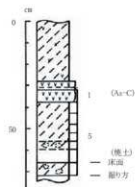


図4 3号住居址覆土の土層柱層図
数字はテフラ分析の資料番号

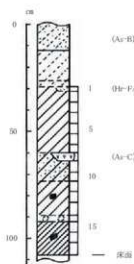


図2 ウネ1下地点の土層柱層図
数字はテフラ分析の資料番号

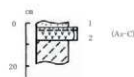


図3 ウネ1下地点(住居址覆土)の土層柱層図
数字はテフラ分析の資料番号

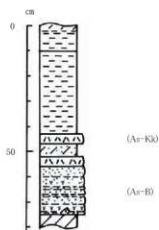


図7 調査区北壁北部谷埋土の土層柱層図(一部)
数字はテフラ分析の資料番号



図5 5号住居址覆土の土層柱層図
数字はテフラ分析の資料番号

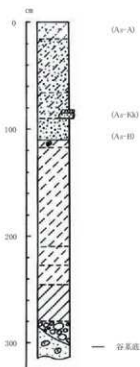


図6 調査区南壁北部谷埋土の土層柱層図
数字はテフラ分析の資料番号

II. 引間VI遺跡におけるプラント・オパール分析

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（ SiO_2 ）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとでも微化石（プラント・オパール）となって土壤中に半永久的に残っている。プラント・オパール分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネの消長を検討することで水田跡（稲作跡）の検証や探査が可能である（杉山，2000）。

2. 試料

分析試料は、As-C直下の畝状遺構が検出されたウネ1下地点、ウネ4下地点、ウネ5下地点、および5号住居址覆土の4地点から採取された計5点である。試料採取層位を分析結果図に示す。

3. 分析法

プラント・オパール分析は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）。
- 2) 試料約1gに対し直径約40 μm のガラスビーズを約0.02g添加（電子分析天秤により0.1mgの精度で秤量）。
- 3) 電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理。
- 4) 超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散。
- 5) 沈底法による20 μm 以下の微粒子除去。
- 6) 封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成。
- 7) 検鏡・計数。

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールを対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10～5g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山，2000）。

4. 分析結果

稲作跡の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ムギ類（穎の表皮細胞）、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科の主要な6分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

(1) 稲作跡の検討

稲作跡の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、畑稲作（陸稲栽培）の場合は、連作障害や地力の低下を避けるために輪作を行ったり休閑期間をおく必要があるため、イネの密度は水田跡と比較してかなり低くなり、1,000～2,000個/g程度である場合が多い（杉山，2000）。

1) ウネ1下地点・ウネ4下地点・ウネ5下地点

As-C 直下の畠状遺構から採取された3点について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。密度は 700 ～ 1,500 個 /g と比較的低い値であるが、それぞれ直上をテフラ層で覆われていることから、上層から後代のものが混入した可能性は考えにくい。したがって、As-C 直下の畠状遺構では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

2) 5号住居址覆土地点

As-B 直下層（試料1）および最下層（試料2）について分析を行った。その結果、両試料からイネが検出された。このうち、As-B 直下層（試料1）では密度が 10,200 個 /g とかなり高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

最下層（試料2）では密度が 700 個 /g と低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、および上層や他所からの混入などが考えられる。

(2) イネ科栽培植物の検討

プラント・オバール分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型（ヒエが含まれる）などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

6. まとめ

プラント・オバール分析の結果、As-C 直下の畠遺構では、すべての試料からイネが検出され、同遺構で稲作が行われていたことが分析的に確認された。また、5号住居址覆土地点の As-B 直下層では、イネが多量に検出され、稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、同地点の最下層でもイネが検出され、稲作が行われていた可能性が認められた。

文献

- 杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オバール）、考古学と植物学、同成社、p.189-213。
藤原宏志（1976）プラント・オバール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法—、考古学と自然科学、9、p.15-29。
藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オバール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オバール分析による水田址の探索—、考古学と自然科学、17、p.73-85。

表1 引間VI遺跡におけるプラント・オパール分析結果

検出密度 (単位: $\times 100$ 個/g)

分類群	学名	ウネ1	ウネ4	ウネ5	5号住居址覆土	
		1	1	1	1	2
イネ	<i>Oryza sativa</i>	7	14	15	102	7
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	49	35	58	36	40
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	49	48	51	36	61
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i>	97	118	66	58	27

推定生産量 (単位: $\text{kg} / \text{m}^2 \cdot \text{cm}$) : 試料の仮比重を 1.0 と仮定して算出

イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.20	0.41	0.43	2.99	0.20
ヨシ属	<i>Phragmites</i>	3.07	2.18	3.68	2.29	2.55
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	0.60	0.60	0.63	0.45	0.75
タケ亜科	<i>Bambusoideae</i>	0.47	0.56	0.32	0.28	0.13

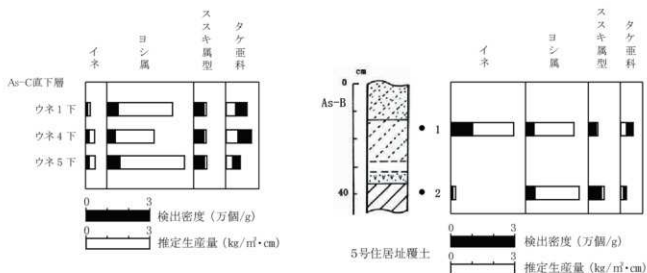
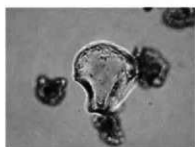


図1 引間VI遺跡におけるプラント・オパール分析結果

植物珪酸体（プラント・オパール）の顕微鏡写真



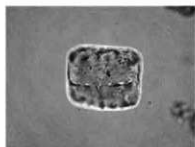
イネ



イネ



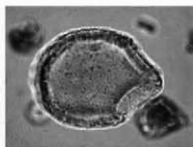
イネ



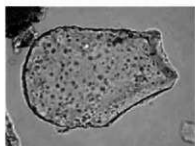
イネ (側面)



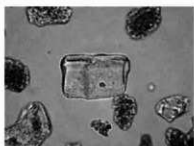
キビ族型



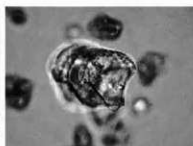
ヨシ属



ヨシ属



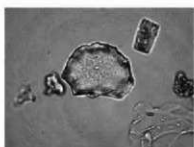
ススキ属型



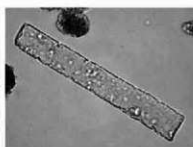
ネザサ節型



ネザサ節型



チマキザサ節型



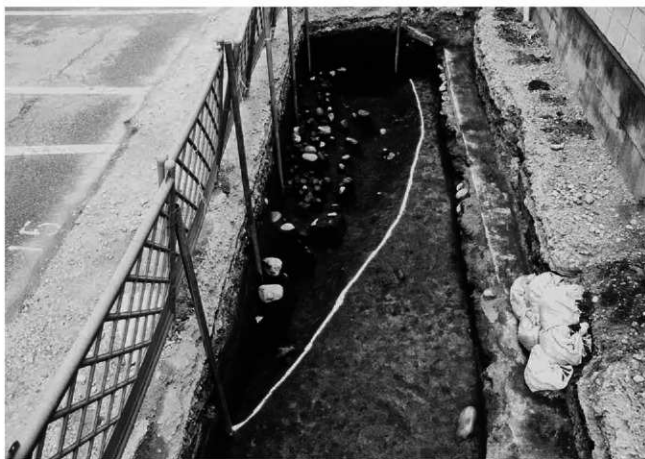
棒状珪酸体

50 μ m

写真図版



1号墳 西から



1号墳遺物出土状況 西から



1号墳遺物出土状況 西から



1号墳遺物出土状況 南から



1号墳遺物出土状況 南から



1号墳遺物出土状況



1号墳東拡張部 西から



遺跡全景（南西部）北から



遺跡全景（北部）北から



遺跡全景（北部）北から



1号住居 南から



1号住居 北西から



1号住居No. 41 出土状況 北西から



2号住居 南から



2号住居遺物出土状況 南から



2号住居掘り方 南から



3号住居 南から



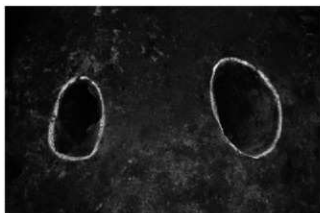
3号住居遺物出土状況 東から



3号住居炉 西から



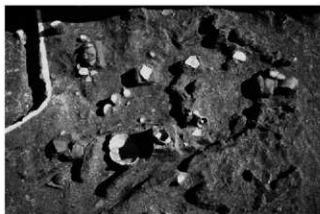
4・5号住居 南から



4号住居梯子穴? 南西へ



4号住居遺物出土状況 北西へ



4号住居遺物出土状況



4号住居No. 81 出土状況



4号住居遺物出土状況



5号住居 南へ



5号住居 P-1 南へ



5号住居 P-2 南へ



5号住居遺物出土状況 南から



5号住居遺物出土状況 南から



5号住居遺物出土状況 西から



5号住居遺物出土状況 西から



5号住居遺物出土状況 北から



6号住居 南から



6号住居掘り方 南から



7号住居、11～16号土坑 南から



7号住居石製品出土状況 北西から



8号住居 南から



8号住居遺物出土状況 南から



8号住居遺物出土状況 東から



8号住居遺物出土状況 西から



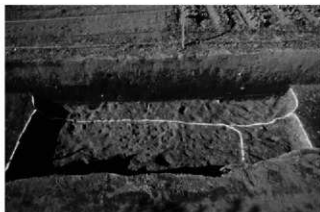
8号住居掘り方 南から



9-19号住居 東から



9号住居遺物出土状況 東から



9・19号住居掘り方 南から



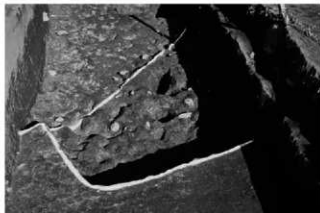
10・11号住居 南から



10・11号住居遺物出土状況 南から



10号住居 南から



10号住居掘り方 南から



11号住居 南から



11号住居遺物出土状況 南東から



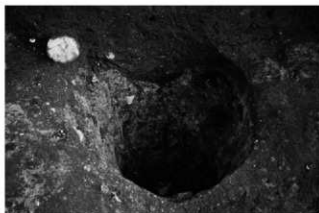
11号住居カマド付近遺物出土状況 南東から



11号住居カマド 南西から



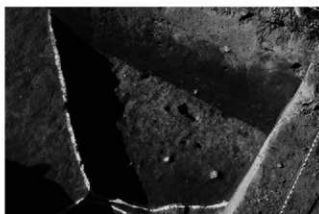
11号住居貯蔵穴付近遺物出土状況 東から



11号住居貯蔵穴 東から



11号住居掘り方 南から



12号住居 北西から



13号住居 南から



13号住居 南から



14号住居 南から



14号住居遺物出土状況 南から



14号住居かわらけ出土状況 東から



15号住居 南から



15号住居掘り方 南から



16・18号住居 南から



17号住居 南東から



17号住居掘り方 南から



20号住居 西から



20号住居カマド 西から



20号住居遺物出土状況 西から



20号住居カマド遺物出土状況 西から



20号住居掘り方 西から



21号住居 南から



21号住居遺物出土状況 南から



21号住居遺物出土状況 南から



21号住居遺物出土状況（北壁）南東から



21号住居掘り方 南から



22号住居 南から



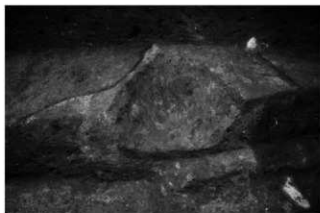
22号住居遺物出土状況 南から



22号住居遺物出土状況 東から



22号住居 南から



23号住居カマド 南から



24号住居 南から



24号住居貯蔵穴 南西へ



24号住居掘り方 西へ



25号住居 東へ



25号住居遺物出土状況 東へ



25号住居遺物出土状況 西へ



25号住居掘り方 南へ



26号住居遺物出土状況 東へ



26号住居遺物出土状況(南壁) 北へ



26号住居遺物出土状況 北から



27号住居 西から



27号住居カマド 西から



27号住居カマド 西から



27号住居掘り方 西から



集石遺構 北から



集石遺構断面 南から



1号土坑 東から



2号土坑 東から



6号土坑 西から



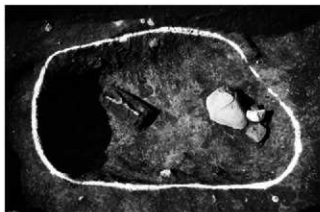
7号土坑 東から



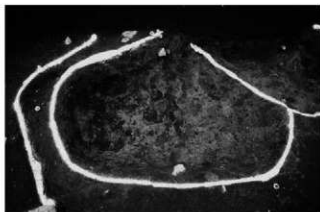
8号土坑 南から



9-10号土坑 西から



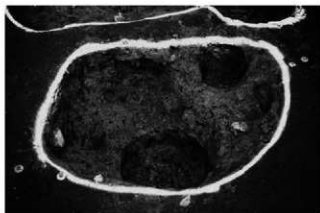
11号土坑遺物出土状況 東から



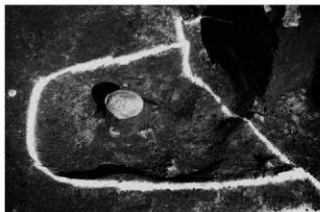
11号土坑 東から



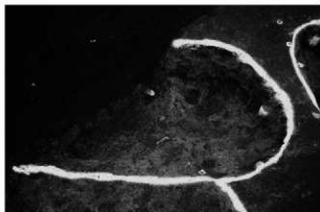
12号土坑遺物出土状況 北から



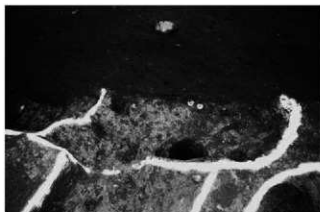
12号土坑 南から



13号土坑 南から



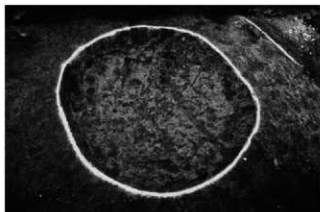
14号土坑 南東から



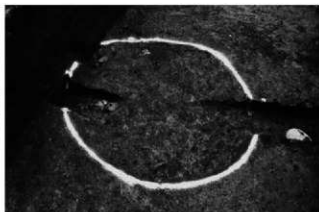
15号土坑 西から



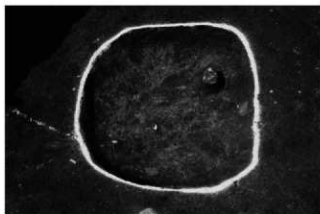
16号土坑 西から



17号土坑 南東から



18号土坑 南西から



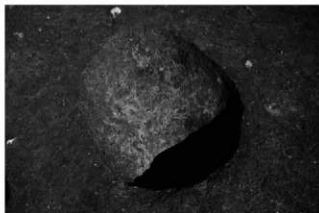
19号土坑 南西から



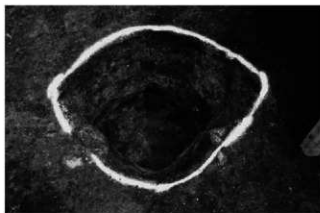
20・21号土坑 南から



1号ピット 東から



2号ピット 東から



3号ピット 南から



1・2号溝 南から



3-5号溝 (敵) 東向き



3-5号溝 (敵) 東向き



6号溝 東向き



9号溝、1～9号井戸 北向き



9号溝、1～9号井戸 東向き



9号溝、1~9号井戸 南から



10号溝 西から



9号溝、1号井戸土層断面 北から



2号不明遺構 東から



3号不明遺構 北から



表土掘削作業



遺構調査作業



遺物取上げ作業

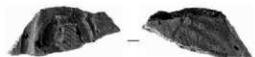




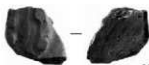
19



20



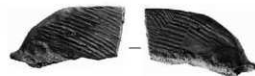
26



21



23



27



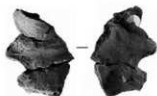
22



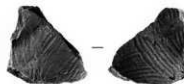
24



28



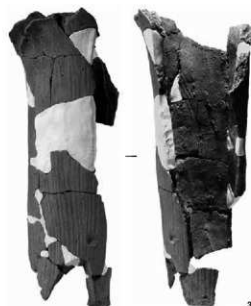
25



29



30



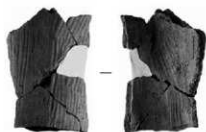
32



33



31



34



35

PL-22



36



38



37



39

SZ-1



41



40



43



42



44



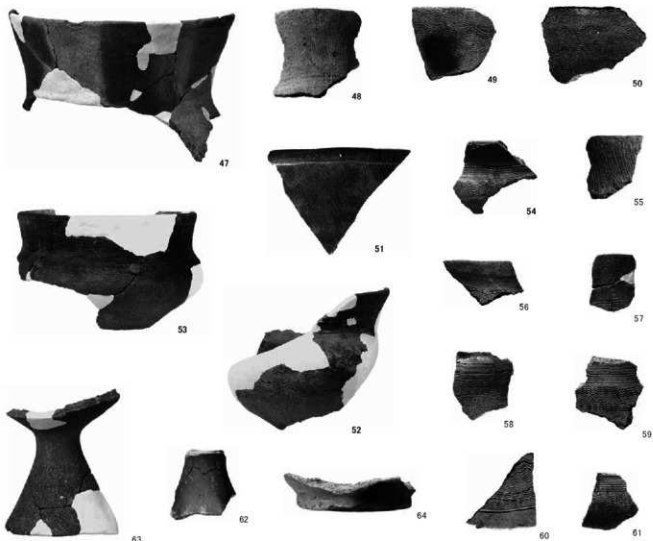
45



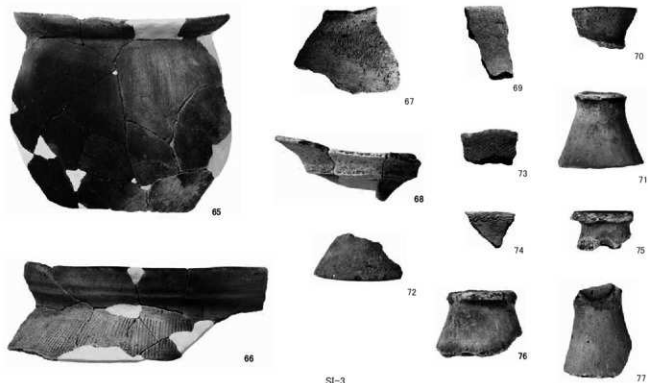
46

SI-1

PL-23



SI-2



SI-3

PL-24



78



79



80



81



84



83

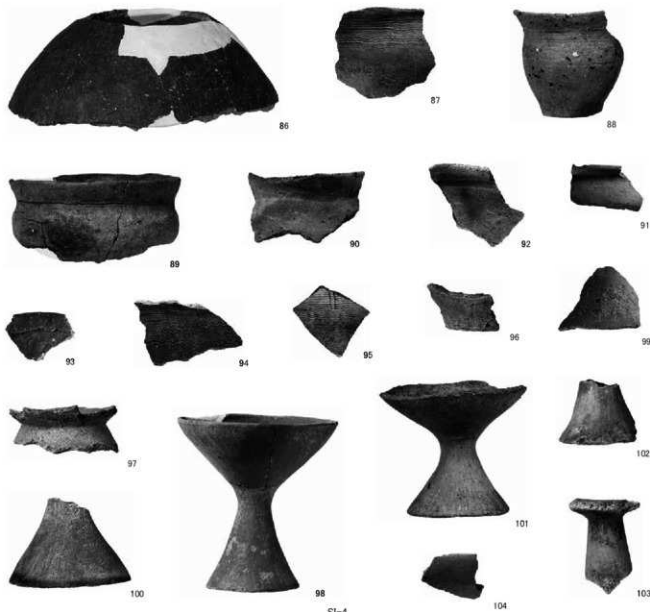


85

SI-4



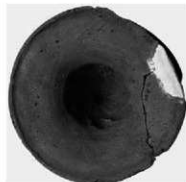
82



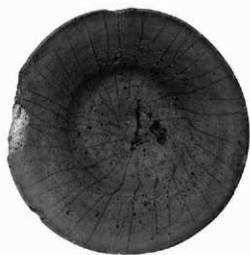
SI-4



SI-5



PL-27



119



124



125



126



127

SI-6



120



121



122



123

SI-5



128



129



130



131



132



133



134



135



136

SI-7

PL-28



137



138



139



140



143



141



142



144



149



145



146



148



147



151



153



154



150



152

SI-8



156



157



158

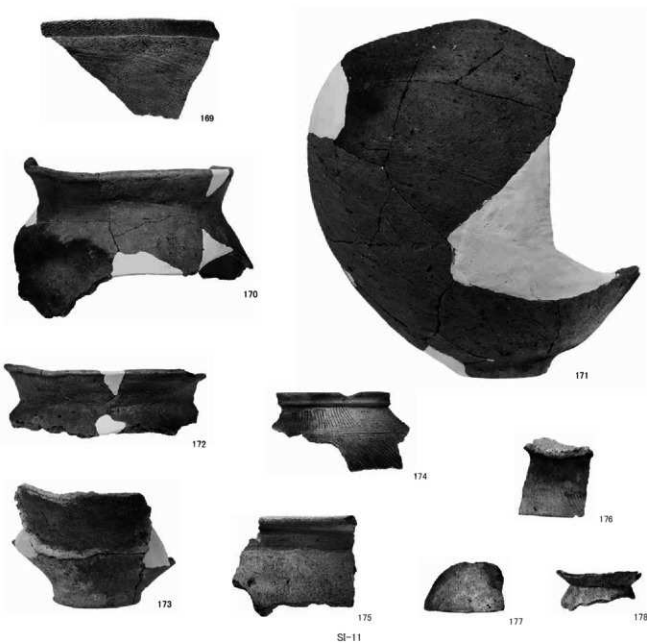
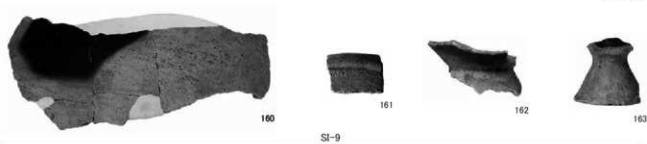
SI-13



159



155



PL-30



179



180



181



182



183



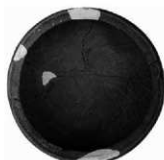
184



187



188



185



186



189

SI-11



190



201



195



203



191



192



193



194



197



199



196



200



198



202



204



205

PL-32



205

SI-11



208



207



209



210

SI-12



220



221



223



224



225



226



227



228



229



231

SI-15



211



212



213



214



215



216



217



218

SI-14



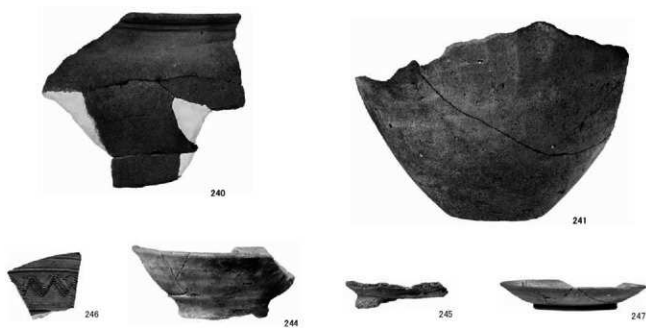
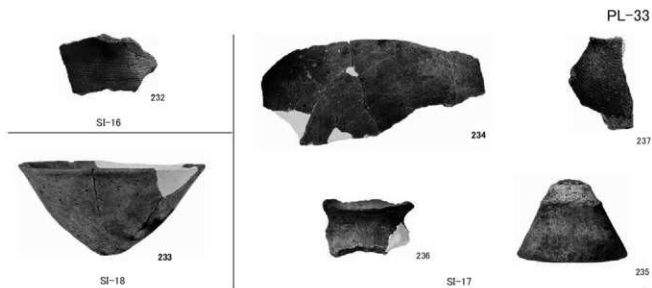
219



222

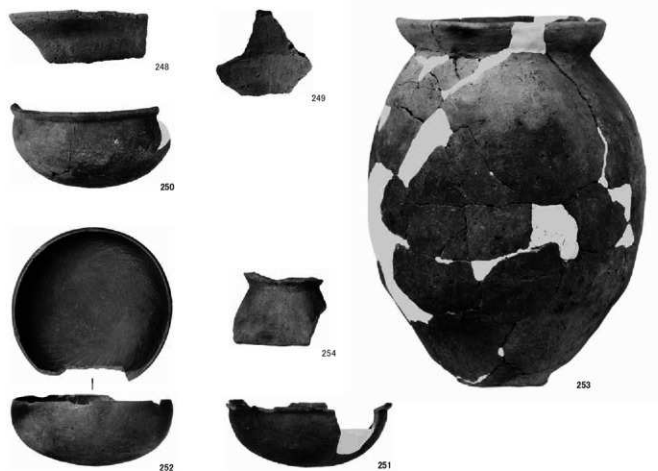


230



SI-20

PL-34



SI-21



SI-22



261



262



263

SI-23



264



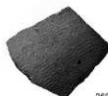
266



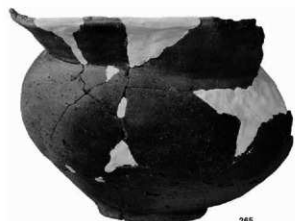
267



268



269



265

SI-24



271



276



277



272



273



274



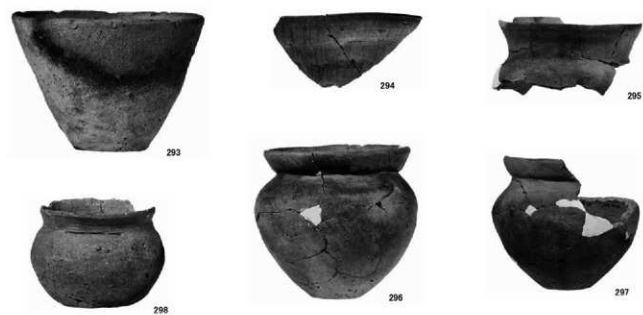
275

SI-25

PL-36



SI-25



SI-26



SI-26



PL-38



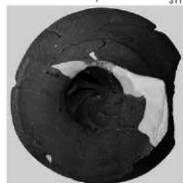
310



314



311



313



SI-26



315



316



317

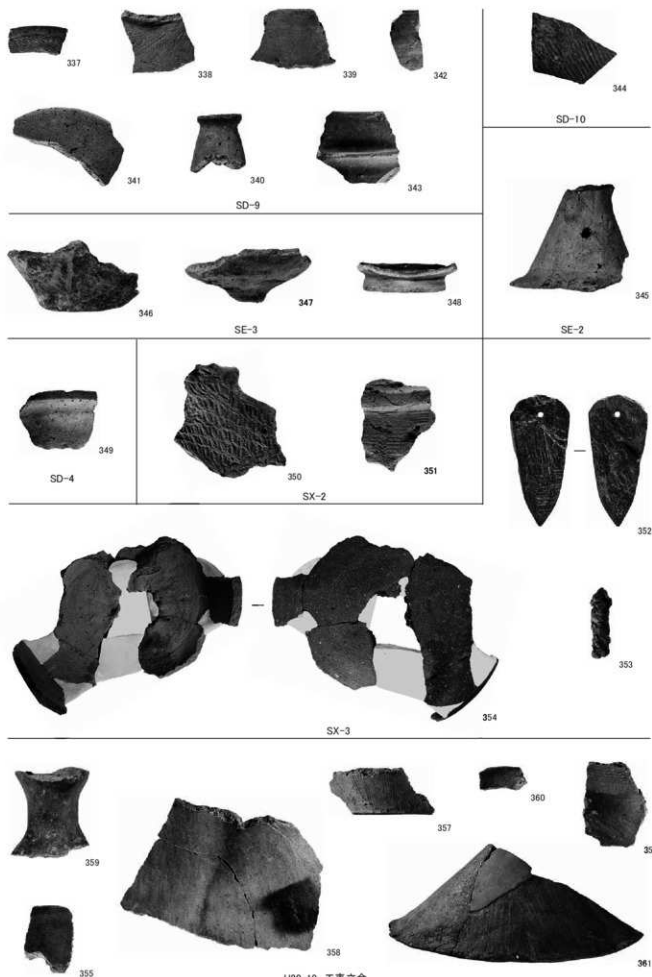


カマド手前出土の切り石

SI-27



PL-40





362



364



365



366



369



367



368



370



363

遺構外出土遺物

報告書抄録

フリガナ	カミトヨオカヒキマイセキ		
書 名	上豊岡引間遺跡 6		
副 書 名	東京ガス埋設工事建設に伴う埋蔵文化財発掘調査		
シ リ ーズ	高崎市文化財調査報告書	巻 次	第 263 集
編 著 者	田口一郎・笠原仁史		
編集機関	高崎市教育委員会		
所 在 地	〒 370-8501 群馬県高崎市 35 番地 1 TEL 027-321-1292		
発 行 日	西暦 2010 年 (平成 22 年) 2 月 25 日		

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調 査	調 査
		市町村	遺跡	(° ' ")	(° ' ")		面積	原因
カミトヨオカヒキマイセキ 上豊岡引間 遺跡 (第 6 次調査)	カミトヨオカヒキマイセキ 高崎市上豊岡 町 982 番地先 ～ 1190 番地先	102020	15-3	36° 20' 31"	138° 58' 23"	20090924 ～ 20091121 20100820 ～ 20100918	875 m ²	ガス管 埋設工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上豊岡引間 遺跡 (第 6 次調査)	集落	弥生時代 古墳時代 平安時代	住居 古墳・住居・土坑・溝・ 畝状遺構 住居	樽式土器 埴輪・土師器・須恵器・ 石製模造品・鉄製品 土師器・須恵器	As-C 下の住居 弥生時代後期から古墳時代にか けての集落変遷

要約	弥生時代後期 (樽式) から古墳時代前期を中心とする集落跡で、他の烏川右岸の段丘に分布する引間遺跡 I ～ V とはほぼ同一時期・内容の遺跡である。単なる関連性を持つ隣接遺跡ではなく、段丘面に広範囲に渡って展開する大集落、集落群が考えられる。
----	---

高崎市文化財調査報告書 第263集

上 豊 岡 引 間 遺 跡 6

—東京ガス埋設工事建設に伴う埋蔵文化財発掘調査—

平成22年2月20日 印刷

平成22年2月25日 発行

発行／高崎市教育委員会

〒370-8501 群馬県高崎市高松町35番地1

高崎市教育委員会内

電話 027-321-1292

印刷／朝日印刷工業株式会社

